

原子力発電所周辺環境放射能測定結果

(令和2年度 第1四半期)

福島県

目次

第1	測定結果の概要	1
第2	測定項目	9
第3	測定方法	15
第4	測定結果	
4-1	空間放射線	
4-1-1	空間線量率	25
4-1-2	空間積算線量	26
4-2	環境試料	
4-2-1	大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能	27
4-2-2	環境試料中の核種濃度（ガンマ線放出核種）	28
4-2-3	環境試料中の核種濃度（ベータ線放出核種）	31
4-2-4	環境試料中の核種濃度（アルファ線放出核種）	32
第5	原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表	
5-1	空間放射線	
5-1-1 (1)	空間線量率	35
5-1-1 (2)	空間線量率（比較対照地点）	38
5-1-2	空間積算線量	39
5-2	環境試料	
5-2-1	大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能	42
5-2-2 (1)	大気浮遊じんの核種濃度	44
5-2-2 (2)	大気浮遊じんの核種濃度（比較対照地点）	48
5-2-3 (1)	大気中水分のトリチウム濃度	49
5-2-3 (2)	大気中水分のトリチウム濃度（比較対照地点）	50
5-2-4 (1)	降下物の核種濃度	51
5-2-4 (2)	降下物の核種濃度（比較対照地点）	52
5-2-5 (1)	環境試料中の核種濃度	53
5-2-5 (2)	環境試料中の核種濃度（比較対照地点）	56
5-3	試料採取時の付帯データ集	57
第6	参考資料	
6-1	福島第一原子力発電所における地下水バイパス水等の海域への排出に伴う 海水モニタリング結果（公表資料）	58

必要に応じて、福島県原子力安全対策課のホームページに掲載している原子力用語集をご活用下さい。

○URL

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16025c/genan183.html>

○または、

福島県原子力安全対策課トップページ → 参考資料 → 原子力用語集

この報告書は、令和2年9月16日に開催された「福島県原子力発電所の廃炉に関する安全監視協議会 環境モニタリング評価部会」において、令和2年度第1四半期（令和2年4月～令和2年6月）の調査結果について検討された内容を取りまとめたものです。

第 1 測定結果の概要

福島県が令和 2 年度第 1 四半期（令和 2 年 4 月～令和 2 年 6 月）に実施した原子力発電所周辺の環境放射能測定結果は以下に示すとおりです。東京電力㈱福島第一原子力発電所の事故による影響を受けた空間線量率については事故前の測定値の範囲を上回り、環境試料については一部を除いて事故前の測定値の範囲を上回っています。しかし、これらは、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

1 空間放射線

- 空間線量率について、今期の測定値（月間平均値 0.044～4.37 $\mu\text{Gy/h}$ ）は、事故前の測定値の範囲（月間平均値 0.033～0.054 $\mu\text{Gy/h}$ ）を上回っていますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。
- 空間積算線量（90日換算値）については、今期の測定値（0.16～16 mGy）は、事故前の測定値の範囲（0.10～0.14 mGy）を上回っていますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

2 環境試料の核種濃度

- 大気浮遊じん、降水物、土壌、海水、海底土及び松葉の 6 品目の試料からセシウム-134 及びセシウム-137 が検出され、上水の試料からはセシウム-137 が検出されました。事故の影響により多くの試料で事故前の測定値の範囲を上回りましたが、事故直後と比較すると大幅に低下しており、前四半期と比較すると概ね横ばい傾向^{*1}にあります。

土壌の双葉町郡山の地点でコバルト-60 が検出（2.2Bq/kg 乾）されましたが、セシウム-137 との放射能濃度比が当該地点でこれまで検出されたコバルト-60 と同程度であることから、原子力発電所からの新たな放出によるものではないと考えられます。また、いわき市川部町の地点でアンチモン-125 が検出（10Bq/kg 乾）されましたが、平成 26 年度から前四半期までの測定値（ND～28Bq/kg 乾）の範囲内でした。なお、アンチモン-125 が検出された理由は、平成 28 年度から従来まで実施してきた文部科学省放射能測定シリーズに定められた分析を再開し、測定時間を長くしたことでより低濃度まで測定できるようになったためと考えられます。

上水の一部（水源は表流水）からセシウム-137 が検出（0.001～0.028Bq/L）されています。この値は、食品中の放射性セシウムの基準値のうち、飲料水の基準値である 10Bq/kg（10Bq/L）を大きく下回っています。

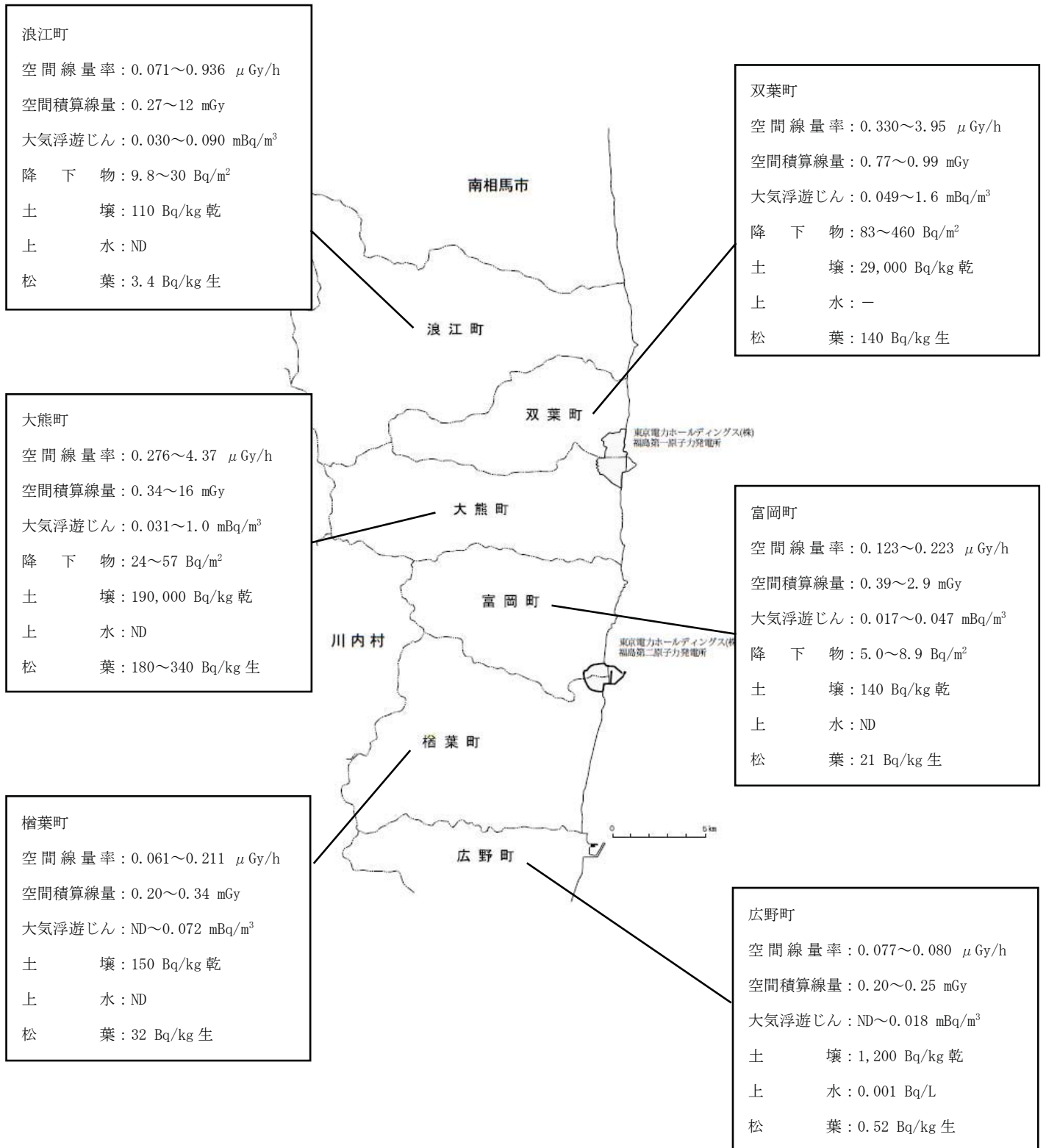
- 大気中水分及び海水の試料からトリチウムが検出されました。大気中水分試料のトリチウム検出値は、富岡町富岡、大熊町夫沢、双葉町郡山の地点で事故前の測定値の範囲を上回りましたが、調査を再開した平成 30 年度から前四半期までの測定値（富岡町富岡：ND～14 mBq/m³、大熊町夫沢：16～64mBq/m³、双葉町郡山：5.1～56mBq/m³）の範囲内でした。
- 土壌、海水及び海底土の試料からストロンチウム-90 が検出されましたが、事故直後と比較すると大幅に低下しており、前四半期の測定値と比較すると概ね横ばい傾向にあります。
- 土壌の試料からウラン-234（3.2～28Bq/kg 乾）、ウラン-235（0.35～1.6Bq/kg 乾）及びウラン-238（3.1～35Bq/kg 乾）が検出されました。いずれの核種の放射能比も天然ウランの放射能比^{*2}と同程度であり、ウラン濃度は国内の調査事例^{*3}と同程度でした。このことから土壌中のウランは天然ウランに由来するものと考えられます。
- 土壌の双葉町郡山の試料からプルトニウム-238 が検出（0.05Bq/kg 乾）され、事故前の測定値の

範囲（ND～0.03Bq/kg 乾）を上回りましたが、平成 26 年度から前四半期までの測定値（ND～0.09Bq/kg 乾）の範囲内でした。土壌、海水及び海底土の試料からプルトニウム-239+240 が検出されましたが、事故前の測定値の範囲内でした。

- ※1 セシウム-134 は原発事故からの時間経過により大きく減衰しているため、長期的な傾向については、セシウム-137 に着目することとしております。
- ※2 天然ウランの放射能比（ウラン-234：ウラン-235：ウラン-238=1：0.047：1）出典：文部科学省発行 放射能測定法シリーズ No.14 ウラン分析法
- ※3 平成 25 年度から平成 30 年度に鳥取県の水田又は畑地において実施されたウラン濃度の調査結果（ウラン-234：12～40Bq/kg 乾、ウラン-235：0.42～15Bq/kg 乾、ウラン-238：10～44Bq/kg）（環境放射線データベース（URL：<https://search.kankyo-hoshano.go.jp/top.jsp>）より）

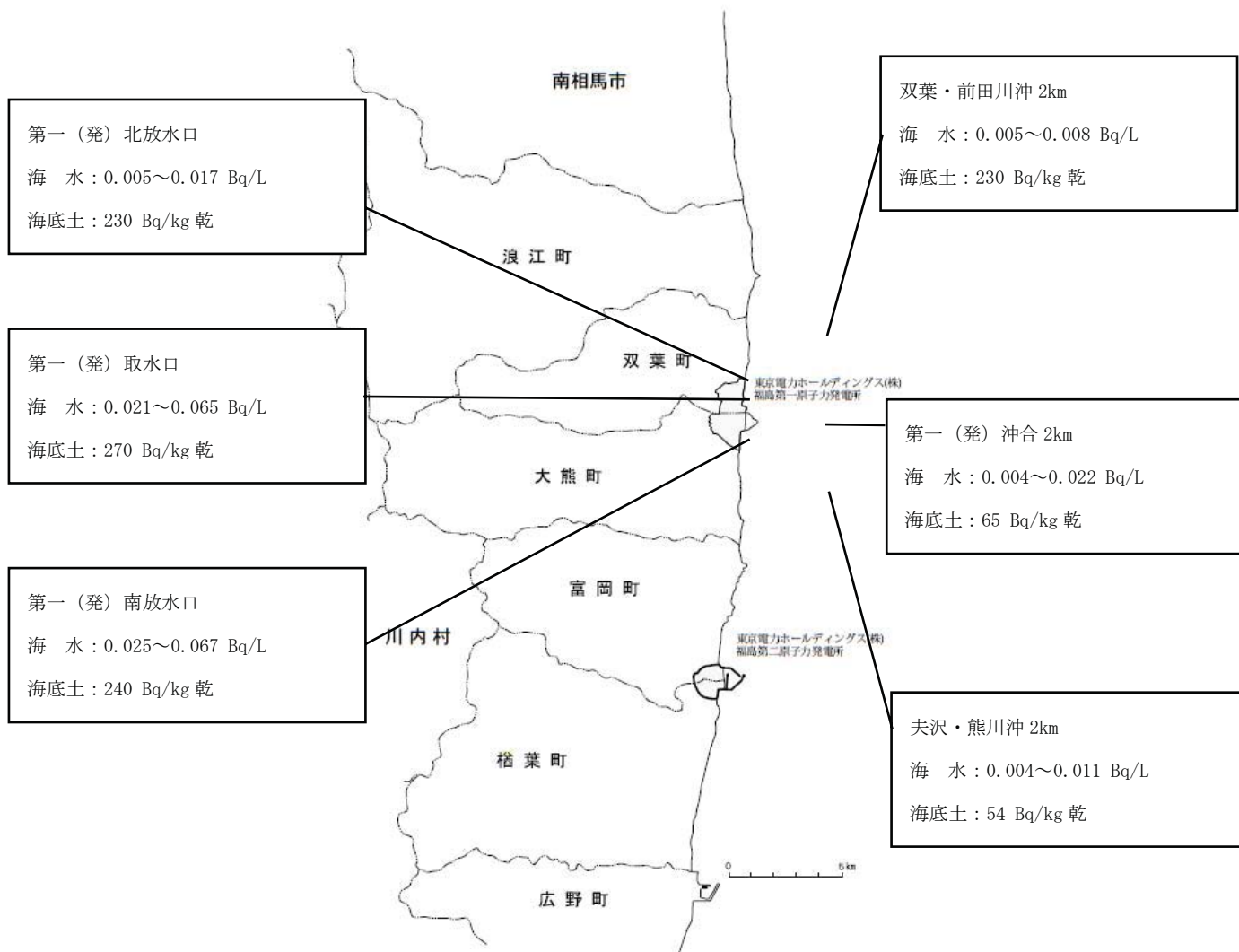
【町別の空間放射線及び環境試料のセシウム-137濃度】

※ 詳細な地点は p. 10 図 2-1 環境放射能等測定地点及び p. 12 図 2-3 環境試料採取地点を参照してください。

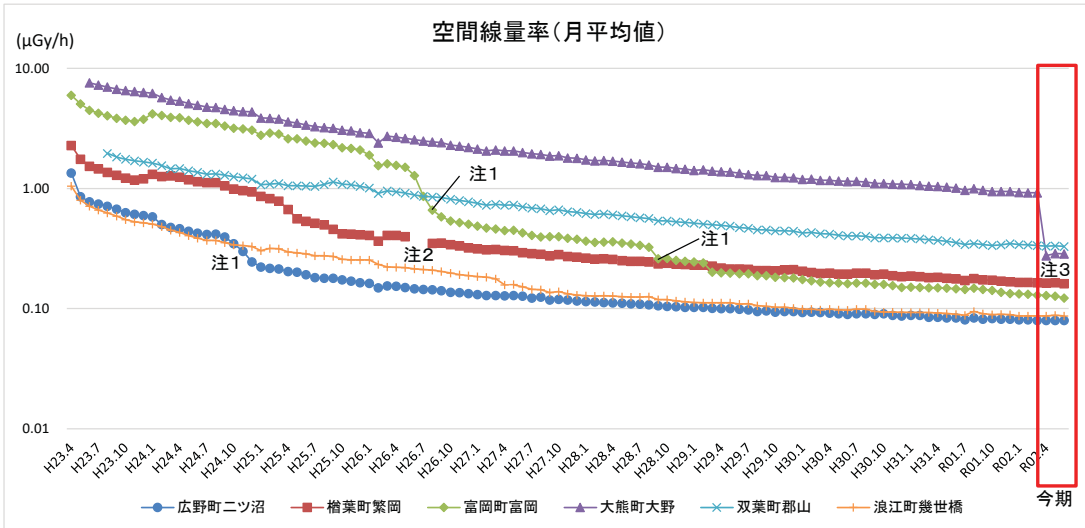


【福島第一原子力発電所沿岸海域の海水及び海底土のセシウム-137 濃度】

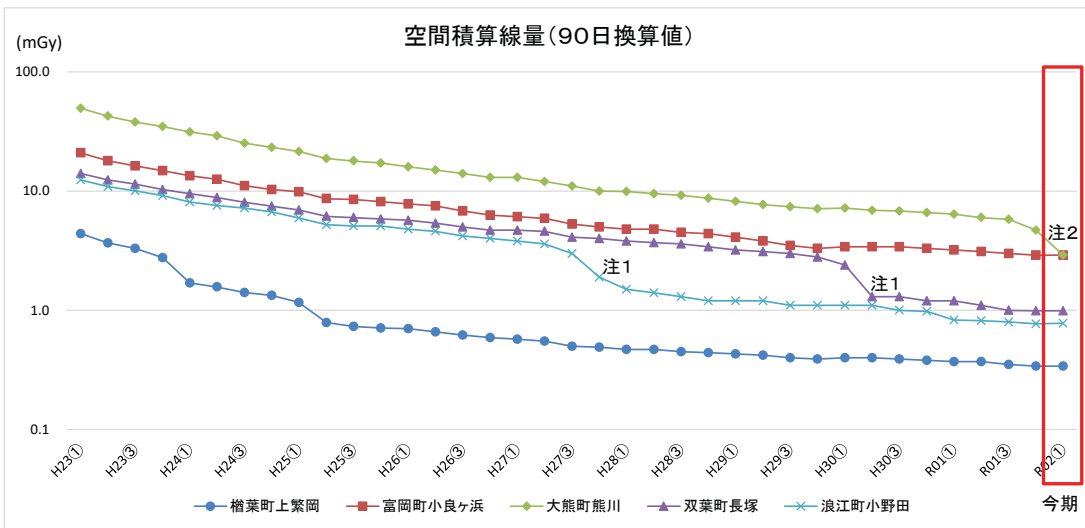
※ 詳細な地点は p.12 図 2-3 環境試料採取地点を参照してください。



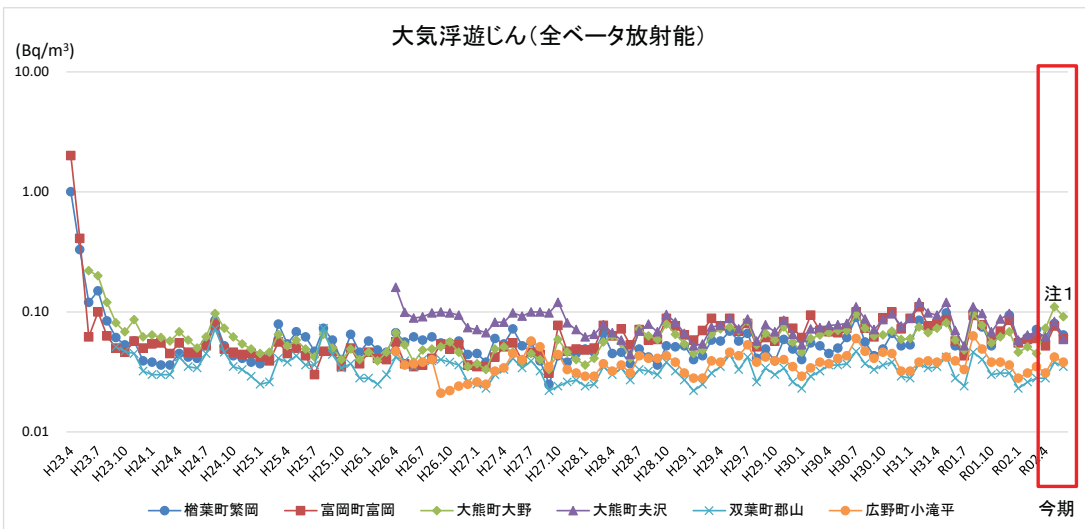
事故後の各項目毎のトレンドグラフ



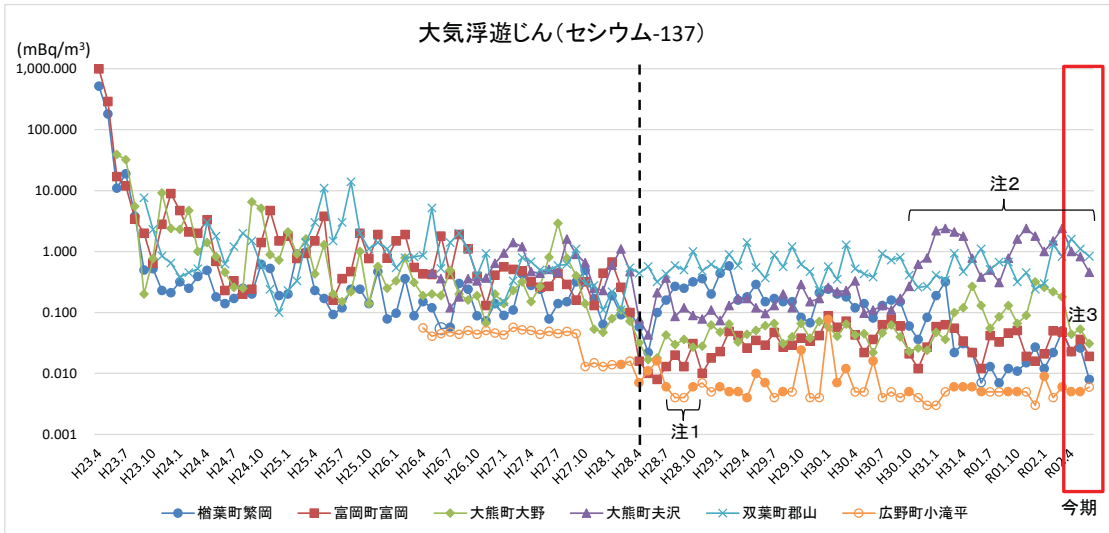
注1: 除染による減少、注2: 欠測
 注3: 大熊町大野は令和元年度末に局舎を移設したため、令和2年度第1四半期より旧大熊町役場敷地内で測定を行っている。



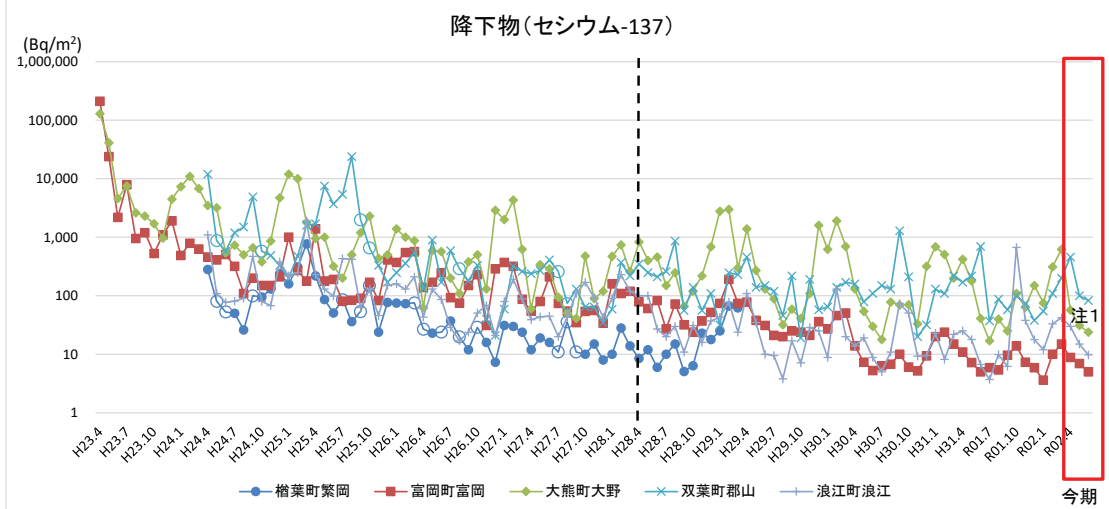
注1: 除染による減少
 注2: 周辺において造成工事が行われたことによる低下



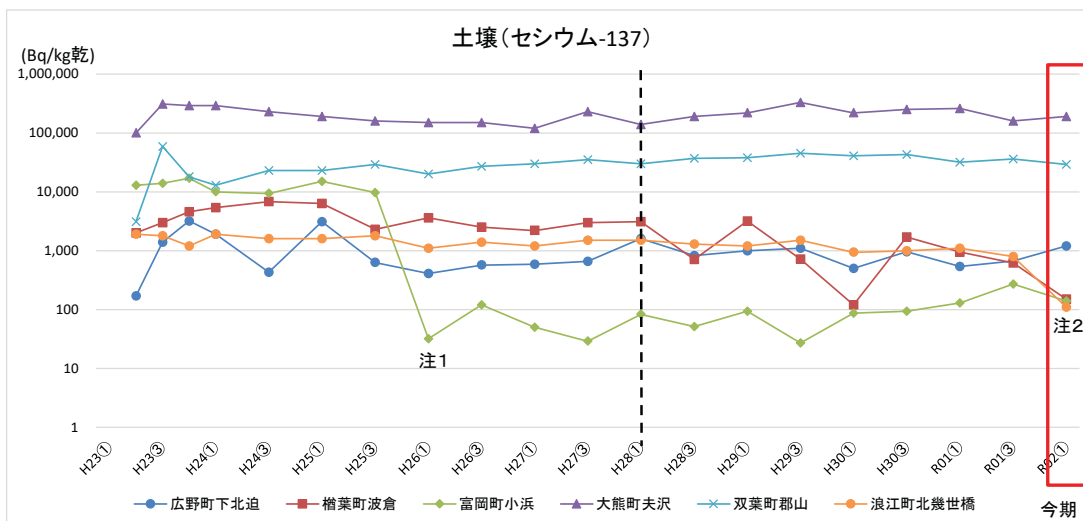
注1: 大熊町大野は令和元年度末に局舎を移設したため、令和2年度第1四半期より旧大熊町役場敷地内で測定を行っている。



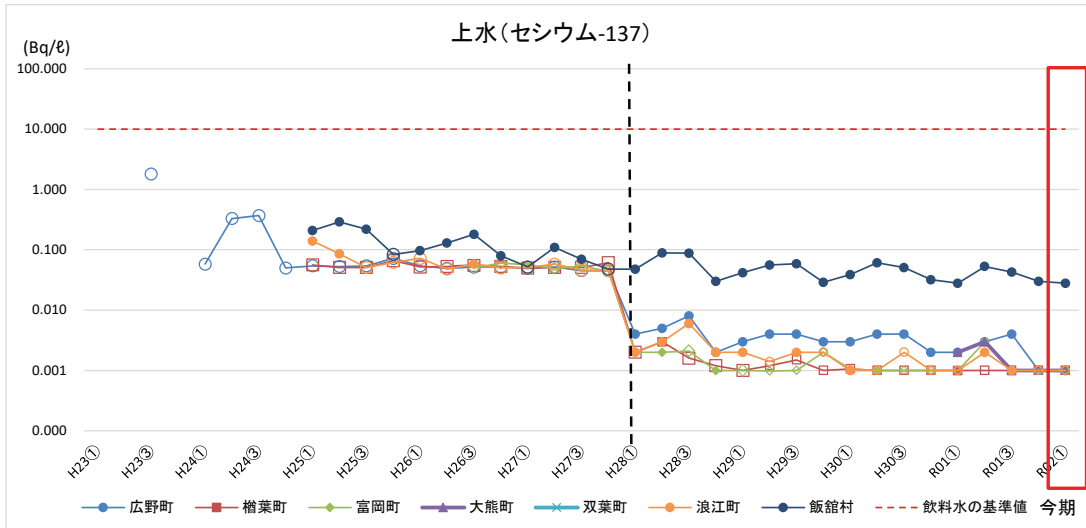
・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。
 ・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方に戻し、検出下限値が低下。
 注1: 富岡町富岡は機器不具合のため平成28年7月から10月は参考値
 注2: 大熊町夫沢が平成30年度及び令和元年度の秋期～冬期にかけてセシウム-137濃度が上昇した要因は、土木工事により局舎周辺が裸地化し、風によって微細な土壌粒子が浮遊しやすい環境となり、強風により浮遊した土壌粒子を捕集した影響と考えられる。
 注3: 大熊町大野は令和元年度末に局舎を移設したため、令和2年度第1四半期より旧大熊町役場敷地内で測定を行っている。



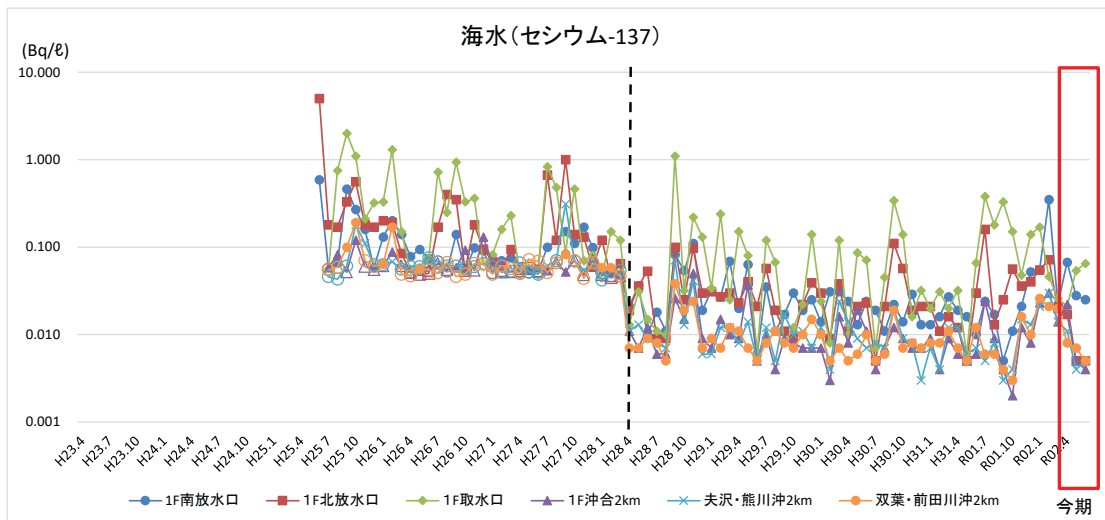
・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。
 ・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方に戻し、検出下限値が低下。
 注1: 大熊町大野は令和元年度末に局舎を移設したため、令和2年度第1四半期より旧大熊町役場敷地内で測定を行っている。



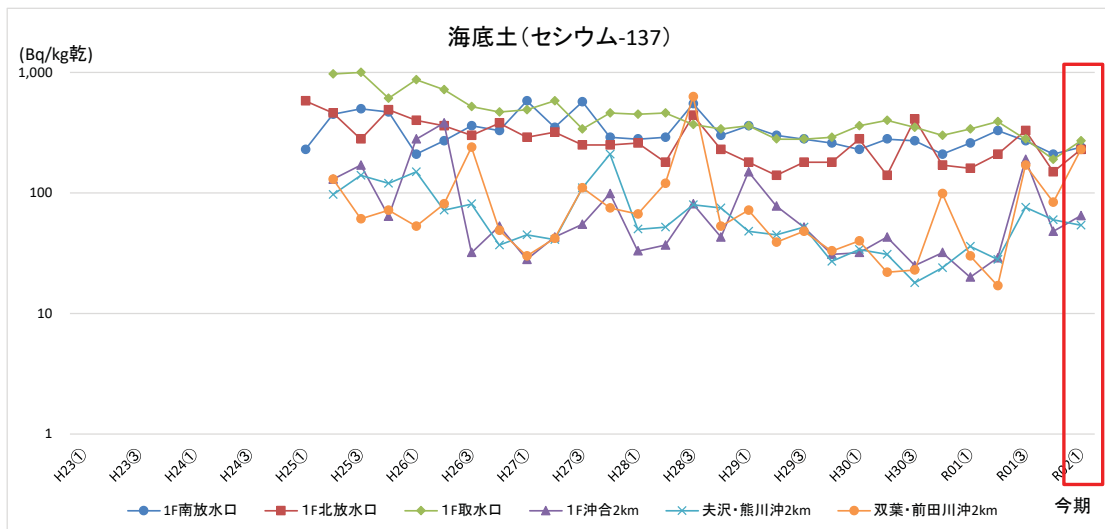
・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方に戻し、検出下限値が低下。
 ・今期は測定対象外。
 注1: 除染による減少
 注2: 浪江町北幾世橋は、従来の採取地が耕作により採取不可能になったため、同地点内で採取地を変更して除染終了後の土壌を採取した。

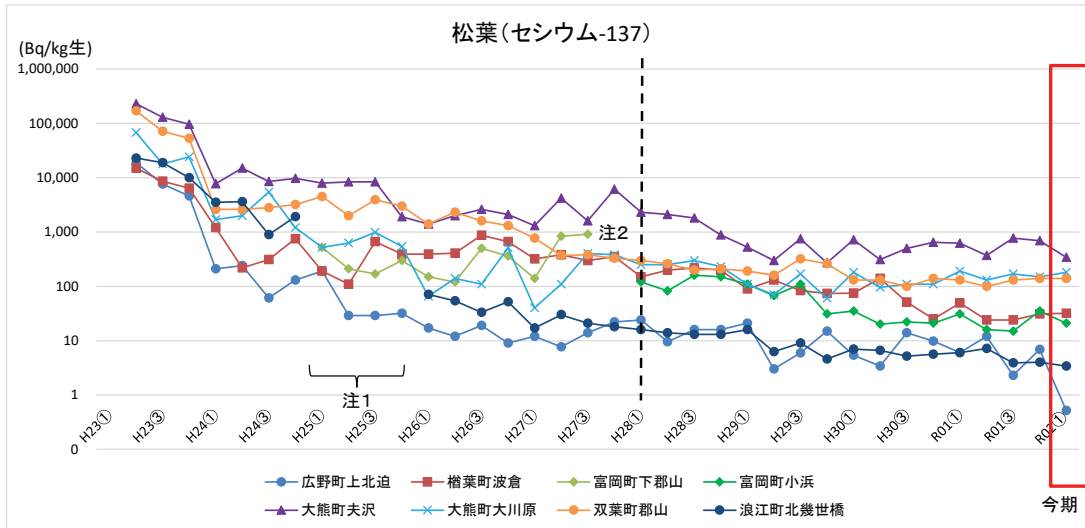


・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。
 ・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。



・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。
 ・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。





・事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出下限値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。
 注1: 浪江町北幾世橋は平成25年度は調査未実施
 注2: 富岡町下郡山は平成27年度第4四半期以降試料採取が困難となったため、平成28年度第1四半期より富岡町小浜で試料採取を行っている。

第 2 測 定 項 目

令和2年度第1四半期（令和2年4月～令和2年6月）測定分

1 測定項目

(1) 空間放射線

項目	計画地点数	調査地点数 (今期)	測定頻度	実施機関
空間線量率	39	39	連続	環境創造センター
空間積算線量	64	64	3ヵ月積算	

(2) 環境試料

区分	試料名	計画地点数	調査地点数 (今期)	採取回数 (今期)	採取頻度	測定試料数(今期)								実施機関	
						全β	γ	¹³¹ I	³ H	Sr	U	Pu	Am,Cm		
大 気	大気浮遊じん	17	17	3	毎月	連続 全α全β	51								環境創造 センター
		25	25	3			75								
	大気中水分	5	5	3	毎月			15							
降下物	降下物	10	10	3	毎月		30								
土 壤	土 壤	15	15	1	年2回		15								
					年1回				15	15	15	15			
陸 水	上 水	13	12	1	年4回		12		12						
			0	0	年1回				0		0				
海 水	海 水	6(*1)	6(*1)	3	毎月	18	18		18	18		18			
		2(*2)	2(*2)	1	年4回	2	2		2						
					年1回				2		2				
海 底 土	海 底 土	6(*1)	6(*1)	1	年4回		6			6		6			
		2(*2)	2(*2)	1	年4回		2								
					年1回				2		2				
指 標 植 物	松 葉	15	15	1	年4回		15	15							
指 標 海 洋 生 物	ほんだわら	2	0	0	年1回		0	0		0		0			

*1 東京電力ホールディングス(株) 福島第一原子力発電所周辺海域

*2 東京電力ホールディングス(株) 福島第二原子力発電所周辺海域

2 測定項目（比較対照地点調査）

(1) 空間放射線

項目	計画地点数	調査地点数 (今期)	測定頻度	実施機関
空間線量率	3	3	連続	環境創造センター

(2) 環境試料

区分	試料名	計画地点数	調査地点数 (今期)	採取回数 (今期)	採取頻度	測定試料数(今期)								実施機関
						全β	γ	¹³¹ I	³ H	Sr	U	Pu	Am,Cm	
大 気	大気浮遊じん	7	7	3	毎月		21							
	大気中水分	1	1	3					3					
降下物	降下物	2	2	3	毎月		6							
土 壤	土 壤	7	7	1	年1回		7			7		7		
		1	1	1					1		1			
陸 水	上 水	2	0	0	年1回		0		0					
		1						0		0				
海 水	海 水	1	0	0	年1回	0	0		0	0		0		
海 底 土	海 底 土	1	0	0	年1回		0			0		0		
指 標 植 物	松 葉	5	5	1	年4回		5	5						

図2-1 環境放射能等測定地点（福島第一・第二原子力発電所周辺）

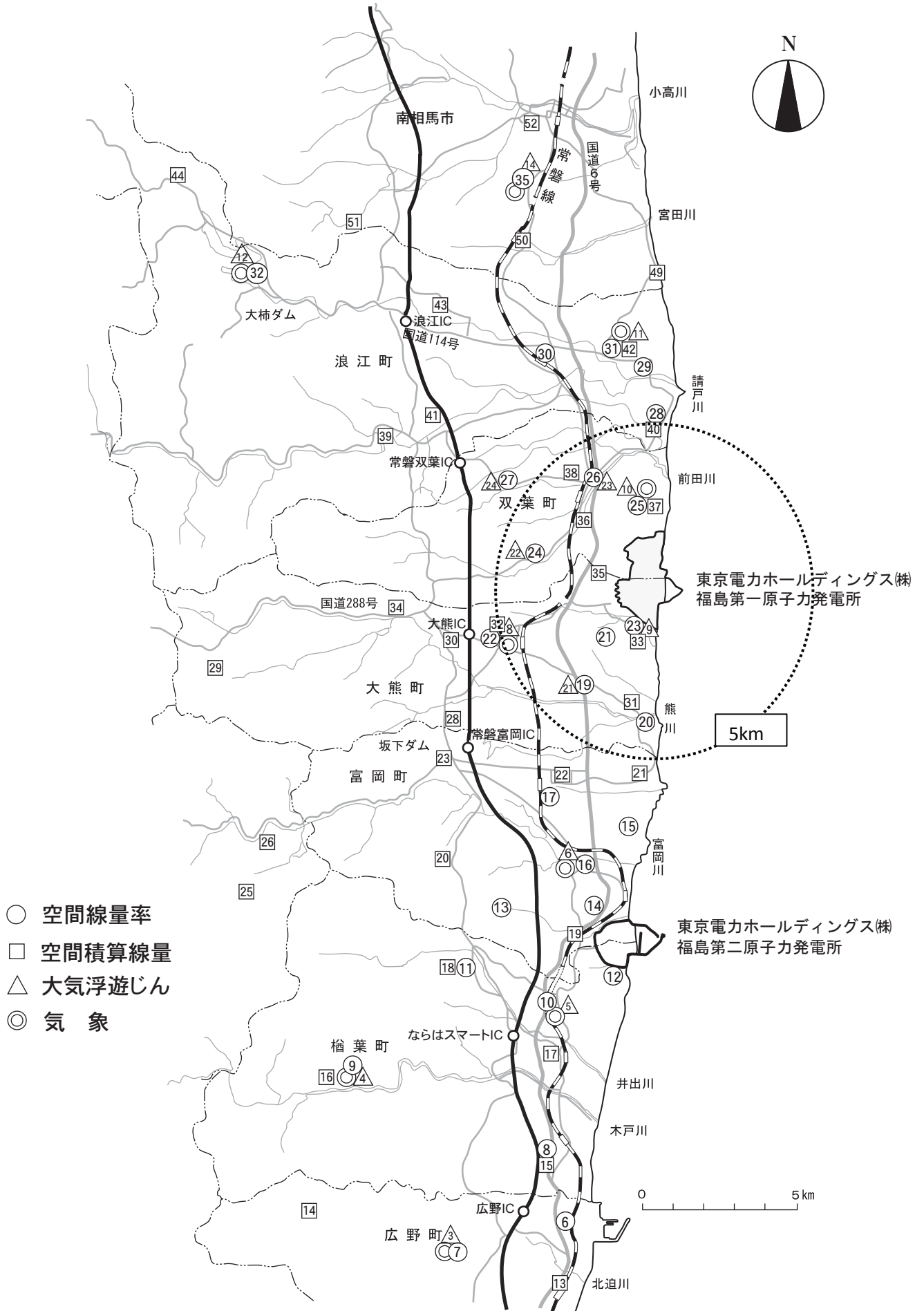
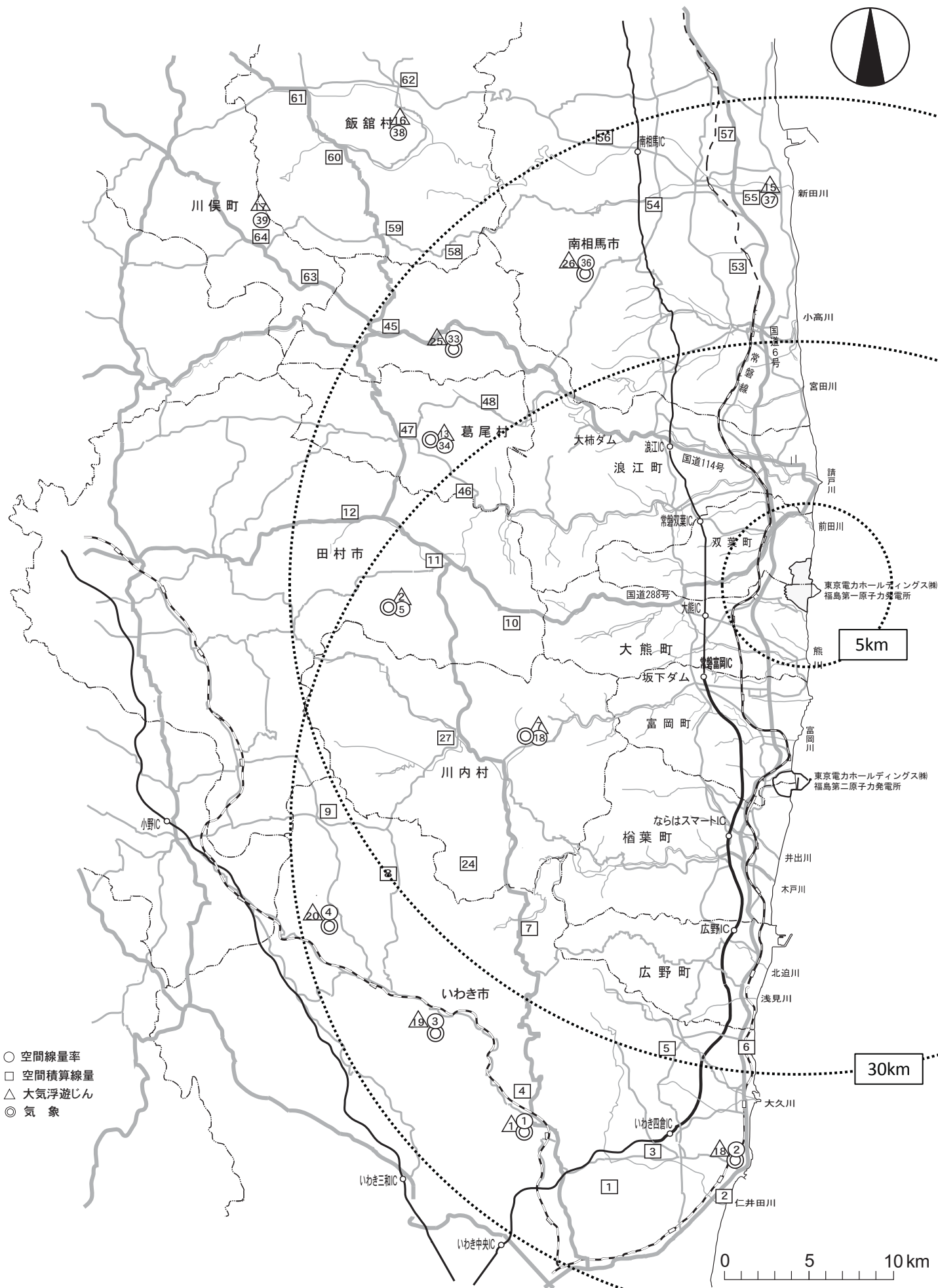


図2-2 環境放射能等測定地点（広域）



- 空間線量率
- 空間積算線量
- △ 大気浮遊じん
- ◎ 気象

図2-3 環境試料採取地点（福島第一・第二原子力発電所周辺）

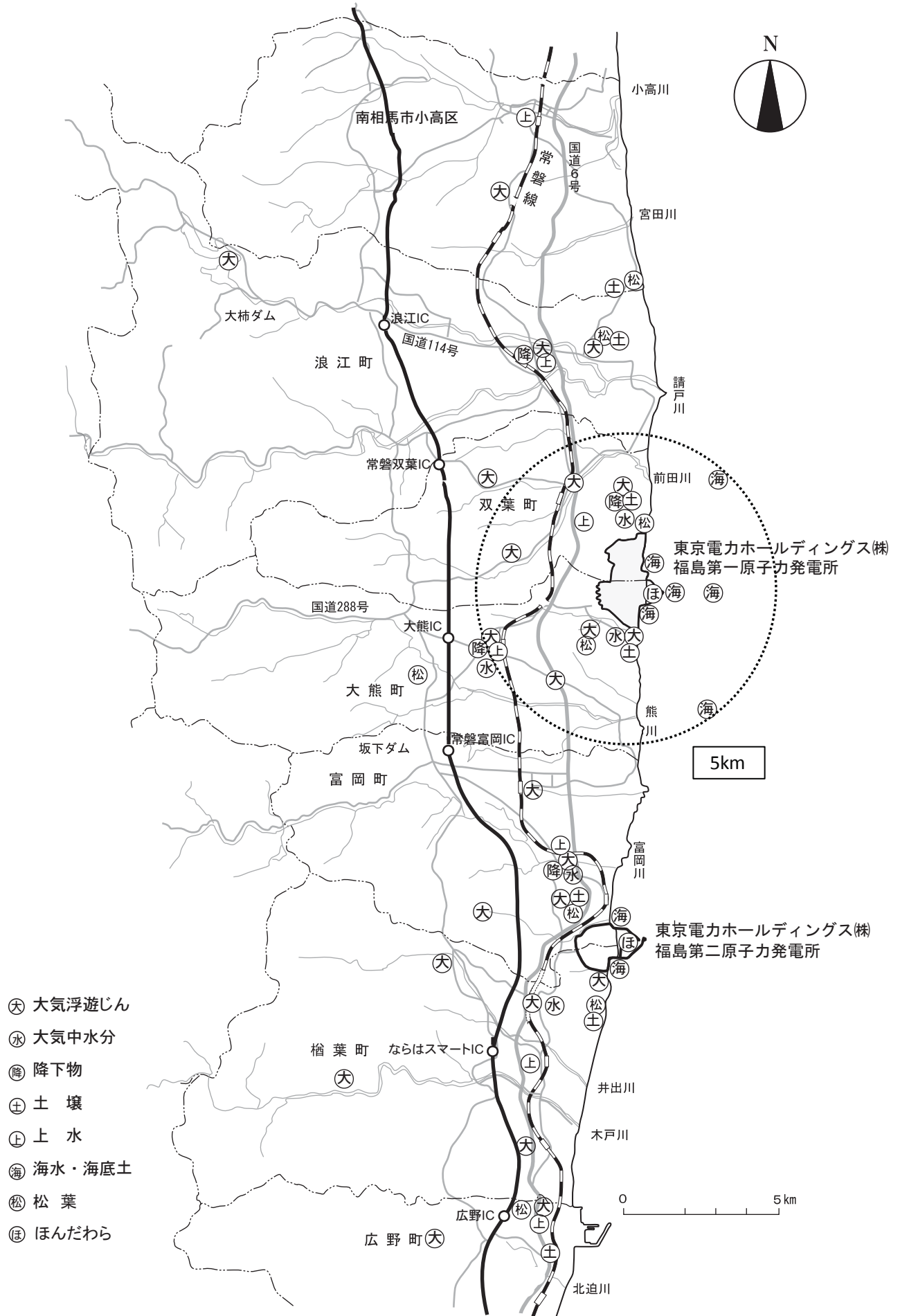
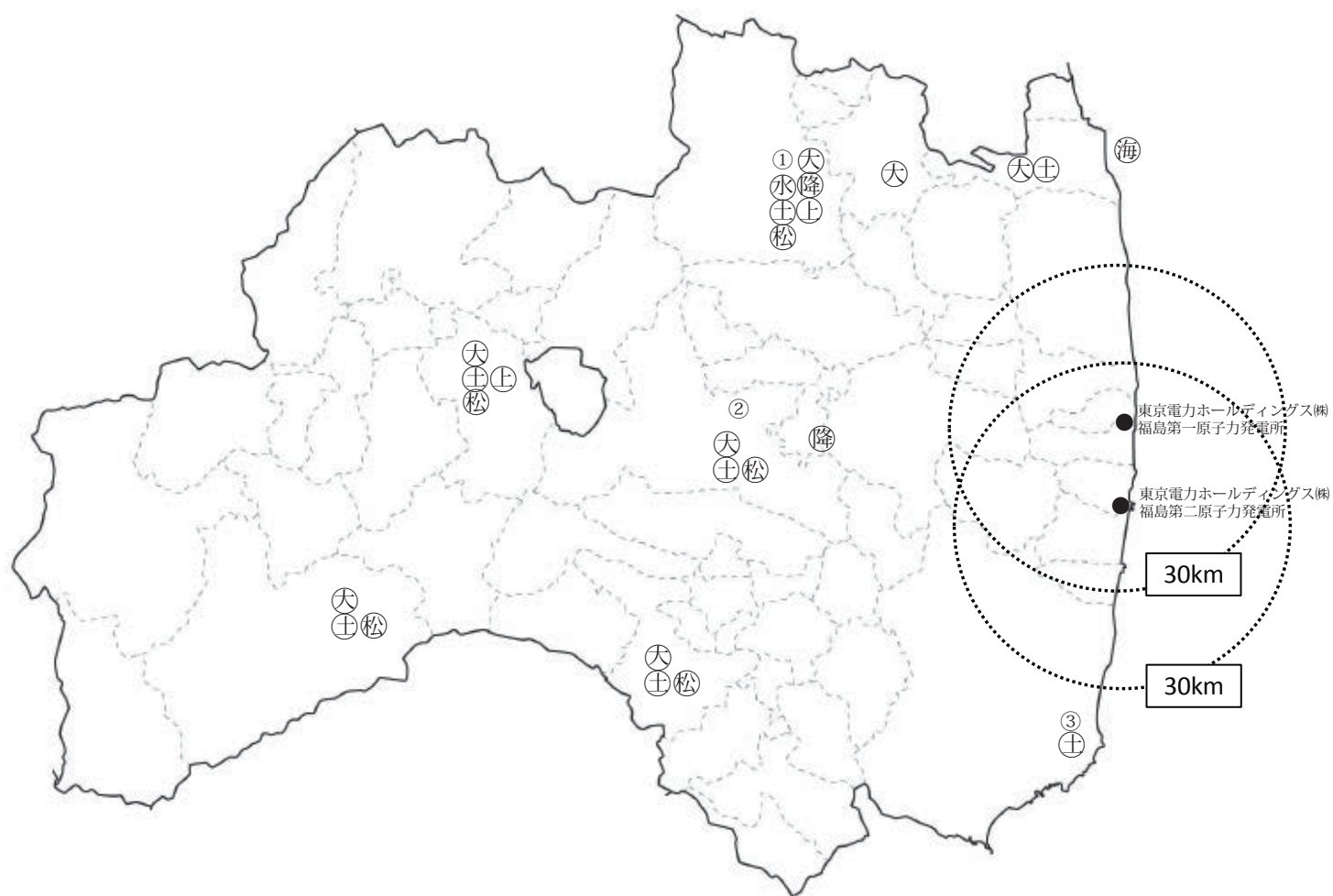


図2-4 環境試料採取地点（広域）



図2-5 環境放射能等測定地点及び環境試料採取地点（県内全域）



- 空間線量率
- ⊕ 大気浮遊じん
- ⊖ 大気中水分
- ⊙ 降下物
- ⊕ 土壌
- ⊕ 海水・海底土
- ⊕ 上水
- ⊕ 松葉

第 3 測 定 方 法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：低線量計 2"φ×2"NaI(Tl)シンチレーション検出器（日立製作所製 ADP-1122型他） 高線量計 14Lアルミ製加圧型球形電離箱検出器（日立製作所製 RIC-348型他） 測定位置：地表上約3m、約1m 校正線源： ⁶⁰ Co、 ¹³⁷ Cs及び ²²⁶ Ra
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」（平成14年制定） 線量計：蛍光ガラス線量計（AGCテクノグラス製 SC-1型） 測定器：蛍光ガラス線量計測装置（AGCテクノグラス製 FGD-202型） 測定位置：地表上約1m 校正線源： ¹³⁷ Cs
環境試料	大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん、6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を6時間同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式（吸引量：約90m ³ /6時間） 使用ろ紙：アドバンテック東洋製 HE-40T型 検出器：ZnS(Ag)シンチレータとプラスチックシンチレータの貼合せ検出器（日立製作所製 ADC-121他） 採取位置：地表上約3m、約2.3m 校正線源： ²⁴¹ Am及び ³⁶ Cl
		リアルタイムダストモニタ	測定法：全アルファ及び全ベータ放射能を6時間連続集じん同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式（吸引量：18m ³ /6時間） 使用ろ紙：アドバンテック東洋製 HE-40T型 検出器：ZnS(Ag)シンチレータとプラスチックシンチレータの貼り合わせ検出器（日立製作所製 ADC-2121） 採取位置：地表上約2m 校正線源： ²⁴¹ Am及び ³⁶ Cl
		リアルタイムダストモニタ（福島第一原子力発電所からおおむね5km圏内）	測定法：全アルファ及び全ベータ放射能を6時間連続集じん同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式（吸引量：11m ³ /6時間） 使用ろ紙：ミルポア製 FSLW型 検出器：プレーナシリコンα/β放射線検出器（キャンベラ製 CAM-2*450ASV） 採取位置：地表上約2m 校正線源： ²⁴¹ Am及び ³⁶ Cl
	全ベータ放射能（海水）	β線自動測定装置	測定法：文部科学省編「全ベータ放射能測定法」（昭和51年改訂） 測定器：低バックグラウンドガスフローカウンタ（日立製作所製 LBC-4202B型） 校正線源：U ₃ O ₈
	核種濃度	γ線放出核種分析装置	測定法：文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」（平成4年改訂） 測定器：ゲルマニウム半導体検出器（キャンベラ製 GC3018型他） 多波高分析器（キャンベラ製 LYNX DSA MCA型他）
β線自動測定装置		測定法：文部科学省編「トリチウム分析法」（平成14年改訂） 測定器：低バックグラウンド液体シンチレーション検出装置（日立製作所製 LSC-LB7型他）	

測定項目		測定装置	測定方法
環境 試料	放射性ストロンチウム濃度	β 線自動測定装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」（平成15年改訂）に定めるイオン交換法 測定器：ローバックグラウンドガスフローカウンタ（日立製作所製 LBC-4202B型） 校正線源： ^{90}Sr
	ウラン濃度	α 線放出核種分析装置	測定法：文部科学省編「ウラン分析法」（平成14年改訂）に定めるTBP（リン酸三ブチル）抽出法 測定器：シリコン半導体検出器（ORTEC製 BU-017-450型他） 多波高分析器（ORTEC デジタルMCA（ソフトウェア）他） 校正線源： ^{239}Np 、 ^{241}Am 及び ^{244}Cm
	アメリカシウム、キュリウム及びプルトニウム濃度	α 線放出核種分析装置	測定法：文部科学省編「プルトニウム分析法」（平成2年改訂）及び「アメリカシウム分析法」（平成2年）に定めるイオン交換法 測定器：シリコン半導体検出器（ORTEC製 BU-017-450型他） 多波高分析器（ORTEC デジタルMCA（ソフトウェア）他） 校正線源： ^{239}Np 、 ^{241}Am 及び ^{244}Cm

環境試料放射能測定方法詳細一覧表

(全β放射能、Cs-134、Cs-137濃度・H-3濃度・Sr-90濃度・U-234、U-235、U-238濃度・Pu-238、Pu-239+240濃度・Am-241、Cm-244濃度)

項目	試料名	大気浮遊じん			
		簡易型ダストサンプラー(福島第一原子力発電所から30km圏内)	簡易型ダストサンプラー(比較対照地点)	連続ダストサンプラー	連続ダストモニタ
	核種	Cs-134、Cs-137			
試料採取	採取方法	ハイボリュームエアサンプラーによる連続採取 ・採取位置:地表上約1m	ハイボリュームエアサンプラーによる24時間採取 ・採取位置:地表上約1m	ダストサンプラーによる連続採取 ・採取位置:地表上約2m	ダストモニタによる連続採取 ・採取位置:地表上約2~3m
	採取容器等	ろ紙(GB-100R)		ろ紙(HE-40T)	
	採取量	約34,500m ³	約1,150m ³	約2,000m ³	約11,000m ³
	前処理(酸などの薬品添加を実施しているか)	なし			
	採取器具のコンタミ防止(試料採取器具を適切に使用しているか)	・地点毎に採取器具を専用としている。 ・ろ紙が触れる部分を使用毎に洗浄している。		試料毎に分けて採取している。	
前処理	方法	約1週間毎に回収したろ紙を打ち抜き型を用いて打ち抜き、1ヶ月分をU8容器に収納する。	24時間集塵し、ろ紙を全量丸めてU8容器に収納する。	約1週間毎に回収した集じんろ紙の集じん箇所を打ち抜き型を用いて打ち抜き、1ヶ月分をU8容器に収納する。	1ヶ月分の集じんろ紙を電気炉にて加熱分解し灰にする。
	分取、縮分の代表性(高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	1週間分の集じんろ紙(203×254mm)を47.5φmmの打ち抜き器を用いて12ヶ所計52%を採取する。これを1ヶ月分まとめて週ごとのかたよりが出ないよう順にU8へ収納する。	24時間集塵し、ろ紙を全量丸めてU8容器に収納する。	50φmmの円の中心から46φmmを打ち抜き84.64%を採取する。ろ紙には均一に採取されている。これを1ヶ月分まとめてU8容器底面に収納する。	灰にした試料全量をU8容器に充填する。
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。			・加熱分解に用いる磁性皿は、検体毎に洗浄及び空焼き(600℃)。 ・充填する時に用いる器具類はポリエチレンフィルムで養生して使用。 ・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。
測定	測定装置	Ge半導体検出装置			
	測定試料状態	生			灰
	測定容器	U8容器			
	供試料量	約18,000m ³	約1,150m ³	約1,700m ³	約11,000m ³
	測定時間	80,000秒	80,000秒	80,000秒	80,000秒
	測定下限値	約0.002~0.007mBq/m ³	約0.03~0.04mBq/m ³	約0.01~0.03mBq/m ³	約0.005~0.01mBq/m ³
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。			
校正	使用線源	Cd-109、Co-57,60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88 日本アイソトープ協会製造のJCSS校正証明書付きの標準線源を使用している。これによりトレーサビリティを担保している。			
	線源校正頻度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施			
	BG測定頻度	月1回 試料測定時間の2倍以上			
備考	平成26年7月:測定開始 平成30年4月:1ヶ月毎の測定に切り換え	平成23年11月:測定開始 平成27年7月:測定時間変更(3,600秒→20,000秒) 平成28年4月:測定時間変更(20,000秒→80,000秒)	平成28年4月:測定開始 平成30年4月:1ヶ月毎の測定に切り換え	平成27年10月:測定時間変更(3,600秒→21,600秒) 平成28年4月:前処理変更(生→灰化)、測定時間変更(21,600秒→80,000秒)	

項目	試料名	大気浮遊じん		大気中水分	
		リアルタイムダストモニタ	リアルタイムダストモニタ(福島第一原子力発電所からおおむね5km圏内)	福島第一原子力発電所から30km圏内	比較対照地点
核種		Cs-134, Cs-137		H-3	
試料採取	採取方法	ダストモニタによる連続採取 ・採取位置:地表上約2m		シリカゲルを充填したカラムに大気を通過させ、大気に含まれる水分を捕集する。	
	採取容器等	ろ紙(HE-40T)	ろ紙(JCAM/ROLL (フィルターコード:FSLW))	シリカゲルを充填した、ガラスカラム(φ55mm×H400mm)2本	
	採取量	約2,200m ³	約1,250m ³	約4.5~45m ³	
	前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし		なし	
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	試料毎に分けて採取している。		シリカゲルを充填したガラスカラムは地点毎に専用としている。	
前処理	方法	1ヶ月分の集じんろ紙を電気炉にて加熱分解し灰にする。	1ヶ月分の集じんろ紙を全量丸めてU8容器に収納する。	減圧蒸留法	
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	灰にした試料全量をU8容器に充填する。	1ヶ月分の集じんろ紙を全量丸めてU8容器に収納する。	シリカゲルに吸着させた水分を全量回収し、十分に混合する。 その後、所定量を減圧蒸留する。	
	前処理でのコンタミ防止 とその確認法	・加熱分解に用いる磁性皿は、検体毎に洗浄及び空焼き(600℃)。 ・充填する時に用いる器具類はポリエチレンフィルムで養生して使用。 ・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。	U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。	・前処理器具は大気中水分専用器具を使用している。 ・使用するガラス器具類は洗浄後十分に乾燥させたものを使用している。 ・テフロンバイアルは毎回新品を使用している。	
測定	測定装置	Ge半導体検出装置		ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	
	測定試料状態	灰	生	液体シンチレータ混合物	
	測定容器	U8容器		100 mLテフロンバイアル	
	供試料量	約2,200m ³	約1,250m ³	約50.00 mL	
	測定時間	80,000秒		30,000 秒	
	測定下限値	約0.02~0.06mBq/m ³	約0.02~0.06mBq/m ³	約1 mBq/m ³ ~10 mBq/m ³	
	測定におけるコンタミ防止 とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。		試料毎に新品のバイアル瓶を使用している。 検出器の汚染確認は、毎測定時にBG測定で実施。	
校正	使用線源	Cd-109、Co-57.60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88		H-3	
	線源校正頻度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施		日本アイソトープ協会製造のJCSS校正証明書付きの標準線源を使用している。これによりトレーサビリティを担保している。 (納入時) メーカーにて効率校正 (1年毎) メーカーによる簡易点検、精密点検、各1回。 精密点検時に、密封線源により効率確認。	
	BG測定頻度	月1回 200,000秒		測定の都度	
備考	平成28年4月:測定開始	平成27年4月:測定開始 ろ紙がPTFE製のため減容不可	平成30年4月:測定開始		

項目	試料名	降下物	
		福島第一原子力発電所から30km 圏内	比較対照地点
	核種	Cs-134、Cs-137	
試料採取	採取方法	建物屋上等に水盤を設置し、1ヶ月後に盤内の水を全量採取する。	
	採取容器等	大型水盤または小型水盤(SUS製バケツ)	
	採取量	0.5m ² (大型水盤) または 0.085m ² (小型水盤)	
	前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	採取後、降下物1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	容器は据え置き又は地点毎に専用としている。	
前処理	方法	全量をガスコンロまたはマントルヒータ等で濃縮し、残渣をU8容器に採取する。	
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	採取試料全量を充填	
	前処理でのコンタミ防止 とその確認法	U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。	
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	
	測定試料状態	乾固物	
	測定容器	U8容器	
	供試料量	0.5m ² (大型水盤) または 0.085m ² (小型水盤)	
	測定時間	80,000秒	
	測定下限値	大型水盤: 約0.1~0.2MBq/km ² 程度 小型水盤: 約0.3~0.7MBq/km ² 程度	
	測定におけるコンタミ防止 とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	
校正	使用線源	Cd-109、Co-57、60、Ce-139、Cr-51、Sr-85、Cs-137、Mn-54、Y-88 日本アイソトープ協会製造のJCSS校正証明書付きの標準線源を使用している。これによりトレーサビリティを担保している。	
	線源校正頻度	(年1回) Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	
	BG測定頻度	月1回 200,000秒	
備考	8地点で大型水盤、4地点で小型水盤を使用している。 平成24年4月: 小型水盤による採取開始 平成27年6月: 比較対照地点の前処理変更(2L分取→2L濃縮) 平成28年4月: 前処理変更(2L分取・2L濃縮→全量蒸発乾固) 比較対照地点の測定時間変更(21,600秒→80,000秒)		

項目	試料名	土壌				
	核種	Cs-134, Cs-137	Sr-90	U-234, U-235, U-238	Pu-238, Pu-239+240	Am-241, Cm-244
試料採取	採取方法	裸未耕土の表層(0mmから50mm)から一地点あたり5箇所以上、計3kg程度になるまで採取する。				
	採取容器等	採土器				
	採取量	3kg程度				
	前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし				
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	採土器は共用で、採取の都度洗浄を行っている。				
前処理	方法	一昼夜程度自然乾燥させ、105℃で72時間以上加熱乾燥させる。次にふるいにかき、十分に混合する。				
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。(インクリメント縮分法)				
	前処理でのコンタミ防止 とその確認法	<ul style="list-style-type: none"> 試料毎に前処理皿及びふるいは新品を使用 試料毎に地点専用のSUS製ふるいを使用(比較対照地点) 試料処理毎に汚染がないことを確認 U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。 				
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンド ガスフロー計数装置	Si半導体検出装置	Si半導体検出装置	
	測定試料状態	乾土	鉄共沈物	酸化物	酸化物	
	測定容器	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)	
	供試料量	約100g	約100g	約10g	約50g	
	測定時間	80,000秒	3,600秒	80,000秒	80,000秒	
	測定下限値	約1~10Bq/kg乾土	約0.2~0.5Bq/kg乾土	約0.1~4Bq/kg乾土	約0.01~0.2 Bq/kg乾土	
	測定におけるコンタミ防止 とその確認法	定期的Ge半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。	
校正	使用線源	Cd-109, Co-57.60, Ce-139, Cr-51, Sr-85, Cs-137, Mn-54, Y-88	Sr-90	Np-237, Am-241, Cm-244	Np-237, Am-241, Cm-244	Gd-148, Am-241, Cm-244
		日本アイソトープ協会製造のJCSS校正証明書付きの標準線源を使用している。これによりトレーサビリティを担保している。				
	線源校正頻度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)JCAC分析確認調査時使用試料にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回
	BG測定頻度	月1回 200,000秒	測定の都度	月1回 80,000秒	月1回 80,000秒	
備考		平成28年4月:採取方法変更(U8容器→採土器) Cs-134, Cs-137の前処理変更(湿土→乾土)		令和2年5月:測定開始	平成28年4月:採取方法変更(U8容器→採土器) Cs-134, Cs-137の前処理変更(湿土→乾土)	

項目	試料名	上水			
	核種	Cs-134, Cs-137	H-3	Sr-90	Pu-238, Pu-239+240
試料採取	採取方法	各地点の上水(水道水)を蛇口より容器に採取する。			
	採取容器等	ポリタンク	ポリビン	ポリタンク	ポリタンク
	採取量	20L	1L	100L	100L
	前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	上水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	なし	上水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	上水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。			
前処理	方法	加熱濃縮法	減圧蒸留法	イオン交換法	イオン交換法
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	採取試料全量を加熱濃縮。	1Lポリビンより上澄水100mLを分取。	採取試料全量を加熱濃縮後、イオン交換法により処理。	10分程度蛇口から上水を流しつづけた後に採取する。複数の採取容器の上水を、前処理の際に混合し、均一化を図る。
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	<ul style="list-style-type: none"> ・前処理器具は上水専用または新品を使用もしくは試料毎に十分洗浄して使用 ・試料処理毎に汚染がないことを確認 ・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。 ・テフロンバイアルは毎回新品を使用している。 			
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	Si半導体検出装置
	測定試料状態	乾固物	液体シンチレータ混合物	鉄共沈物	酸化物
	測定容器	U8容器	100mLテフロンバイアル	ステンレス皿(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)
	供試料量	20L	約50.00mL	100L	100L
	測定時間	80,000秒	30,000秒	3,600秒	80,000秒
	測定下限値	約0.001~0.002Bq/L	約0.3~0.5Bq/L	約0.00015~0.0004Bq/L	0.000003~0.00001 Bq/L
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のバイアル瓶を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。
校正	使用線源	Cd-109, Co-57,60, Ce-139, Cr-51, Sr-85, Cs-137, Mn-54, Y-88	H-3	Sr-90	Np-237, Am-241, Cm-244
	線源校正頻度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)メーカーによる簡易点検、精密点検、各1回。精密点検時に、密封線源により効率確認。	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)JCAC分析確認調査時使用試料にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施
	BG測定頻度	月1回 200,000秒	測定の都度	測定の都度	月1回 80,000秒
備考	平成28年4月：前処理変更(生→加熱濃縮法)				

項目	試料名	海水				
	核種	全ベータ放射能	Cs-134, Cs-137	H-3	Sr-90	Pu-238, Pu-239+240
試料採取	採取方法	海面より深さ1mにホースを入れ、ポンプにて採取する。				
	採取容器等	ポリビン	ポリタンク	ポリビン	ポリタンク	ポリタンク
	採取量	2L	40L	1L	60L	100L
	前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし	海水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	なし	海水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。				
前処理	方法	鉄・バリウム共沈法	リンモリブデン酸アンモニウム-二酸化マンガン共沈法	減圧蒸留法	イオン交換法	イオン交換法
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	2Lポリビンより上澄水1Lを分取。	20Lポリタンク2本から10Lずつ分取。	1Lポリビンより上澄水100mLを分取。	20Lポリタンク3本使用。内2本は全量使用。残る1本は10L分取。	10分程度ポンプから海水を排水した後採取する。複数の採取容器の海水を、前処理の際に混合し、均一化を図る。
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	<ul style="list-style-type: none"> ・採取地点毎の専用容器または新品を使用 ・試料処理毎に汚染がないことを確認 ・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。 ・テフロンバイアルは毎回新品を使用している。 				
測定	測定装置	ローバックグラウンドガスフロー検出器	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	Si半導体検出装置
	測定試料状態	鉄・バリウム共沈物	リンモリブデン酸アンモニウムと二酸化マンガンの混合物	液体シンチレータ混合物	鉄共沈物	酸化物
	測定容器	ステンレス皿(25mmφ)	U8容器	100mLテフロンバイアル	ステンレス皿(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)
	供試料量	1L	20L以上	約50.00mL	50L	100L
	測定時間	3,600秒	80,000秒	30,000秒	3,600秒	80,000秒
	測定下限値	約0.01~0.02Bq/L	約0.001~0.002Bq/L	約0.3~0.5Bq/L	約0.0007~0.01Bq/L	0.000003~0.00001 Bq/L
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のバイアル瓶を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。
校正	使用線源	U ₃ O ₈	Cd-109, Co-57.60, Ce-139, Cr-51, Sr-85, Cs-137, Mn-54, Y-88	H-3	Sr-90	Np-237, Am-241, Cm-244
	線源校正頻度	測定の都度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)メーカーによる簡易点検、精密点検、各1回。精密点検時に、密封線源により効率確認。	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)JCAC分析確認調査時使用試料にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施
	BG測定頻度	測定の都度	月1回 200,000秒	測定の都度	測定の都度	月1回 80,000秒
備考			平成28年4月:前処理変更(生→リンモリブデン酸アンモニウム-二酸化マンガン共沈法)			

項目	試料名	海産土			松葉	
					福島第一原子力発電所から30km圏内	比較対照地点
		核種	Cs-134, Cs-137	Sr-90	Pu-238, Pu-239+240	Cs-134, Cs-137
試料採取	採取方法	船上から採泥器にて採取する。			採取地点付近にある樹木より2年葉を採取する。	
	採取容器等	採泥器			ビニール袋	
	採取量	3kg程度			200g程度	
	前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし			なし	
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	採泥袋は地点毎に新品を使用し、採泥器は使用毎に洗浄している。			採取地点毎に新品の袋に採取	
前処理	方法	一昼夜程度自然乾燥させ、105℃で72時間以上加熱乾燥させる。次にふるいにかけ、十分に混合する。			95℃で所定時間加熱乾燥後、粉砕機により粉砕	
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取。(インクリメント縮分法)			乾燥後の試料から所定量を均等に分取	
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	<ul style="list-style-type: none"> 試料毎に前処理皿及びふるいは新品を使用 試料処理毎に汚染確認を行い、汚染がないことを確認 U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。 			<ul style="list-style-type: none"> 加熱乾燥に用いるバットは十分洗浄して使用 粉砕器は、地点専用のものを使用 U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。 	
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	Si半導体検出装置	Ge半導体検出装置	
	測定試料状態	乾土	鉄共沈物	酸化物	乾燥物	
	測定容器	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)	U8容器	
	供試料量	約100g	約100g	100g	約50g	
	測定時間	80,000秒	3,600秒	80,000秒	80,000秒	
	測定下限値	約0.5~1.5Bq/kg乾土	約0.15~0.25Bq/kg乾土	約0.01~0.2 Bq/kg	約0.5~1Bq/kg生	
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的Ge半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。		試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。	定期的Ge半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。
校正	使用線源	Cd-109, Co-57.60, Ce-139, Cr-51, Sr-85, Cs-137, Mn-54, Y-88	Sr-90	Np-237, Am-241, Cm-244	Cd-109, Co-57.60, Ce-139, Cr-51, Sr-85, Cs-137, Mn-54, Y-88	
		日本アイソトープ協会製造のJCSS校正証明書付きの標準線源を使用している。これによりトレーサビリティを担保している。			日本アイソトープ協会製造のJCSS校正証明書付きの標準線源を使用している。これによりトレーサビリティを担保している。	
	線源校正頻度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)JCAC分析確認調査時使用試料にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施	
BG測定頻度	月1回 200,000秒	測定の都度		月1回 80,000秒	月1回 200,000秒	
備考						平成27年7月:比較対照地点の測定時間変更(3,600秒→10,800秒) 平成28年4月:前処理変更(生→乾燥) マニュアルに示す減容処理(灰化)は実施していない。除染等により松の木が減少しており、継続的に採取していくには、1回の採取量を抑える必要がある。また、松葉はそのまま測定しても検出可能である地点が多いことから、濃縮度を小さくしても支障ないと考えた。これらの理由から、灰までの濃縮は行わず、乾燥にとどめた。

項目	試料名	ほんだわら		
	核種	Cs-134, Cs-137	Sr-90	Pu-238, Pu-239+240
試料採取	採取方法	採取地点付近に生息しているほんだわらの葉茎部を採取する。		
	採取容器等	ビニール袋		
	採取量	9kg程度		
	前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし		
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	採取地点毎に専用の器具を使用		
前処理	方法	・水洗後水切りし、95℃で所定時間加熱乾燥後、粉碎机により粉碎	・水洗後水切りし、95℃で所定時間加熱乾燥後、粉碎机により粉碎 ・乾燥後の試料を電気炉で加熱分解し、生成した灰試料をイオン交換法により処理。	・水洗後水切りし、95℃で所定時間加熱乾燥後、粉碎机により粉碎 ・乾燥後の試料を電気炉で加熱分解し、生成した灰試料をイオン交換法により処理。
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	乾燥後の試料から所定量を均等に分取	灰試料から所定量を均等に分取	灰試料から所定量を均等に分取
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	・加熱乾燥に用いるバットは十分に洗浄して使用。 ・粉碎机は、地点専用のものを使用。 ・U8容器は新品を使用し、試料充填後、2重に袋掛けをしている。	・加熱乾燥に用いるバット及び加熱分解に用いる磁性皿は十分に洗浄して使用。 ・粉碎机は、地点専用のものを使用。	・加熱乾燥に用いるバット及び加熱分解に用いる磁性皿は十分に洗浄して使用。 ・粉碎机は、地点専用のものを使用。
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンドガスフロー検出器	Si半導体検出装置
	測定試料状態	乾燥物	鉄共沈物	酸化物
	測定容器	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	ステンレス板(25mmφ)
	供試料量	約100g	約30~40g(生試料1kg相当の灰試料量)	約20~40g(生試料500g~1kg相当の灰試料量)
	測定時間	80,000秒	3,600秒	80,000秒
	測定下限値	約0.1~0.2Bq/kg生	約0.1~0.2Bq/kg生	約1~3 mBq/kg生
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス板を使用し、検出器の汚染については、毎月BG測定を行っている。
校正	使用線源	Cd-109, Co-57,60, Ce-139, Cr-51, Sr-85, Cs-137, Mn-54, Y-88	Sr-90	Np-237, Am-241, Cm-244
	線源校正頻度	(年1回)Co線源や混合線源(U8・マリネリ)で幾何効率校正と計数効率校正を実施。	(納入時)メーカーにて効率校正(1年毎)JCAC分析確認調査時使用試料にて効率確認	(納入時)メーカーにて効率及びエネルギー校正(1年毎)メーカーによる保守点検1回(毎月)県が密封線源により効率及びエネルギー校正を実施
	BG測定頻度	月1回 200,000秒	測定の都度	月1回 80,000秒
備考				

第 4 測定結果

4-1 空間放射線

4-1-1 空間線量率

東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所から半径 5km 未満の地域（以下「1F 近傍」という。）で 8 地点、福島第一原子力発電所から概ね半径 5km 以上 30km 未満又は福島第二原子力発電所から概ね半径 30km 未満の地域（以下「1F・2F 周辺」という。）で 31 地点、福島第一及び第二原子力発電所からそれぞれ 30km 以上離れた地域（以下「比較対照地点」という。）で 3 地点、計 42 地点で空間線量率を常時測定しました。各地点の測定結果は以下のとおりです。詳細な測定値は 35～38 ページを参照。

(1) 月間平均値

各測定地点における月間平均値は、福島第一原子力発電所の事故（以下「事故」という）の影響により事故前の月間平均値を上回っています。年月の経過とともに減少する傾向にありました。事故直後の最大値と今期の測定値の最大値を比較すると、減少率の高い順から 1F・2F 周辺、1F 近傍、比較対象地点でした。今期の測定値は、いずれの月も数値の高い順から 1F 近傍、1F・2F 周辺、比較対照地点でした。

各地点の空間線量率の月間平均値

(単位：nGy/h)

測定 エリア	測定 地点数	各地点の月間平均値の範囲			過去の月間平均値		
		4 月	5 月	6 月	H26～*1	事故直後*1	事故前*1
1F 近傍	8	276～4,300	287～4,370	286～4,320	335～	910～	33～54
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約 1/40 に減少			18,341	176,000	
1F・2F 周辺	31	44～896	44～936	44～928	44～	117～	33～54
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約 1/62 に減少			2,547	58,454	
比較対 照地点	3	61～116	61～118	61～119	61～	181～	39～42
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約 1/31 に減少			220	3,716	

(注) *1 H26～：平成 26 年度から前四半期まで。(次項以降も同じ)

事故直後：事故後（平成 23 年 3 月 11 日以降）から平成 25 年度まで。(次項以降も同じ)

事故前：平成 13 年度から事故前（平成 23 年 3 月 10 日以前）まで。

なお、測定地点数は年度により異なる。

(2) 1 時間値の変動状況

各測定地点における 1 時間値は、降雨等の影響による変動があるものの、原子力発電所等に由来する変動はありませんでした。

なお、1 時間値は降雨による影響により、およそ 300nGy/h 以下の地域では自然の放射性物質が地表付近に降下するため、一時的に空間線量率が上昇し、300nGy/h を超える地域では自然の放射性物質による上昇に比べ、雨水による遮へい効果が大きい一時的に低下する傾向が見られます。

各地点の空間線量率の最大値（1時間値）（単位：nGy/h）

測定 エリア	測定 地点数	各地点の最大値の範囲			過去の最大値		
		4月	5月	6月	H26～	事故直後	事故前*1
1F 近傍	8	296～4,420	297～4,500	299～4,450	18,578	1,018,174	157
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/226に減少					
1F・2F 周辺	31	58～948	64～988	68～986	2,674	1,591,066	
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/1610に減少					
比較対 照地点	3	81～130	74～127	83～140	232	9,956	88
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/71に減少					

（注）*1 事故前：平成13年度から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

4-1-2 空間積算線量

1F近傍で7地点、1F・2F周辺で57地点、計64地点で空気中の放射線量を測定しました。詳細な測定値は39～41ページを参照。

90日換算値は、事故の影響により事故前の測定値の範囲を上回っていますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

空間積算線量の90日換算値（単位：mGy/90日）

測定 エリア	測定 地点数	測定値	過去の測定値		
		(令和2年4月9日～ 令和2年7月9日)	H26～	事故直後	事故前*1
1F近傍	7	0.64～16	0.76～45	2.38～137.79	0.10～0.14
		事故直後の最大値と比較すると 今期最大値は約1/8に減少			
1F・2F周辺	57	0.16～12	0.15～31	0.18～35.84	
		事故直後の最大値と比較すると 今期最大値は約1/2に減少			

（注）*1 事故前：事故前から測定していた20地点における平成15年度第1四半期から平成22年度第3四半期まで。

4-2 環境試料

4-2-1 大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能

1F近傍で3地点、1F・2F周辺で14地点、計17地点で全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を実施しました。詳細な測定値は42～43ページを参照。

(1) 月間平均値

全アルファ放射能及び全ベータ放射能の月間平均値は、原子力発電所からの距離に関係なく、いずれの月も事故前の月間平均値の範囲内です。平成26年度以降は事故前の月間平均値と同程度となっており、事故前のレベルに回復しています。

各地点の大気浮遊じんの月間平均値

(単位：Bq/m³)

測定項目	測定 エリア	測定 地点数	各地点の月間平均値の範囲			過去の月間平均値		
			4月	5月	6月	H26～	事故直後	事故前*1
全 アルファ 放射能	1F 近傍	3	0.011～ 0.019	0.017～ 0.030	0.012～ 0.024	0.004～ 0.059	0.007～ 0.039	0.007～ 0.076
	1F・2F 周辺	14	0.009～ 0.037	0.012～ 0.053	0.013～ 0.043	0.003～ 0.088	0.009～ 0.046	
全 ベータ 放射能	1F 近傍	3	0.028～ 0.073	0.038～ 0.11	0.035～ 0.091	0.022～ 0.16	0.025～ 0.22	0.018～ 0.12
	1F・2F 周辺	14	0.029～ 0.076	0.037～ 0.094	0.038～ 0.10	0.017～ 0.13	0.030～ 2.0	

(注) *1 事故前：平成13年9月から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

(2) 変動状況

全アルファ放射能及び全ベータ放射能の最大値は事故前の最大値を下回っています。平成26年度以降は事故前の最大値と同程度となっており、事故前のレベルに回復しています。また、空間線量率の高低にかかわらず、全アルファ・全ベータ放射能に強い相関が見られており、全アルファ放射能及び全ベータ放射能の最大値が事故前の最大値を下回っていることから、変動の要因は自然放射能の影響によるものと考えられました。なお、全アルファ放射能と全ベータ放射能の相関直線から外れた試料については、個別に調査を実施した結果、原子力発電所からの新たな放出によるものではないと考えられます。巻末のグラフ集(57～65ページ)に相関図を示しております。

各地点の大気浮遊じんの最大値

(単位：Bq/m³)

測定項目	測定 エリア	測定 地点数	各地点の最大値の範囲			過去の最大値		
			4月	5月	6月	H26～	事故直後	事故前*1
全 アルファ 放射能	1F 近傍	3	0.066～ 0.15	0.10～ 0.21	0.074～ 0.19	0.21	0.19	0.58
	1F・2F 周辺	14	0.054～ 0.26	0.079～ 0.38	0.069～ 0.23	0.41	0.34	
全 ベータ 放射能	1F 近傍	3	0.11～ 0.44	0.16～ 0.63	0.13～ 0.62	0.62	1.3	0.78
	1F・2F 周辺	14	0.087～ 0.35	0.14～ 0.60	0.12～ 0.50	0.71	54	

(注) *1 事故前：平成13年9月から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

4-2-2 環境試料の核種濃度（ガンマ線放出核種）

今期に測定した環境試料は、大気浮遊じんが 49 地点 147 試料、降下物が 12 地点 36 試料、土壌が 22 地点 22 試料、上水が 12 地点 12 試料、海水が 8 地点 20 試料、海底土が 8 地点 8 試料、松葉が 20 地点 20 試料の 7 品目で合計 265 試料でした。詳細な測定値は 44～48、51～56 ページを参照。

上水を除く 6 品目の 69 試料からセシウム-134 が、全 7 品目の 187 試料からセシウム-137 が検出されました。事故の影響により多くの試料で事故前の測定値の範囲を上回りましたが、事故直後と比較すると大幅に低下しており、前四半期の測定値と比較すると概ね横ばい傾向にあります。

土壌の双葉町郡山の地点でコバルト-60 が検出（2.2Bq/kg 乾）されましたが、セシウム-137 との放射能濃度比が当該地点でこれまで検出されたコバルト-60 と同程度であることから、原子力発電所からの新たな放出によるものではないと考えられます。また、いわき市川部町の地点でアンチモン-125 が検出（10Bq/kg 乾）されましたが、平成 26 年度から前四半期までの測定値（ND～28Bq/kg 乾）の範囲内でした。なお、アンチモン-125 が検出された理由は、平成 28 年度から従来まで実施してきた文部科学省放射能測定シリーズに定められた分析を再開し、測定時間を長くしたことでより低濃度まで測定できるようになったためと考えられます。

上水の一部（水源は表流水）からセシウム-137 が検出（0.001～0.028Bq/L）されています。この検出結果は、食品中の放射性セシウムの基準値のうち、飲料水の基準値である 10Bq/kg（10Bq/L）を大きく下回っています。

環境試料のガンマ線放出核種濃度

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値	過去の測定値		
					H26～	事故直後	事故前*1
大気浮遊じん (mBq/m ³)	Cs-134	1F 近傍	7	ND～0.094	ND～1.8	0.072～38	ND
		1F・2F 周辺	35	ND～0.004	ND～0.65	ND～1,100	
		比較対照地点	7	ND	ND～0.13	ND～8.2	
	Cs-137	1F 近傍	7	0.031～1.6	ND～5.2	0.14～39	ND
		1F・2F 周辺	35	ND～0.11	ND～2.1	ND～990	
		比較対照地点	7	ND～0.087	ND～0.45	ND～10	
降下物 (Bq/m ²) (MBq/km ²)	Co-60	1F 近傍	2	ND	ND～0.54	ND	ND
		1F・2F 周辺	8	ND	ND	ND	
		比較対照地点	2	ND	ND	ND	
	Sb-125	1F 近傍	2	ND	ND～2.0	ND	ND
		1F・2F 周辺	8	ND	ND～3.1	ND	
		比較対照地点	2	ND	ND	ND	

(注) *1 事故前：平成 13 年度から事故前（平成 23 年 3 月 10 日以前）まで。

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値	過去の測定値		
					H26～*1	事故直後	事故前*2
降下物 (Bq/m ²) (MBq/km ²)	Cs-134	1F 近傍	2	1.3～26	ND～1,200	76～5,000,000	ND
		1F・2F 周辺	8	ND～4.2	ND～110	ND～940,000	
		比較対照地点	2	ND～0.50	ND～180	ND～140,000	ND
	Cs-137	1F 近傍	2	24～460	17～4,300	170～5,600,000	ND～0.15
		1F・2F 周辺	8	0.64～72	ND～670	ND～1,000,000	
		比較対照地点	2	0.25～8.9	ND～620	ND～150,000	ND～0.093
土壌 (Bq/kg 乾) (事故直後及び H26～H27 は Bq/kg 湿))	Co-60	1F 近傍	2	ND～2.2	ND～5.3	ND	ND
		1F・2F 周辺	13	ND	ND～1.9	ND	
		比較対照地点	7	ND	ND	ND	ND
	Sb-125	1F 近傍	2	ND	ND～130	ND	ND
		1F・2F 周辺	13	ND	ND	ND	
		比較対照地点	7	ND～10	ND～28	ND	ND
	Cs-134	1F 近傍	2	1,600～10,000	2,300～49,000	2,700～230,000	ND
		1F・2F 周辺	13	1.4～490	ND～7,800	32～12,000	
		比較対照地点	7	ND～160	2.9～690	14～9,200	ND
	Cs-137	1F 近傍	2	29,000～190,000	20,000～330,000	3,100～310,000	ND～16
		1F・2F 周辺	13	20～8,700	7.7～52,000	75～26,000	
		比較対照地点	7	33～2,900	37～4,500	18～14,000	ND～30
上水 (Bq/L)	Cs-134	1F 近傍	1	ND	ND	—	ND
		1F・2F 周辺	11	ND	ND～0.062	ND～0.17	
		比較対照地点	2	—	ND～0.002	ND	ND
	Cs-137	1F 近傍	1	ND	ND～0.003	—	ND
		1F・2F 周辺	11	ND～0.028	ND～0.18	ND～0.29	
		比較対照地点	2	—	ND～0.011	ND	ND
海水 (Bq/L)	Cs-134	1F 放取水口	3	ND～0.004	ND～0.35	ND～2.4	ND
		1F 沖合	3	ND	ND～0.067	ND～0.094	
		2F 放水口	2	ND	ND～0.012	ND～0.20	
		松川浦	1	—	ND～0.005	ND	ND
	Cs-137	1F 放取水口	3	0.005～0.067	ND～1.1	ND～5.0	ND～0.003
		1F 沖合	3	0.004～0.022	ND～0.31	ND～0.19	
		2F 放水口	2	0.019～0.024	ND～0.12	0.12～0.42	
		松川浦	1	—	ND～0.028	ND	

(注)「—」は今期測定対象外。

*1 上水の 1F 近傍は平成 31 年度から再開。

*2 事故前：平成 13 年度から事故前（平成 23 年 3 月 10 日以前）まで。

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値	過去の測定値		
					H26～	事故直後	事故前*1
海底土 (Bq/kg 乾)	Mn-54	1F 放取水口	3	ND	ND～1.1	ND～1.3	ND
		1F 沖合	3	ND	ND	ND～0.62	
		2F 放水口	2	ND	ND	ND	
		松川浦	1	—	ND	ND	ND
	Co-60	1F 放取水口	3	ND	ND～1.0	ND～1.3	ND
		1F 沖合	3	ND	ND	ND	
		2F 放水口	2	ND	ND	ND	
		松川浦	1	—	ND	ND	ND
	Cs-134	1F 放取水口	3	13～15	8.7～320	120～450	ND
		1F 沖合	3	3.2～13	ND～130	25～72	
		2F 放水口	2	6.1～6.9	3.0～68	47～230	
		松川浦	1	—	ND～4.4	1.3	ND
	Cs-137	1F 放取水口	3	230～270	140～870	230～1,000	ND～0.97
		1F 沖合	3	54～230	17～630	61～170	
		2F 放水口	2	97～120	50～200	100～470	
		松川浦	1	—	1.8～13	2.6	ND～2.3
松葉 (Bq/kg 生)	I-131	1F 近傍	2	ND	ND	ND～380	ND
		1F・2F 周辺	13	ND	ND	ND	ND
		比較対照地点	5	ND	ND	ND	ND
	Cs-134	1F 近傍	2	7.4～20	7.2～1,200	740～210,000	ND
		1F・2F 周辺	13	ND～9.6	ND～280	ND～61,000	
		比較対照地点	5	ND	ND～91	ND～33,000	—
	Cs-137	1F 近傍	2	140～340	99～6,100	1,900～230,000	ND～1.2
		1F・2F 周辺	13	ND～180	ND～910	ND～68,000	
		比較対照地点	5	ND～3.4	ND～290	ND～52,000	—
ほんだわら (Bq/kg 生)	Cs-134	1F 海域	1	—	0.40	—	ND
		2F 海域	1	—	ND	—	ND
	Cs-137	1F 海域	1	—	3.5	—	ND
		2F 海域	1	—	0.47	—	ND

(注)「—」は今期測定対象外。

*1 事故前：平成13年度から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

4-2-3 環境試料の核種濃度（ベータ線放出核種）

大気中水分 6 地点 18 試料、上水 12 地点 12 試料、海水 8 地点 20 試料の合計 50 試料について、トリチウムを調査した結果、大気中水分 6 地点 18 試料、海水 1 地点 1 試料から検出されました。大気中水分試料のトリチウム検出値は、富岡町富岡、大熊町夫沢、双葉町郡山の地点で事故前の測定値の範囲を上回りましたが、調査を再開した平成 30 年度から前四半期までの測定値（富岡町富岡：ND～14 mBq/m³、大熊町夫沢：16～64mBq/m³、双葉町郡山：5.1～56mBq/m³）の範囲内でした。詳細な測定値は 49～50、54 ページを参照。

土壌 22 地点 22 試料、海水 8 地点 20 試料、海底土 8 地点 8 試料の合計 50 試料について、ストロンチウム-90 を調査した結果、土壌 19 地点 19 試料、海水 8 地点 20 試料、海底土 4 地点 4 試料から検出されましたが、事故直後と比較すると大幅に低下しており、前四半期の測定値と比較すると概ね横ばい傾向にあります。詳細な測定値は 53～54、56 ページを参照。

環境試料のベータ線放出核種濃度

試料名	核種	採取エリア	地点数	測定値	過去の測定値		
					H26～	事故直後	事故前 ^{*4}
大気中水分 (mBq/m ³)	H-3	1F 近傍	3	5.0～52	1.3～64 ^{*1, *3}	—	ND～23
		1F・2F 周辺	2	3.5～14	ND～14 ^{*1}	—	ND～14
		比較対照地点	1	4.6～8.7	ND～21	ND～41	ND～12
土壌 (Bq/kg 乾)	Sr-90	1F 近傍	2	25～44	19～61	15～81	ND～3.5
		1F・2F 周辺	13	ND～3.4	ND～17	ND～14	
		比較対照地点	7	ND～5.9	ND～16	ND～32	1.8～4.3
上水 (Bq/L)	H-3	1F 近傍	1	ND	ND～0.48 ^{*2}	—	ND～1.2
		1F・2F 周辺	11	ND	ND～0.94	ND～0.96	
		比較対照地点	2	—	ND～0.85	ND～1.4	ND～1.3
	Sr-90	1F 近傍	1	—	0.0012 ^{*2}	—	0.001～0.002
		1F・2F 周辺	11	—	ND～0.002	ND～0.002	
		比較対照地点	1	—	0.001～0.0015	0.001～0.002	0.001～0.002

(注)「—」は今期測定対象外。

*1 大気中水分の 1F 近傍、1F・2F 周辺は平成 30 年度から再開。

*2 上水の 1F 近傍は平成 31 年度から再開。

*3 大熊町夫沢の地点は、平成 31 年 4 月 3 日～6 月 3 日のいずれかの時点で大気導入配管内結露水トラップの破損が発生し、令和元年 11 月 19 日に交換するまでの期間中、局舎内大気を吸引していたため、欠測とする。

*4 事故前：平成 13 年度から事故前（平成 23 年 3 月 10 日以前）まで。（大気中水分は平成 20 年度から事故前（平成 23 年 3 月 10 日以前）まで。）

試料名	核種	採取 エリア	地点 数	測定値	過去の測定値		
					H26～	事故直後	事故前*1
海水 (Bq/L)	H-3	1F 放取水口	3	ND～0.39	ND～2.6	ND～6.2	ND～2.9
		1F 沖合	3	ND	ND～0.91	ND～0.58	
		2F 放水口	2	ND	ND～0.86	ND～0.56	
		松川浦	1	—	ND	ND	
	Sr-90	1F 放取水口	3	0.0006～0.0029	ND～0.76	0.005～2.9	ND～0.002
		1F 沖合	3	0.0007～0.0011	ND～0.031	0.001～0.26	
		2F 放水口	2	0.0008～0.0009	0.0008～0.003	0.033～0.034	
		松川浦	1	—	0.001～0.0011	0.001	
海底土 (Bq/kg 乾)	Sr-90	1F 放取水口	3	ND～0.44	ND～4.6	ND～1.2	ND
		1F 沖合	3	ND	ND～0.71	ND～0.19	
		2F 放水口	2	0.21	ND～0.32	ND～0.21	
		松川浦	1	—	ND～0.21	ND	
ほんだわら (Bq/kg 生)	Sr-90	1F 海域	1	—	0.12	—	0.04～0.13
		2F 海域	1	—	0.026	—	0.05～0.19

(注) 「—」は今期測定対象外。

*1 事故前：平成13年度から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

4-2-4 環境試料の核種濃度（アルファ線放出核種）

土壌16地点16試料について、ウラン-234、ウラン-235及びウラン-238を調査した結果、16地点16試料からウラン-234(3.2～28Bq/kg乾)、ウラン-235(0.35～1.6Bq/kg乾)及びウラン-238(3.1～35Bq/kg乾)が検出されましたが、いずれの核種の放射能比も天然ウランの放射能比^{※1}と同程度であり、ウラン濃度は国内の調査事例^{※2}と同程度でした。このことから土壌中のウランは天然ウランに由来するものと考えられます。詳細な測定値は53、56ページを参照。

土壌22地点22試料、海水8地点20試料、海底土8地点8試料の合計28試料について、プルトニウム-238及びプルトニウム-239+240を調査した結果、土壌10地点10試料、海底土1地点1試料からプルトニウム-238が検出され、土壌14地点14試料、海水6地点7試料及び海底土8地点8試料からプルトニウム-239+240が検出されました。詳細な測定値は53～54、56ページを参照。

プルトニウム-238は、土壌の双葉町郡山の地点(0.05Bq/kg乾)で事故前の測定値の範囲(ND～0.03Bq/kg乾)を上回りましたが、平成26年度から前四半期までの測定値(ND～0.09Bq/kg乾)の範囲内でした。プルトニウム-239+240は、事故前の測定値の範囲内でした。

※1 天然ウランの放射能比(ウラン-234：ウラン-235：ウラン-238=1：0.047：1) 出典：文部科学省発行 放射能測定法シリーズ No.14 ウラン分析法

※2 平成25年度から平成30年度に鳥取県の水田又は畑地において実施されたウラン濃度の調査結果(ウラン-234：12～40Bq/kg乾、ウラン-235：0.42～15Bq/kg乾、ウラン-238：10～44Bq/kg) (環境放射線データベース (URL:<https://search.kankyo-hoshano.go.jp/top.jsp>) より)

環境試料のアルファ線放出核種濃度

試料名	核種	採取 エリア	地点 数	測定値	過去の測定値		
					H26～	事故直後	事故前 ^{*3}
土 壤 (Bq/kg 乾)	U-234	1F 近傍	2	11～15 ^{*1}	—	—	—
		1F・2F 周辺	13	3.2～28 ^{*1}	—	—	—
		比較対照地点	1	8.1 ^{*1}	—	—	—
	U-235	1F 近傍	2	0.51～0.56 ^{*1}	—	—	—
		1F・2F 周辺	13	0.35～1.6 ^{*1}	—	—	—
		比較対照地点	1	0.38 ^{*1}	—	—	—
	U-238	1F 近傍	2	10～13 ^{*1}	—	—	—
		1F・2F 周辺	13	3.1～35 ^{*1}	—	—	—
		比較対照地点	1	8.2 ^{*1}	—	—	—
	Pu-238	1F 近傍	2	0.02～0.05	ND～0.09	ND～0.03	ND～0.03
		1F・2F 周辺	13	ND～0.02	ND～0.05	ND～0.05	
		比較対照地点	7	ND	ND～0.03	ND～0.18	ND～0.08
	Pu-239+240	1F 近傍	2	0.08～0.35	0.05～0.37	0.20～0.34	ND～0.44
		1F・2F 周辺	13	ND～0.40	ND～0.97	ND～0.66	
		比較対照地点	7	0.42	ND～1.2	ND～4.8	ND～2.6
	Am-241	1F 近傍	2	測定中	0.02～0.18	0.02～0.16	—
		1F・2F 周辺	13	測定中	ND～0.44	ND～0.25	
		比較対照地点	1	0.14	0.06～0.41	0.11	—
Cm-244	1F 近傍	2	測定中	ND～0.02	ND	—	
	1F・2F 周辺	13	測定中	ND～0.03	ND		
	比較対照地点	1	ND	ND	ND	—	
上 水 (mBq/L)	Pu-238	1F 近傍	1	—	ND ^{*2}	—	—
		1F・2F 周辺	11	—	ND	ND	
		比較対照地点	1	—	ND	ND	—
	Pu-239+240	1F 近傍	1	—	ND ^{*2}	—	ND
		1F・2F 周辺	11	—	ND	ND	
比較対照地点		1	—	ND	ND	ND	
海 水 (mBq/L)	Pu-238	1F 放取水口	3	ND	ND～0.010	ND	—
		1F 沖合	3	ND	ND	ND	
		2F 放水口	2	ND	ND	ND	
		松川浦	1	—	ND	ND	—
	Pu-239+240	1F 放取水口	3	ND～0.010	ND～0.016	ND～0.014	ND～0.013
		1F 沖合	3	ND～0.010	ND～0.010	ND～0.010	
		2F 放水口	2	0.009～0.012	ND～0.020	ND～0.011	
松川浦	1	—	ND	ND	ND～0.012		

(注) 「—」は今期測定対象外。

*1 土壌の U-234、U-235、U-238 は令和 2 年度から調査を実施。

*2 上水の 1F 近傍は平成 31 年度から開始。

*3 事故前：平成 13 年度から事故前（平成 23 年 3 月 10 日以前）まで。

試料名	核種	採取 エリア	地点 数	測定値	過去の測定値		
					H26～	事故直後	事故前*1
海底土 (Bq/kg 乾)	Pu-238	1F 放取水口	3	ND	ND	ND	—
		1F 沖合	3	ND～0.02	ND～0.01	ND～0.02	
		2F 放水口	2	ND	ND	ND	
		松川浦	1	—	ND	ND	—
	Pu- 239+240	1F 放取水口	3	0.15～0.24	0.09～0.43	0.08～0.32	0.15～0.61
		1F 沖合	3	0.37～0.50	0.21～0.61	0.33～0.52	
		2F 放水口	2	0.24～0.36	0.14～0.31	0.21～0.25	
		松川浦	1	—	0.18～0.31	0.20	0.13～0.40
ほんだわら (Bq/kg 生)	Pu-238	1F 海域	1	—	ND	—	—
		2F 海域	1	—	ND	—	—
	Pu- 239+240	1F 海域	1	—	0.0038	—	0.0035～0.021
		2F 海域	1	—	ND	—	0.0067～0.022

(注)「—」は今期測定対象外。

*1 事故前：平成13年度から事故前（平成23年3月10日以前）まで。

第5 原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表

5-1 空間放射線

単位 線量率:μSv/h 測定時間:h
上段:平均値 (下段):最大値

No.	測定項目 測定地点名	R2.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R3.1		2		3	
		線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間
1	いわき市 小川	50 (71)	720	48 (66)	744	47 (69)	720																		
2	いわき市 久之浜	70 (82)	720	70 (82)	744	70 (85)	720																		
3	いわき市 千桶売	50 (66)	720	51 (64)	744	51 (79)	720																		
4	いわき市 川前	62 (82)	720	63 (76)	744	63 (89)	720																		
5	田村市 都路馬洗戸	76 (90)	720	78 (92)	744	79 (91)	720																		
6	広野町 二ツ沼	80 (104)	720	80 (94)	744	80 (101)	720																		
7	広野町 小滝平	77 (95)	720	78 (92)	744	77 (108)	720																		
8	楢葉町 山田岡	61 (83)	720	62 (74)	744	62 (79)	720																		
9	楢葉町 木戸ダム	92 (112)	720	94 (109)	744	94 (111)	720																		
10	楢葉町 繁岡	164 (183)	720	165 (175)	744	162 (178)	720																		
11	楢葉町 松ヶ館	146 (164)	720	147 (156)	744	145 (160)	720																		
12	楢葉町 波ヶ倉	210 (225)	720	211 (219)	744	209 (222)	720																		

No.	測定年月 測定項目 測定地点名	R2.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R3.1		2		3	
		繰上 率	測定 時間	繰上 率	測定 時間	繰上 率	測定 時間	繰上 率	測定 時間	繰上 率	測定 時間	繰上 率	測定 時間	繰上 率	測定 時間	繰上 率	測定 時間	繰上 率	測定 時間	繰上 率	測定 時間	繰上 率	測定 時間	繰上 率	測定 時間
13	富岡町 上郡山	219 (231)	720	223 (233)	744	220 (232)	720																		
14	富岡町 下郡山	149 (166)	720	150 (161)	744	151 (167)	720																		
15	富岡町 深谷*	125 (145)	720	129 (142)	744	129 (147)	720																		
16	富岡町 富岡	129 (146)	720	127 (138)	744	123 (137)	720																		
17	富岡町 夜の森	220 (230)	720	220 (228)	744	219 (229)	720																		
18	川内村 下川内	118 (131)	720	121 (134)	744	120 (135)	720																		
19	大熊町 向畑	1,100 (1,140)	720	1,110 (1,160)	744	1,100 (1,140)	720																		
20	大熊町 熊川*	1,360 (1,430)	720	1,400 (1,490)	744	1,400 (1,520)	720																		
21	大熊町 南台	4,300 (4,420)	720	4,370 (4,500)	744	4,320 (4,450)	720																		
22	大熊町 大野*	276 (296)	720	287 (297)	744	286 (299)	720																		
23	大熊町 夫木次	2,720 (2,800)	720	2,750 (2,850)	744	2,670 (2,770)	720																		
24	双葉町 山田	3,710 (3,990)	720	3,830 (4,130)	744	3,950 (4,150)	720																		
25	双葉町 郡山	332 (345)	720	333 (344)	744	330 (343)	720																		
26	双葉町 新山	501 (522)	720	516 (542)	744	517 (553)	720																		
27	双葉町 上羽	416 (427)	720	420 (438)	744	416 (436)	720																		

No.	測定年月 測定項目 測定地点名	R2.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R3.1		2		3	
		線量 率	測定 時間	線量 率	測定 時間	線量 率	測定 時間	線量 率	測定 時間	線量 率	測定 時間	線量 率	測定 時間	線量 率	測定 時間	線量 率	測定 時間	線量 率	測定 時間	線量 率	測定 時間	線量 率	測定 時間	線量 率	測定 時間
28	浪江町 請 ^リ 戸 ^シ *1	97 (113)	720	101 (112)	744	102 (118)	720																		
29	浪江町 棚 ^な 塩 ^{しお} *1	71 (84)	720	72 (88)	744	72 (103)	720																		
30	浪江町 浪 ^な 江 ^え	113 (122)	720	114 (126)	744	114 (135)	720																		
31	浪江町 幾 ^よ 世 ^よ 橋 ^{はし}	87 (98)	720	88 (99)	744	87 (119)	720																		
32	浪江町 大 ^{おほ} 柵 ^{さし} タム	632 (647)	720	639 (656)	744	641 (657)	720																		
33	浪江町 南 ^{みな} 津 ^つ 島 ^{しま}	896 (948)	720	936 (988)	744	928 (986)	720																		
34	葛尾村 夏 ^{なつ} 湯 ^ゆ	126 (138)	720	130 (142)	744	129 (142)	720																		
35	南相馬市 泉 ^{いづみ} 次 ^{つぎ}	102 (112)	720	103 (116)	744	103 (117)	720																		
36	南相馬市 横 ^{よこ} 川 ^{がわ} タム	192 (203)	720	196 (209)	744	196 (207)	720																		
37	南相馬市 萱 ^{いば} 浜 ^ま	44 (58)	720	44 (68)	744	44 (68)	720																		
38	飯館村 伊 ^い 丹 ^に 次 ^{つぎ}	140 (154)	720	143 (154)	744	144 (157)	720																		
39	川俣町 山 ^{やま} 木 ^き 屋 ^や	119 (134)	720	123 (139)	744	122 (136)	720																		

注) 1 No.の網掛け部分は東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所から半径5km未満の地域

2 *1 可搬型モニタリングポストによる測定

3 *2 測定地点を、福島県旧原子力センターから大熊町旧役場庁舎に令和2年4月1日から変更した。

5-1-1(2) 空間線量率 (比較参照地点)

No.	測定地点名	測定項目	R2.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R3.1		2		3		
			線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	
1	福島市 紅葉山 ^{*1}		110 (119)	720	112 (127)	744	115 (140)	713																			
2	郡山市 日和田		116 (130)	720	118 (126)	744	119 (134)	720																			
3	いわき市		61 (81)	720	61 (74)	744	61 (83)	718																			

注) *1 令和元年台風第19号に伴う河川増水による局舎浸水による局舎浸水のため、令和元年10月13日より紅葉山局から南西に約200mの場所で可搬型モニタリングポストにより代替測定

単位: 線量率=μSv/h, 測定時間=h
上段: 平均値 (下段): 最大値

5-1-2 空間積算線量

(単位 mGy)

No.	測定地点名	測定項目	R2. 4. 9 ~ R2. 7. 9		測定日数		積算線量		測定日数	
			積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数
1	いわき市 石	いしもり森	0.19 (0.19)	91						
2	いわき市 四倉	よつくら倉	0.24 (0.24)	91						
3	いわき市 大野	おおの野	0.21 (0.21)	91						
4	いわき市 福岡	ふくおか岡	0.23 (0.23)	91						
5	いわき市 大久	おおひさ久	0.22 (0.21)	91						
6	いわき市 末	すえつ末	0.27 (0.26)	91						
7	いわき市 上小川	かみおかわ小川	0.31 (0.31)	91						
8	いわき市 志田	しだ志田	0.34 (0.34)	91						
9	いわき市 小白井	おじろい井	0.21 (0.20)	91						
10	田村市 場々	ばば場々	0.32 (0.31)	91						
11	田村市 古道	ふるみ道	0.25 (0.25)	91						
12	田村市 岩井沢	いわいさわ沢	0.20 (0.20)	91						
13	広野町 下浅見川	しもあさみがわ川	0.21 (0.20)	91						
14	広野町 帯平	ほりだいら平	0.25 (0.25)	91						
15	檜葉町 山田岡	やまだおおか岡	0.20 (0.20)	91						
16	檜葉町 乙次郎	おつとしろう郎	0.25 (0.25)	91						
17	檜葉町 井出	いいで井出	0.26 (0.26)	91						
18	檜葉町 上繁岡	かみしげおおか岡	0.34 (0.34)	91						
19	富岡町 太田	おおた田	0.46 (0.45)	91						
20	富岡町 赤木	あか木	0.39 (0.39)	91						
21	富岡町 小良ヶ浜	おらかはま浜	2.9 (2.9)	91						
22	富岡町 夜の森北	よのもりきた北	0.56 (0.55)	91						

(単位 mGy)

No.	測定地点名	測定項目	R2. 4. 9 ~ R2. 7. 9					
			積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数
23	富岡町 上手岡		0.57 (0.56)	91				
24	川内村 三ツ石		0.53 (0.53)	91				
25	川内村 貝ノ坂		0.78 (0.77)	91				
26	川内村 五枚沢		0.26 (0.26)	91				
27	川内村 上川内		0.21 (0.21)	91				
28	大熊町 天川原		0.35 (0.34)	91				
29	大熊町 旭ヶ丘		0.41 (0.41)	91				
30	大熊町 野上		1.4 (1.3)	91				
31	大熊町 熊川		2.9 *1 (2.9 *1)	91				
32	大熊町 大野		0.64 *2 (0.64 *2)	91				
33	大熊町 夫沢		16 (16)	91				
34	大熊町 湯の神		1.8 (1.8)	91				
35	大熊町 長者原		4.9 (4.9)	91				
36	双葉町 清戸追		0.81 (0.80)	91				
37	双葉町 郡山		0.78 (0.77)	91				
38	双葉町 長塚		1.0 (0.99)	91				
39	浪江町 井手		12 (12)	91				
40	浪江町 請戸		0.27 (0.27)	91				
41	浪江町 小野田		0.79 (0.78)	91				
42	浪江町 幾世橋		0.30 (0.30)	91				
43	浪江町 菊宿		0.63 (0.62)	91				
44	浪江町 昼曽根		8.1 *4 (8.0 *4)	91				

(単位 mGy)

No.	測定地点名	測定項目	R2. 4. 9 ~ R2. 7. 9						
			積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	
45	浪江町 津島		1.2 (1.2)	91					
46	葛尾村 大放		0.33 (0.33)	91					
47	葛尾村 落合		0.46 (0.45)	91					
48	葛尾村 野行		1.8 (1.8)	91					
49	南相馬市 浦尻		0.23 (0.23)	91					
50	南相馬市 耳谷		0.27 (0.27)	91					
51	南相馬市 川房		0.83 (0.82)	91					
52	南相馬市 関場		0.45 (0.44)	91					
53	南相馬市 高		0.23 (0.23)	91					
54	南相馬市 大木戸		0.18 (0.18)	91					
55	南相馬市 菅		0.16 (0.16)	91					
56	南相馬市 大原		0.34 (0.34)	91					
57	南相馬市 川子		0.24 (0.24)	91					
58	飯館村 蔵平		0.72 (0.72)	91					
59	飯館村 長泥		0.95 (0.94)	91					
60	飯館村 飯樋		0.54 (0.54)	91					
61	飯館村 白右		0.96 (0.95)	91					
62	飯館村 草野		0.83 (0.82)	91					
63	川俣町 山木屋坂下		0.82 (0.81)	91					
64	川俣町 山木屋		0.31 (0.30)	91					

注) 1 () 内は90日換算値

2 No. の網掛け部分は東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所から半径5km未満の地域

3 * 1 周辺において容器残渣置場造成工事が行われたことによる低下

4 * 2 令和2年4月9日に設置場所を移設したことによる低下

5 * 3 測定地点を、福島県旧原子力センターから大熊町旧役場庁舎に令和2年4月9日から変更した。

6 * 4 令和2年3月19日に設置場所を移設したことによる上昇

5-2-1 大気浮遊じん中の全アルファ放射能及び全ベータ放射能

単位:放射能濃度: Bq/m³ 測定時間:h
上段:平均値(下段):最大値

No.	測定地点名	測定項目	R2.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R3.1		2		3			
			測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間		
1	いわき市 <small>いわき</small> 小川 <small>小川</small>	全アルファ放射能	0.023 (0.13)	696	0.034 (0.20)	744	0.025 (0.16)	660																				
		全ベータ放射能	0.042 (0.18)	696	0.056 (0.26)	744	0.045 (0.22)	660																				
2	田村市 <small>たむら</small> 都路馬荒戸 <small>都路馬荒戸</small>	全アルファ放射能	0.009 (0.065)	720	0.013 (0.079)	744	0.016 (0.069)	660																				
		全ベータ放射能	0.029 (0.13)	720	0.037 (0.14)	744	0.039 (0.12)	660																				
3	広野町 <small>ひろの</small> 小瀬 <small>小瀬</small>	全アルファ放射能	0.011 (0.054)	720	0.018 (0.12)	732	0.015 (0.084)	660																				
		全ベータ放射能	0.031 (0.093)	720	0.042 (0.20)	732	0.038 (0.15)	660																				
4	楢葉町 <small>のば</small> 水戸ダム <small>水戸ダム</small>	全アルファ放射能	0.015 (0.073)	720	0.024 (0.14)	732	0.023 (0.080)	660																				
		全ベータ放射能	0.035 (0.11)	720	0.048 (0.21)	732	0.045 (0.12)	660																				
5	楢葉町 <small>のば</small> 繁 <small>繁</small>	全アルファ放射能	0.013 (0.10)	720	0.020 (0.20)	744	0.015 (0.13)	720																				
		全ベータ放射能	0.057 (0.33)	720	0.080 (0.60)	744	0.064 (0.41)	720																				
6	郡岡町 <small>ぐんおか</small> 電 <small>電</small>	全アルファ放射能	0.013 (0.079)	720	0.021 (0.13)	666	0.015 (0.078)	720																				
		全ベータ放射能	0.052 (0.24)	720	0.076 (0.38)	666	0.060 (0.26)	720																				
7	川内村 <small>かわうち</small> 平 <small>平</small> 川 <small>川</small> 内 <small>内</small>	全アルファ放射能	0.021 (0.13)	720	0.032 (0.19)	744	0.030 (0.15)	660																				
		全ベータ放射能	0.042 (0.18)	720	0.057 (0.25)	744	0.055 (0.21)	660																				
8	大熊町 <small>おおくま</small> 大 <small>大</small> 野 <small>野</small>	全アルファ放射能	0.019 (0.15)	720	0.030 (0.21)	744	0.024 (0.19)	720																				
		全ベータ放射能	0.073 (0.44)	720	0.11 (0.63)	744	0.091 (0.62)	720																				

No.	測定地点名	測定項目	K2.4		5		6		7		8		9		10		11		12		K3.1		2		3		
			測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	
9	大瀬町 夫 <small>おと</small> と <small>と</small> の <small>の</small> 坂 <small>さか</small>	全アルファ 放射能	0.013 (0.095)	720	0.020 (0.15)	744	0.012 (0.10)	720																			
		全ベータ 放射能	0.062 (0.30)	720	0.083 (0.49)	744	0.059 (0.35)	720																			
10	双葉町 こ <small>こ</small> の <small>の</small> 山 <small>やま</small>	全アルファ 放射能	0.011 (0.066)	720	0.017 (0.10)	744	0.015 (0.074)	720																			
		全ベータ 放射能	0.028 (0.11)	720	0.038 (0.16)	744	0.035 (0.13)	720																			
11	浪江町 幾 <small>いく</small> 世 <small>よ</small> の <small>の</small> 桶 <small>け</small>	全アルファ 放射能	0.017 (0.094)	720	0.026 (0.16)	744	0.021 (0.10)	666																			
		全ベータ 放射能	0.035 (0.14)	720	0.047 (0.22)	744	0.040 (0.15)	666																			
12	浪江町 大 <small>おほ</small> の <small>の</small> 桶 <small>け</small>	全アルファ 放射能	0.024 (0.12)	720	0.038 (0.18)	744	0.037 (0.13)	660																			
		全ベータ 放射能	0.060 (0.22)	720	0.084 (0.30)	744	0.082 (0.23)	660																			
13	郡尾村 夏 <small>なつ</small> の <small>の</small> 桶 <small>け</small>	全アルファ 放射能	0.037 (0.26)	720	0.053 (0.38)	732	0.043 (0.23)	648																			
		全ベータ 放射能	0.064 (0.35)	720	0.088 (0.51)	732	0.074 (0.34)	648																			
14	藤相馬市 イ <small>い</small> サ <small>さ</small> の <small>の</small> 坂 <small>さか</small>	全アルファ 放射能	0.013 (0.055)	720	0.019 (0.096)	744	0.018 (0.088)	720																			
		全ベータ 放射能	0.032 (0.087)	720	0.040 (0.14)	744	0.039 (0.14)	720																			
15	藤相馬市 置 <small>い</small> の <small>の</small> 坂 <small>さか</small>	全アルファ 放射能	0.013 (0.089)	720	0.019 (0.14)	744	0.013 (0.075)	720																			
		全ベータ 放射能	0.062 (0.30)	720	0.083 (0.46)	744	0.061 (0.27)	720																			
16	飯沼村 伊 <small>い</small> 丹 <small>に</small> の <small>の</small> 坂 <small>さか</small>	全アルファ 放射能	0.011 (0.10)	720	0.012 (0.096)	744	0.018 (0.11)	720																			
		全ベータ 放射能	0.060 (0.31)	720	0.064 (0.33)	744	0.083 (0.36)	720																			
17	川俣町 山 <small>やま</small> の <small>の</small> 坂 <small>さか</small>	全アルファ 放射能	0.014 (0.11)	720	0.020 (0.13)	744	0.023 (0.15)	720																			
		全ベータ 放射能	0.076 (0.34)	720	0.094 (0.44)	744	0.10 (0.50)	720																			

注) 1 No.の欄内部分は東京電力株式会社福島第一原子力発電所から半径5km圏内の地域

2 *1 測定地点を、福島県原子力センターから大熊町役場庁舎に令和2年4月1日から変更した。

5-2-2(1) 大気浮遊じんの核種濃度

No.	地点名	採取期間	核種濃度 (mBq/m ³)																	
			⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹²⁵ Sb	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce						
1	いわき市 おがわ小川 (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
2	田村市 みやこしろまあるいど 都路馬洗戸 (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
3	広野町 こまきから 小竜平 (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	0.005	ND	
4	楢葉町 きど 木戸ダム (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	ND	ND	
5	楢葉町 しげおが 繁岡 (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.023	0.026	ND	
6	富岡町 とみおが 富岡 (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 ^{*5} R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.023	0.036	ND	
7	川内村 しものわうち 下川内 (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.019	0.006	ND	
8	大熊町 おのおの 大野 (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.044	0.053	ND	
9	大熊町 おくとせ 矢次 ^{*4} (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.061	1.0	0.83	0.46	ND	
10	双葉町 こおりのやま 郡山 (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.094	1.6	0.058	0.84	ND	
11	浪江町 きよはし 幾世橋 (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.062	0.043	ND	
12	浪江町 おほつぎ 大柵ダム (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.041	0.084	ND	
13	葛尾村 なつめ 夏湯 (連続ダストモニタ)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	0.009	0.006	ND

No.	地点名	採取期間	核種濃度 (mBq/m ³)												
			⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹²⁵ Sb	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	
40	南相馬市 馬場 (簡易型ダスト サンブラー)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 ^{*1}	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.078	ND
		R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.004	0.069	ND	ND	
		R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.066	ND	ND	
41	南相馬市 大木戸 (簡易型ダスト サンブラー)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.081	ND
		R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.053	ND	ND	
		R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.047	ND	ND	
42	南相馬市 榎原 (簡易型ダスト サンブラー)	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.024	ND
		R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.031	ND	ND	
		R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.029	ND	ND	

(注)

- * 1 簡易型ダストサンブラーが停電のため、R2. 4. 8 16:36~R2. 4. 8 16:40まで停止した。
- * 2 ダストサンブラーがヒューズ切れのため、R2. 5. 28 9:14~R2. 6. 1 10:05まで停止した。
- * 3 簡易型ダストサンブラーが設置施設点検作業に伴う停電のため、R2. 5. 29 13:07~R2. 5. 29 13:18まで停止した。
- * 4 測定地点を、福島県旧原子力センターから大熊町旧役場庁舎に令和2年4月1日から変更した。
- * 5 ポンプ故障のためR2. 5. 23 0:12~R2. 5. 25 15:32まで停止した。
- * 6 簡易型ダストサンブラーが設置施設点検作業に伴う停電のため、R2. 6. 23 12:33~R2. 6. 23 12:55まで停止した。

5-2-2(2) 大気浮遊じん核種濃度 (比較対照地点)

No.	地点名	採取期間	核種濃度 (mBq/m ³)																
			⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁰ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹²⁵ Sb	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce					
1	福島市 方木田 (簡易型ダスト サンブラー)	R2. 4. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R2. 5. 7 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.087
		R2. 6. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.031
2	会津若松市 追手町 (簡易型ダスト サンブラー)	R2. 4. 13 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R2. 5. 18 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.027
		R2. 6. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
3	郡山市 麓山 (簡易型ダスト サンブラー)	R2. 4. 6 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R2. 5. 11 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R2. 6. 3 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
4	白河市 昭和町 (簡易型ダスト サンブラー)	R2. 4. 6 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R2. 5. 11 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R2. 6. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
5	相馬市 玉野 (簡易型ダスト サンブラー)	R2. 4. 8 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R2. 5. 13 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.054
		R2. 6. 3 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
6	伊達市 富成 (簡易型ダスト サンブラー)	R2. 4. 8 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R2. 5. 13 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R2. 6. 3 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
7	南会津町 由島 (簡易型ダスト サンブラー)	R2. 4. 13 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R2. 5. 18 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R2. 6. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

(注) 1 「ND」：検出限界未満 「-」：欠測

2 上記の他、人工放射性核種は検出されなかった。

3 ろ紙の灰化処理はせず、ろ紙を直接U8容器で測定した。

4 ¹³⁴Cs及び¹³⁷Csの検出限界値：簡易型ダストサンブラー（1週間集じん）はおおむね0.04 mBq/m³以下である。

5-2-3(1) 大気中水分のトリチウム濃度

No.	地点名	採取期間	トリチウム濃度			備考
			大気中濃度 (mBq/m ³)	トリチウム濃度	捕集水濃度 (Bq/L)	
1	檜葉町 繁岡 <small>おほ</small>	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1	3.5		0.55	6.3
		R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1	5.9		0.54	11
		R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	7.7		0.52	15
2	富岡町 富岡 <small>おほ</small>	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1	4.4		0.67	6.6
		R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1	6.4		0.58	11
		R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	14		0.92	15
3	大熊町 大野 <small>おほ</small> *1	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1	5.0		0.77	6.5
		R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1	8.7		0.79	11
		R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	10		0.65	16
4	大熊町 夫沢 <small>おほ</small>	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1	30		4.6	6.6
		R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1	45		4.0	11
		R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	52		3.4	15
5	双葉町 郡山 <small>おほ</small>	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1	12		1.8	6.9
		R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1	29		2.5	12
		R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	33		2.0	16

(注) 1 No.の網掛け部分は東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所から半径5km未満の地域

2 「ND」：検出限界未満

3 検出限界値はおおむね5mBq/m³以下

4 *1 測定地点を、福島県旧原子力センターから大熊町旧役場庁舎に令和2年3月2日から変更した。

5-2-3(2) 大気中水分のトリチウム濃度 (比較対照地点)

No.	地点名	採取期間	トリチウム濃度		備考	
			大気中濃度 (mBq/m ³)	捕集水濃度 (Bq/L)		
1	福島市 方木田 <small>ほうきだ</small>	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1	5.3	0.92	大気中水分量 (g/m ³)	
		R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1	4.6	0.47		5.7
		R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	8.7	0.61		9.8
					14	

(注) 「ND」: 検出限界未満

数値は有効数字2桁にて表記

5-2-4(1) 降下物の核種濃度

No.	地点名	採取期間	核種濃度 (Bq/m ² (MBq/km ²))																							
			⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹²⁵ Sb	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce												
1	いわき市 久之浜 <small>ひきののほま</small>	R2. 4. 2 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
2	田村市 都路 <small>みやこどろ</small>	R2. 4. 2 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
3	富岡町 富岡 <small>とみおか</small>	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
4	大熊町 大野 <small>おおの</small> *1	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
5	双葉町 郡山 <small>ふたば</small> <small>こおりやま</small>	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
6	南相馬市 萱浜 <small>かいはま</small>	R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1 R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
7	浪江町 浪江 <small>なみえ</small>	R2. 4. 2 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 2 R2. 6. 2 ~ R2. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
8	浪江町 津島 <small>つしま</small>	R2. 4. 2 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 2 R2. 6. 2 ~ R2. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
9	葛尾村 落合 <small>おら</small> <small>あい</small>	R2. 4. 2 ~ R2. 5. 1 R2. 5. 1 ~ R2. 6. 2 R2. 6. 2 ~ R2. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
10	川俣町 山木屋 <small>やまきや</small>	R2. 5. 1 ~ R2. 6. 2 R2. 6. 2 ~ R2. 7. 2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

(注) 1 No.の網掛け部分は東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所から半径5km未満の地域

2 「ND」:検出限界未満

3 *1 測定地点を、福島県旧原子力センターから大熊町旧役場庁舎に令和2年4月1日から変更した。

5-2-4(2) 降下物の核種濃度 (比較対照地点)

No.	地点名	採取期間	核種濃度 (Bq/m ² (MBq/km ²))												
			⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹²⁵ Sb	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	
1	福島市 方水田	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.41	7.0	ND
		R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.50	8.9	ND
		R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.21	3.5	ND
2	三春町 深作	R2. 4. 1 ~ R2. 5. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.35	ND
		R2. 5. 1 ~ R2. 6. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.70	ND
		R2. 6. 1 ~ R2. 7. 1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.25	ND

(注) 1 「ND」: 検出限界未満 「/」: 対象外核種
 2 上記の他、人工放射性核種は検出されなかった。

飲料名	種類又は部位	採取地点番号及び採取地点名	採取年月日	単位	全(α)放射能濃度	核種濃度														天然核種											
						⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁰ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁰ Ru	¹²⁵ Sb	¹³⁷ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	³ H	¹³¹ I		⁸⁹ Sr	⁹⁰ Sr	²³⁸ U	²³⁹ Pu	²⁴¹ Am	²⁴⁴ Cm	⁴⁰ K				
上水	蛇口水	1	いわき市	R2. 4. 2	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND					
		2	田村市	R2. 4. 2	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND				
		3	広野町	R2. 4. 6	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND			
		4	楢葉町	R2. 4. 6	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND			
		5	富岡町	R2. 4. 6	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND			
		6	川内村	R2. 4. 2	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND			
		7	大熊町	R2. 4. 6	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND			
		8	双葉町 *1	-	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
		9	浪江町	R2. 4. 6	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		10	葛尾村	R2. 4. 7	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		11	南相馬市	R2. 4. 6	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		12	飯盛村	R2. 4. 7	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		13	川俣町	R2. 4. 7	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
海水	表面水	1	第一(第)南放水口付近	R2. 4. 22	0.02	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.004	0.067	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND			
		2	第一(第)北放水口付近	R2. 5. 14	0.04	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.028	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		3	第一(第)取水口付近(雑露出入口の外側)	R2. 6. 2	0.04	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.025	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		4	第一(第)沖合2km	R2. 4. 22	0.03	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.017	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		5	夫沢・龍川沖2km(大塚町)	R2. 5. 14	0.03	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		6	双葉・前田川沖2km(双葉町)	R2. 6. 2	0.02	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		7	第二(第)南放水口	R2. 4. 22	0.02	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.022	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		8	第二(第)北放水口	R2. 5. 14	0.02	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
海底土	海底土	1	第一(第)南放水口付近	R2. 6. 2	0.03	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		2	第一(第)北放水口	R2. 5. 15	0.02	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.019	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		3	第一(第)南放水口	R2. 5. 15	0.02	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.024	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		4	第一(第)沖合2km	R2. 5. 14	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	13	240	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		5	夫沢・龍川沖2km(大塚町)	R2. 5. 14	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	13	230	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		6	双葉・前田川沖2km(双葉町)	R2. 5. 14	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	15	270	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		7	第二(第)南放水口	R2. 5. 15	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.6	65	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		8	第二(第)北放水口	R2. 5. 15	/	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3.2	54	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

5-3 試料採取時の付帯データ集
(原子力発電所周辺等環境放射能測定)

1 上水

No.	採取地点名	採取年月日	気温 (°C)	水温 (°C)	pH
1	いわき市	R2. 4. 2	15.8	11.2	7.1
2	田村市	R2. 4. 2	10.6	13.6	7.0
3	広野町	R2. 4. 6	12.2	10.3	7.3
4	檜葉町	R2. 4. 6	10.7	10.6	7.1
5	富岡町	R2. 4. 6	13.2	12.0	7.5
6	川内村	R2. 4. 2	12.0	12.7	7.1
7	大熊町	R2. 4. 6	16.4	12.2	7.4
8	双葉町	—	—	—	—
9	浪江町	R2. 4. 6	15.6	11.8	7.0
10	葛尾村	R2. 4. 7	11.3	10.4	7.0
11	南相馬市	R2. 4. 6	13.7	13.8	7.1
12	飯館村	R2. 4. 7	8.9	8.0	7.0
13	川俣町	R2. 4. 7	14.2	10.1	7.0

2 海水

No.	採取地点名	採取年月日	気温 (°C)	水温 (°C)	pH	Cl ⁻ (‰)
1	第一(発)南放水口付近	R2. 4. 22	13.0	10.9	8.0	20
		R2. 5. 14	19.0	14.3	8.1	22
		R2. 6. 2	20.5	14.2	7.9	21
2	第一(発)北放水口付近	R2. 4. 22	13.0	10.8	8.1	20
		R2. 5. 14	19.0	14.3	8.1	22
		R2. 6. 2	20.0	12.7	7.9	22
3	第一(発)取水口付近 (港湾出入口の外側)	R2. 4. 22	13.0	10.7	8.1	20
		R2. 5. 14	19.0	14.1	8.1	21
		R2. 6. 2	20.0	14.2	8.0	22
4	第一(発)沖合 2 km	R2. 4. 22	11.5	11.5	8.1	20
		R2. 5. 14	18.5	14.4	8.2	20
		R2. 6. 2	20.0	13.0	7.9	21
5	夫沢・熊川沖 2 km	R2. 4. 22	10.3	11.5	8.0	20
		R2. 5. 14	17.0	14.1	8.1	21
		R2. 6. 2	18.5	13.3	7.9	22
6	双葉・前田川沖 2 km	R2. 4. 22	12.5	10.6	8.0	20
		R2. 5. 14	19.0	14.2	8.2	21
		R2. 6. 2	20.0	12.8	8.0	22
7	第二(発)南放水口	R2. 5. 15	23.7	14.3	8.0	19
8	第二(発)北放水口	R2. 5. 15	21.0	14.7	8.0	18

第6 参考資料

6-1 福島第一原子力発電所における地下水バイパス水等の海域への排出に伴う海水モニタリング結果（公表資料）

【地下水バイパス水関係】

県では、福島第一原子力発電所における地下水バイパス水の海域への排出に際し、南放水口付近（T-2）の海域において、海水モニタリングを実施していますので、最新の公表資料を添付します。

測定項目・・・全ベータ放射能、放射性セシウム、トリチウム

添付資料・・・令和2年7月9日公表資料

【サブドレン・地下水ドレン処理水関係】

県では、福島第一原子力発電所におけるサブドレン・地下水ドレン処理水の海域への排出に際し、5・6号機放水口北側（T-1）の海域において、海水モニタリングを実施していますので、最新の公表資料を添付します。

測定項目・・・全ベータ放射能、放射性セシウム、トリチウム

添付資料・・・令和2年7月9日公表資料

福島第一原子力発電所における地下水バイパス水の
海域への排出に伴う海水モニタリングの結果について（6月調査分）

県では、福島第一原子力発電所における地下水バイパス水の海域への排出に際し、環境への影響を確認するため、海水モニタリングを定期的実施しております。

【調査結果の概要】

今回は福島第一原子力発電所南放水口付近（T-2）の海域1地点における、地下水バイパス水の海域への排出に伴う海水モニタリングの結果です。

採取した海水中の放射能濃度（単位：Bq/L）は、全ベータ放射能が0.04、放射性セシウムが不検出、トリチウムが不検出でした。

なお、今回の調査を含め調査開始以降、東京電力の運用目標値、告示濃度限度^{※1}及びWHO飲料水水質ガイドラインを大幅に下回っています。

○6月調査分における海水の放射能濃度（単位：Bq/L）

排出時刻10時04分～16時30分、排出量1,768m³

採取日時	全ベータ 放射能	放射性セシウム			トリチウム
		Cs-134	Cs-137	合計 ^{※2}	
6月11日 10:50	0.04 (不検出 ～0.22)	不検出 (不検出 ～0.54)	不検出 (不検出 ～1.6)	不検出 (不検出 ～2.14)	不検出 (不検出 ～8.8)

()内は初回排出から前回調査分までの放射能濃度の範囲

(参考)	全ベータ 放射能	放射性セシウム			トリチウム
		Cs-134	Cs-137	合計	
東京電力の運用目標値	5	1	1	—	1,500
告示濃度限度 ^{※1}	30 ^{※3}	60	90	—	60,000
WHO飲料水水質ガイドライン	10 ^{※3}	10	10	—	10,000

※1 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則（周辺監視区域外等の濃度限度）

※2 不検出は0として計算

※3 放射性ストロンチウム(Sr-90)についての値

福島第一原子力発電所における地下水バイパス水の排出に伴う海水モニタリングの結果

○今回の公表分は黄色網掛け部分です。

令和2年7月9日 福島県放射線監視室

試料名	地点名	採取年月日	福島県による測定結果 (Bq/L)			
			全β放射能※	Cs-134	Cs-137	トリチウム
海水	南放水口付近 (T-2) (地下水排出中)	R2. 6. 11	0.04	ND (0.052)	ND (0.049)	ND (0.35)
		令和元年度	0.02	ND	ND~0.072	ND~8.6
		平成30年度	0.02~0.03	ND	ND	ND~7.9
		平成29年度	ND~0.04	ND	ND~0.13	ND~8.8
		平成28年度	0.03~0.15	ND	0.061~0.19	ND~3.0
		平成27年度	0.03~0.13	ND~0.11	0.080~0.40	ND~0.86
		平成26年度	0.04~0.22	ND~0.54	0.12~1.6	ND~3.5

(注) 1 「ND」: 検出限界未満 () 内: 検出下限値

○東京電力ホールディングス(株)の測定結果については次のホームページで確認できます。

<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html>

○平成30年3月採水分から、防波堤の本設化工事完了に伴い、採水地点が排出地点の北約10m地点から排出地点の南約30m地点へと変更となりました。

平成26年5月21日(初回排出日)以前のモニタリング結果

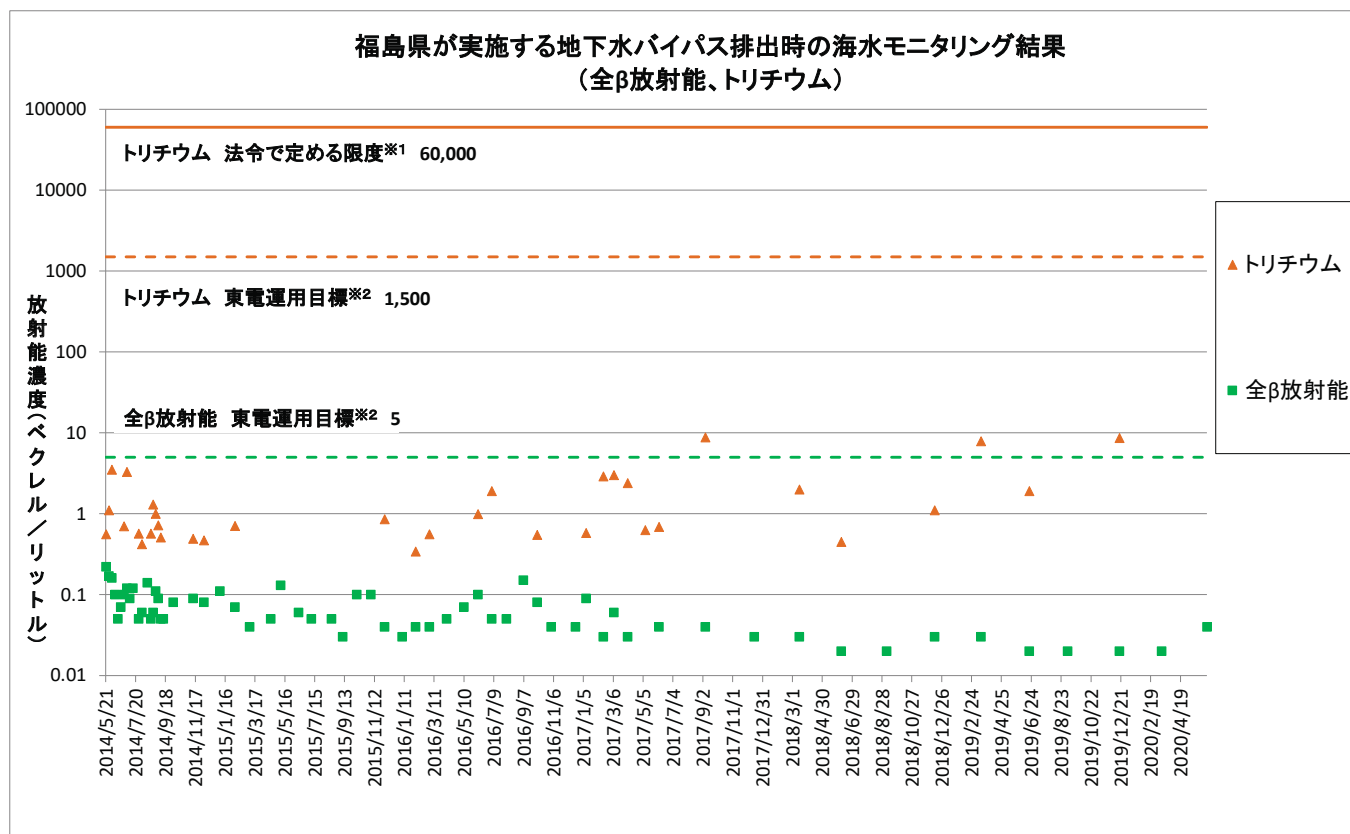
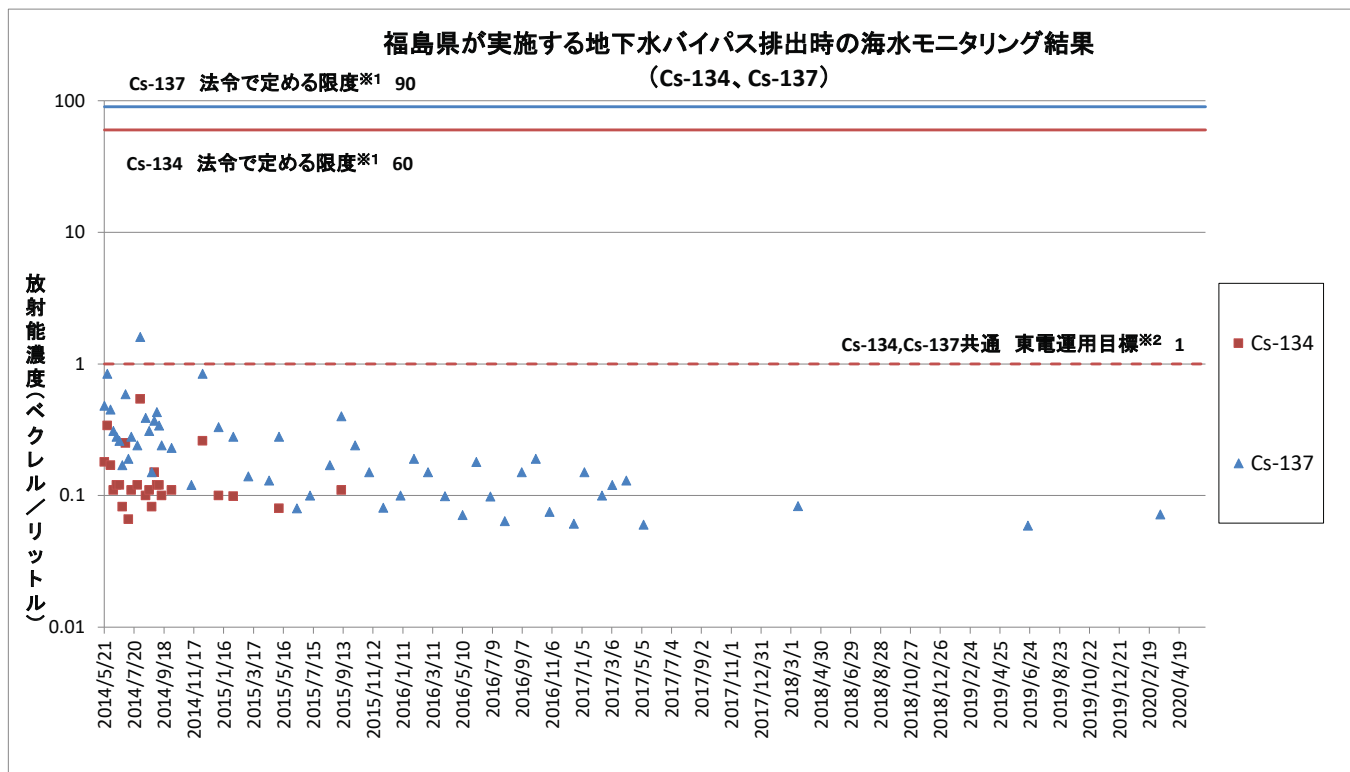
試料名	地点名	採取年月日	福島県による測定結果 (Bq/L)			
			全β放射能※	Cs-134	Cs-137	トリチウム
(参考) 県が平成25年度以降に実施した海域モニタリングにおける測定値の範囲	南放水口付近 (T-2) (陸側から採取)	H25. 10. 3、H25. 10. 17 H25. 10. 21、H27. 2. 25	0.16~0.48	0.082~0.80	0.33~1.8	ND~0.69
	南放水口付近 (T-2-1) (陸側から採取)	H25. 6. 27 H27. 2. 25	0.07	0.31~0.36	0.59~1.2	0.32~0.91
	南放水口付近 (F-P01) (船舶から採取)	H25. 7. 31~H28. 12. 12	0.02~0.64	ND~0.35	ND~0.71	ND~2.4
(参考) 県が測定した原発事故前の値	発電所周辺海域	平成13~22年度	ND~0.05	ND	ND~0.003	ND~2.9

(注) 1 「ND」: 検出限界未満

※全β放射能の測定法については、文部科学省放射能測定法シリーズ1「全ベータ放射能測定法」に記載されている鉄バリウム共沈法により実施しています。

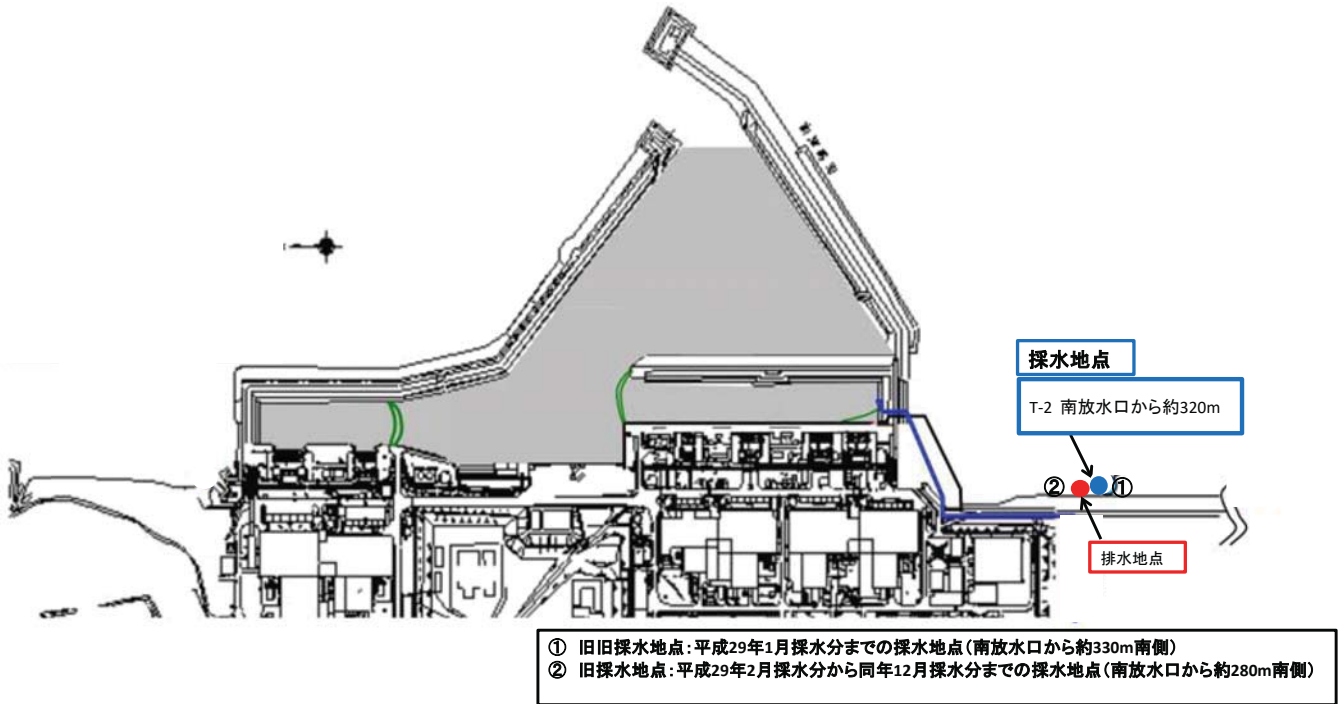
測定値と法令で定める限度及び東電運用目標との比較

注: 不検出の場合はプロットされません。



※1 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める排水の告示濃度限度
 ※2 福島第一原子力発電所 地下水バイパス水一時貯留タンクの運用目標値
 ※3 平成26年9月13日排水時まで排出毎に調査実施。但し、平成26年7月21日及び8月5日の排出時の海水試料は採取できず。
 平成26年9月13日以降は毎月1回、平成29年6月6日以降は四半期1回のモニタリングに変更しています。

採水地点及び排水地点（東京電力資料より）



令和2年7月9日
福島県放射線監視室

福島第一原子力発電所におけるサブドレン・地下水ドレン処理済み水の
海域への排出に伴う海水モニタリングの結果について（6月調査分）

県では、福島第一原子力発電所におけるサブドレン・地下水ドレン処理済み水の海域への排出に際し、環境への影響を継続的に監視するため、海水モニタリングを定期的に実施しております。

【調査結果の概要】

今回は福島第一原子力発電所北放水口付近（T-1）の海域1地点における、サブドレン・地下水ドレン処理済み水の海域への排出に伴う海水モニタリングの結果です。

採取した海水中の放射能濃度（単位：Bq/L）は、全ベータ放射能が0.03、放射性セシウムが0.15、トリチウムが1.3でした。

なお、今回の調査を含め調査開始以降、東京電力の運用目標値、告示濃度限度^{※1}及びWHO飲料水水質ガイドラインを大幅に下回っています。

○6月調査分における海水の放射能濃度（単位：Bq/L）

排出時刻10時50分～16時14分、排出量805m³

採取日時	全ベータ放射能	放射性セシウム			トリチウム
		Cs-134	Cs-137	合計 ^{※2}	
6月11日 11:35	0.03 (0.02 ～0.10)	不検出 (不検出 ～0.10)	0.15 (不検出 ～0.44)	0.15 (不検出 ～0.51)	1.3 (不検出 ～2.3)

()内は初回排出から前回調査分までの放射能濃度の範囲

(参考)	全ベータ放射能	放射性セシウム			トリチウム
		Cs-134	Cs-137	合計	
東京電力の運用目標値	3	1	1	—	1,500
告示濃度限度 ^{※1}	30 ^{※3}	60	90	—	60,000
WHO飲料水水質ガイドライン	10 ^{※3}	10	10	—	10,000

※1 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則（周辺監視区域外等の濃度限度）

※2 不検出は0として計算

※3 放射性ストロンチウム(Sr-90)についての値

福島第一原子力発電所におけるサブドレン・地下水ドレン 処理済み水の排出に伴う海水モニタリングの結果

○今回の公表分は黄色網掛け部分です。

令和2年7月9日 福島県放射線監視室

試料名	地点名	採取年月日	福島県による測定結果 (Bq/L)			
			全ベータ放射能※	Cs-134	Cs-137	トリチウム
海水	北放水口付近 (T-1) (処理済み水排出中)	R2. 6. 11	0.03	ND (0.052)	0.15	1.3
		令和元年度	0.02~0.03	ND	0.098~0.27	ND~0.70
		平成30年度	0.02~0.04	ND	ND~0.22	ND~0.55
		平成29年度	0.02~0.04	ND~0.068	ND~0.36	ND~1.5
		平成28年度	0.04~0.10	ND~0.068	0.064~0.44	ND~2.3
		H27. 9. 14~H28. 3. 2	0.03~0.09	ND~0.10	0.14~0.41	ND~1.7

(注) 1 「ND」: 検出限界未満 () 内: 検出下限値

○東京電力ホールディングス(株)の測定結果については次のホームページで確認できます。

<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html>

平成27年9月14日(初回排出日)以前のモニタリング結果

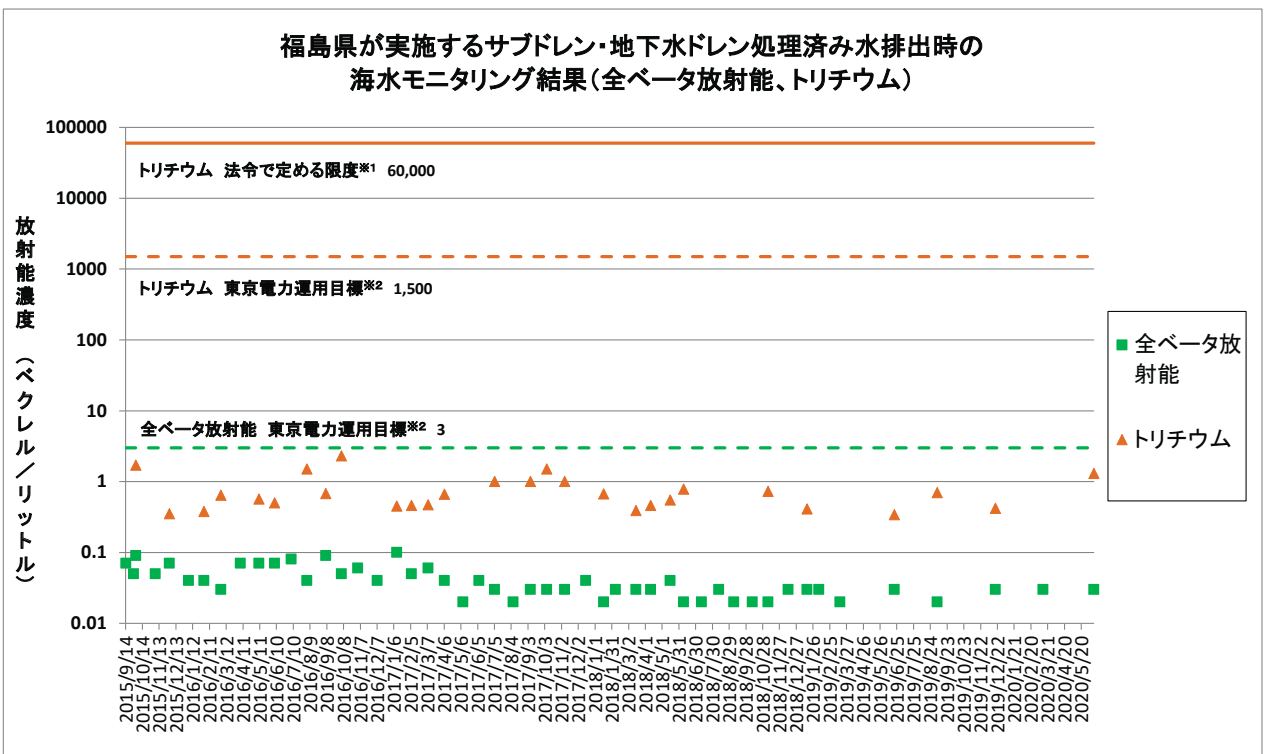
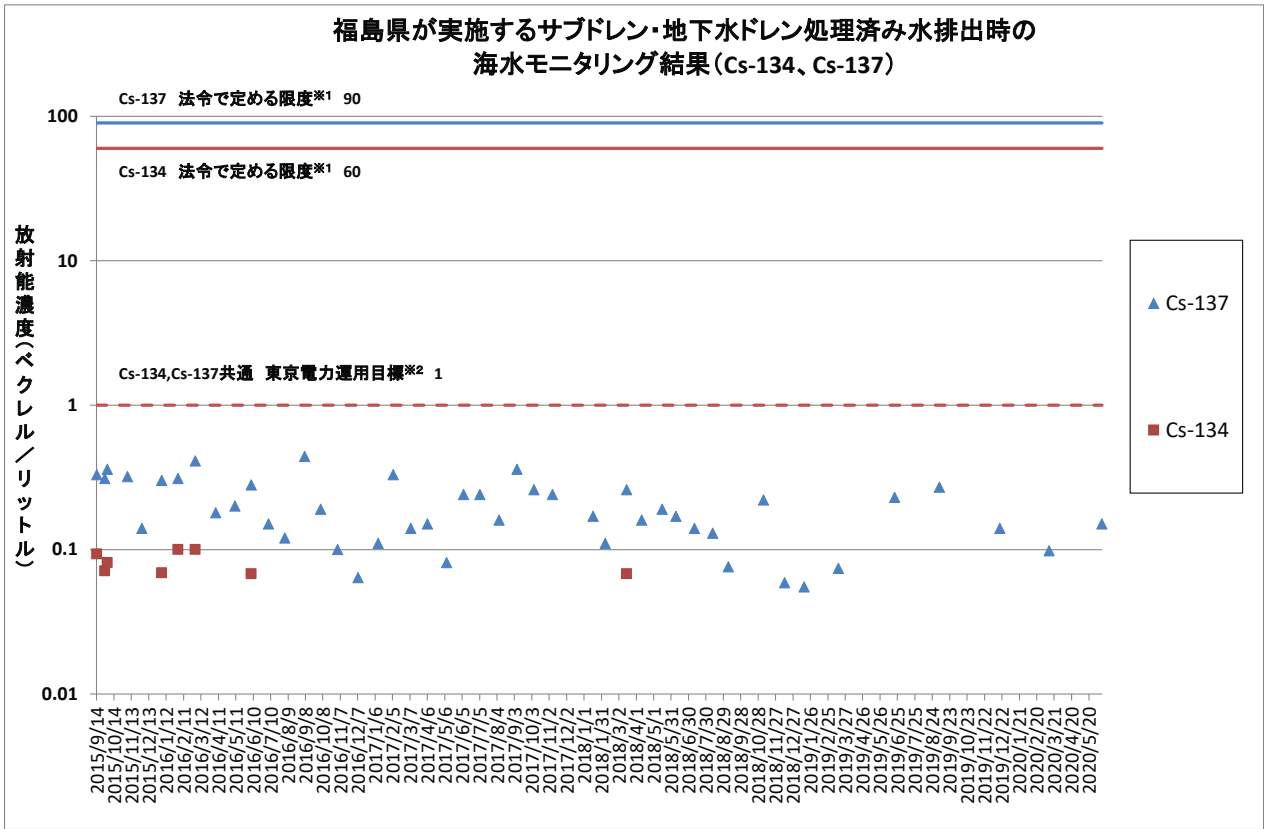
試料名	地点名	採取年月日	福島県による測定結果 (Bq/L)			
			全ベータ放射能※	Cs-134	Cs-137	トリチウム
(参考) 県が平成25~26年 度を実施した海域 モニタリングにお ける測定値の範囲	北放水口付近 (T-1) (陸側から採取)	H25. 6. 27、H25. 9. 27 H26. 4. 4、H27. 2. 25	0.10~0.49	0.26~2.4	0.84~5.0	0.61~1.1
	北放水口付近 (F-P02) (船舶から採取)	H25. 7. 31~H27. 3. 3	0.03~0.51	ND~0.24	ND~0.56	ND~2.5
(参考) 県が測定し た原発事故前の値	発電所周辺海域	平成13~22年度	ND~0.05	ND	ND~0.003	ND~2.9

(注) 1 「ND」: 検出限界未満

※全ベータ放射能の測定法については、文部科学省放射能測定法シリーズ1「全ベータ放射能測定法」に記載されている鉄バリウム共沈法により実施しています。

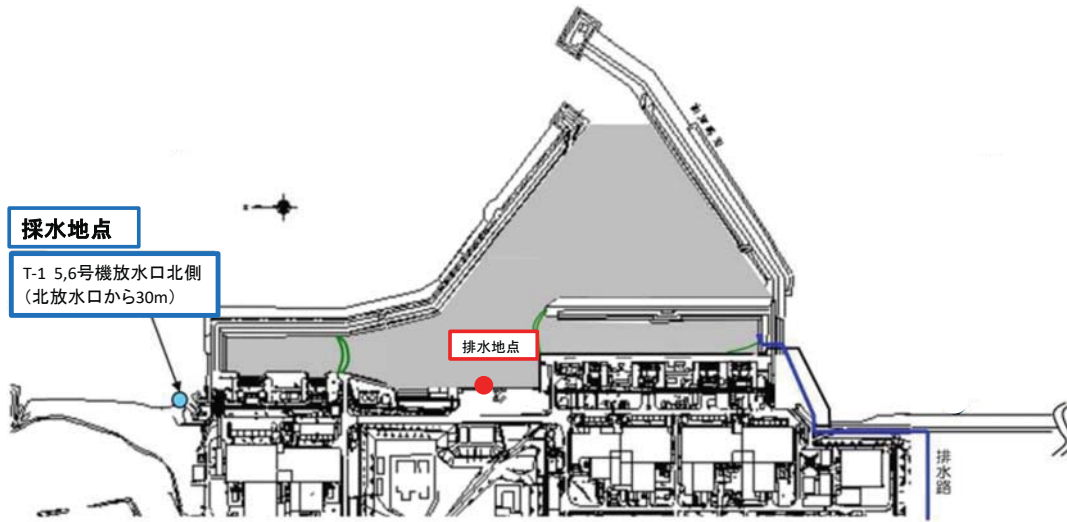
測定値と法令で定める限度及び東電運用目標との比較

注：不検出の場合はプロットされません。



※1 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める排水の告示濃度限度
 ※2 福島第一原子力発電所 サブドレン・地下水ドレン浄化水一時貯留タンクの運用目標値

採水地点及び排水地点 (東京電力資料より)



各地点の空間線量率等の変動グラフ

令和2年4月～令和2年6月

福島県

目次

空間線量率

1 いわき市小川 (1m)	1
2 いわき市久之浜 (1m)	2
3 いわき市下桶売 (1m)	3
4 いわき市川前 (1m)	4
5 田村市都路馬洗戸 (1m)	5
6 広野町二ツ沼 (3m)	6
7 広野町小滝平 (1m)	7
8 檜葉町山田岡 (3m)	8
9 檜葉町木戸ダム (1m)	9
10 檜葉町繁岡 (3m)	10
11 檜葉町松館 (3m)	11
12 檜葉町波倉 (3m)	12
13 富岡町上郡山 (3m)	13
14 富岡町下郡山 (3m)	14
15 富岡町深谷 (1m)	15
16 富岡町富岡 (3m)	16
17 富岡町夜の森 (3m)	17
18 川内村下川内 (1m)	18
19 大熊町向畑 (3m)	19
20 大熊町熊川 (1m)	20
21 大熊町南台 (3m)	21
22 大熊町大野 (1m)	22
23 大熊町夫沢 (3m)	23
24 双葉町山田 (3m)	24
25 双葉町郡山 (3m)	25
26 双葉町新山 (3m)	26
27 双葉町上羽鳥 (3m)	27
28 浪江町請戸 (1m)	28
29 浪江町棚塩 (1m)	29
30 浪江町浪江 (3m)	30
31 浪江町幾世橋 (3m)	31
32 浪江町大柿ダム (1m)	32
33 浪江町南津島 (1m)	33
34 葛尾村夏湯 (1m)	34
35 南相馬市泉沢 (1m)	35
36 南相馬市横川ダム (1m)	36
37 南相馬市萱浜 (1m)	37
38 飯舘村伊丹沢 (1m)	38
39 川俣町山木屋 (1m)	39

大気浮遊じん(推移)

1 いわき市小川	40
2 田村市都路馬洗戸	41
3 広野町小滝平	42
4 檜葉町木戸ダム	43
5 檜葉町繁岡	44
6 富岡町富岡	45
7 川内村下川内	46
8 大熊町大野	47
9 大熊町夫沢	48
10 双葉町郡山	49
11 浪江町幾世橋	50
12 浪江町大柿ダム	51
13 葛尾村夏湯	52
14 南相馬市泉沢	53
15 南相馬市萱浜	54
16 飯舘村伊丹沢	55
17 川俣町山木屋	56

大気浮遊じん(相関図)

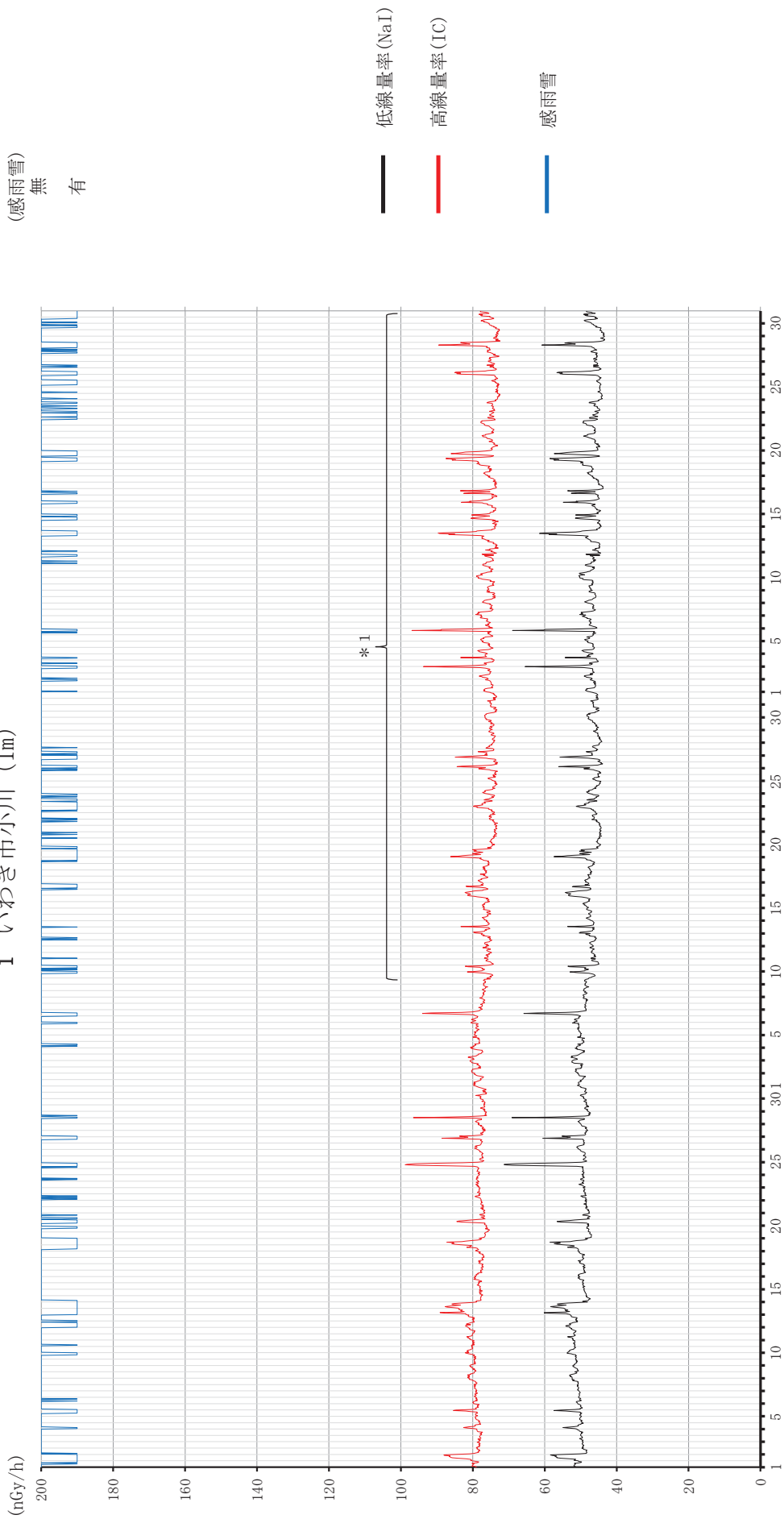
1 いわき市小川	57
2 田村市都路馬洗戸	57
3 広野町小滝平	58
4 檜葉町木戸ダム	58
5 檜葉町繁岡	59
6 富岡町富岡	59
7 川内村下川内	60
8 大熊町大野	60
9 大熊町夫沢	61
10 双葉町郡山	61
11 浪江町幾世橋	62
12 浪江町大柿ダム	62
13 葛尾村夏湯	63
14 南相馬市泉沢	63
15 南相馬市萱浜	64
16 飯舘村伊丹沢	64
17 川俣町山木屋	65

空間線量率 (比較対照)

1 福島市紅葉山 (1m)	66
2 郡山市日和田 (1m)	67
3 いわき市平 (1m)	68

※ 図中の「事故前の最大値」は、平成23年3月10日までに観測された最大値

空間線量率の変動グラフ
1 いわき市小川 (1m)



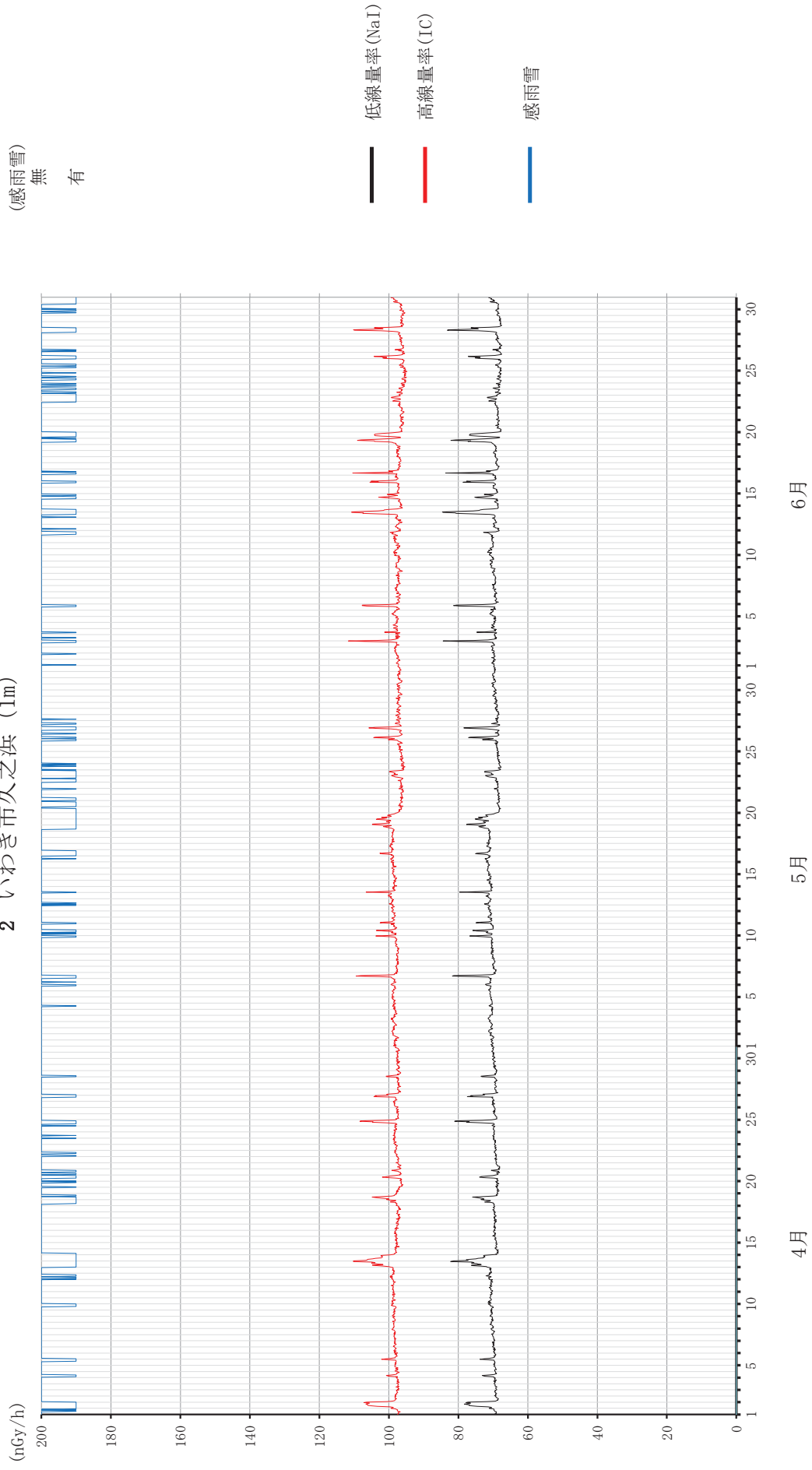
5月

6月

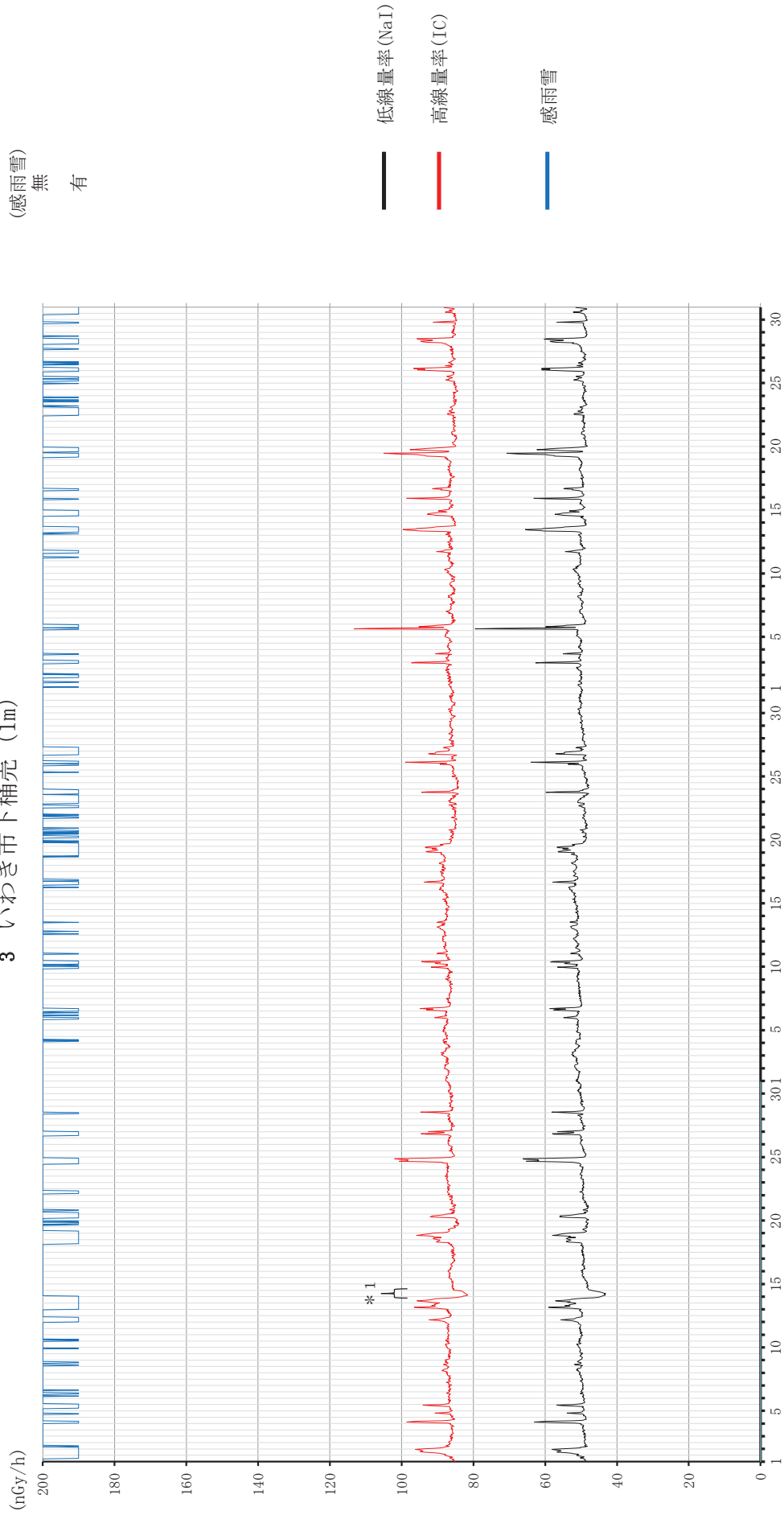
4月

* 1 局舎周辺の水田の水による遮へいの影響で線量率低下

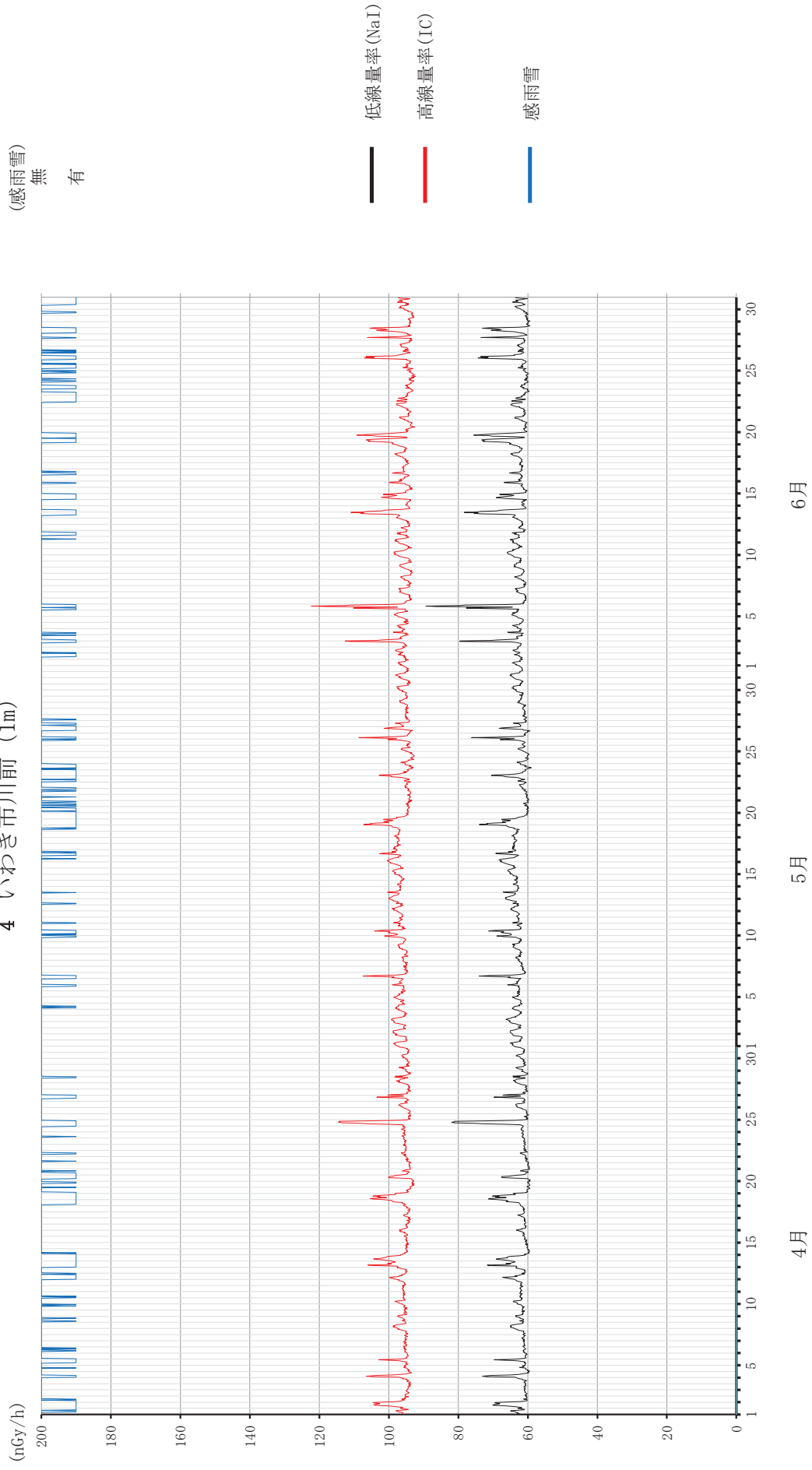
空間線量率の変動グラフ 2 いわき市久之浜 (1m)



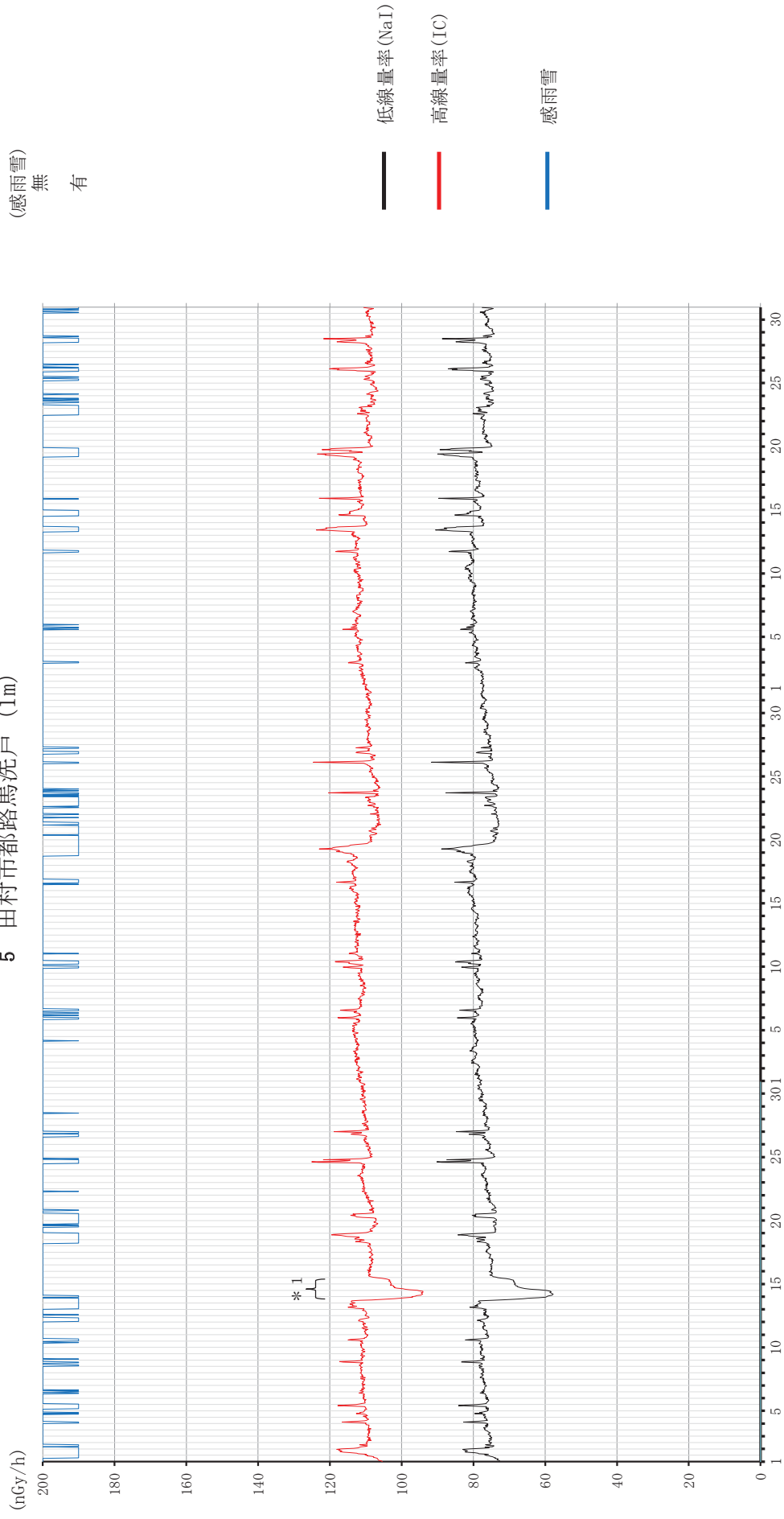
空間線量率の変動グラフ 3 いわき市下桶売 (1m)



空間線量率の変動グラフ
4 いわき市川前 (1m)

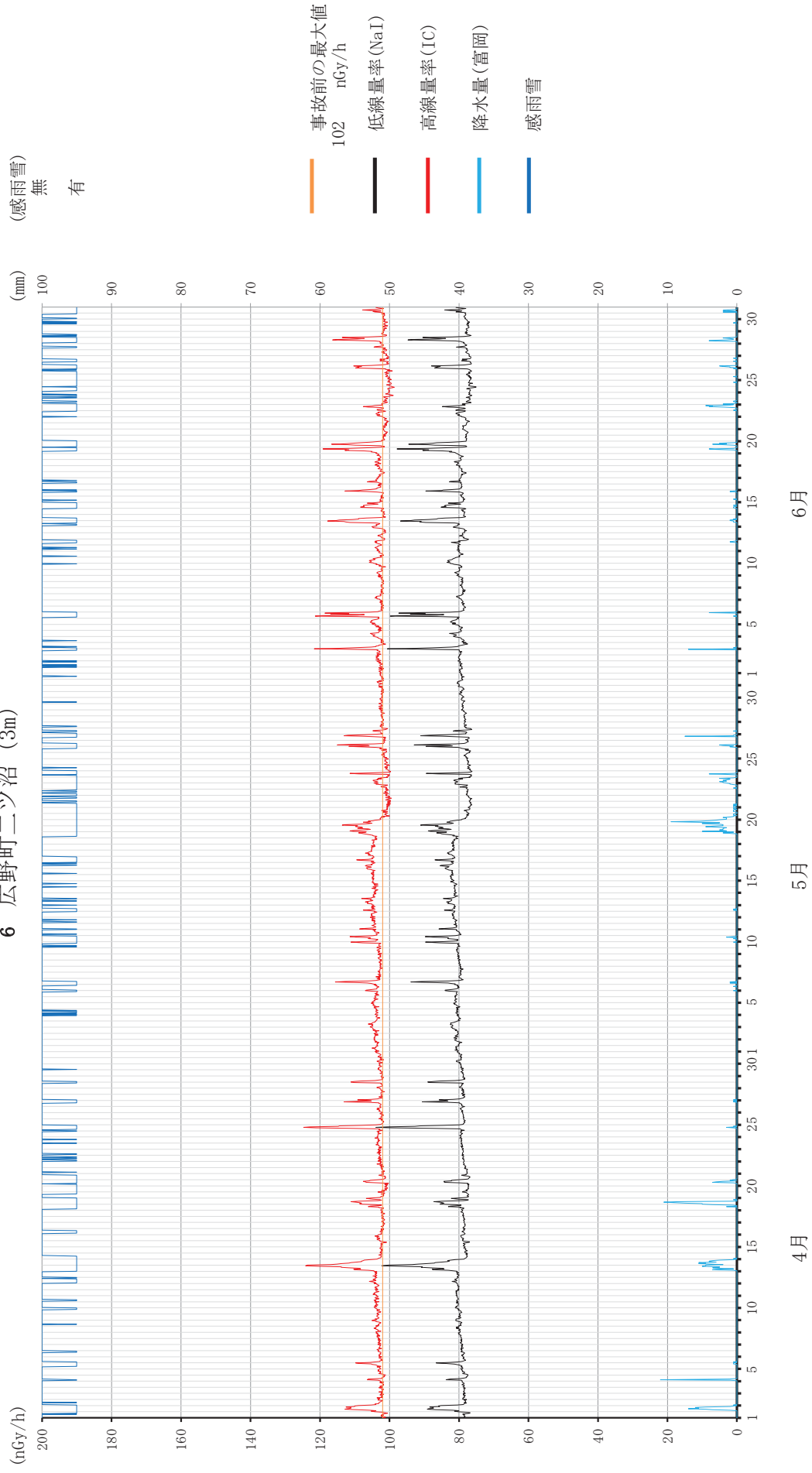


空間線量率の変動グラフ
5 田村市都路馬洗戸 (1m)

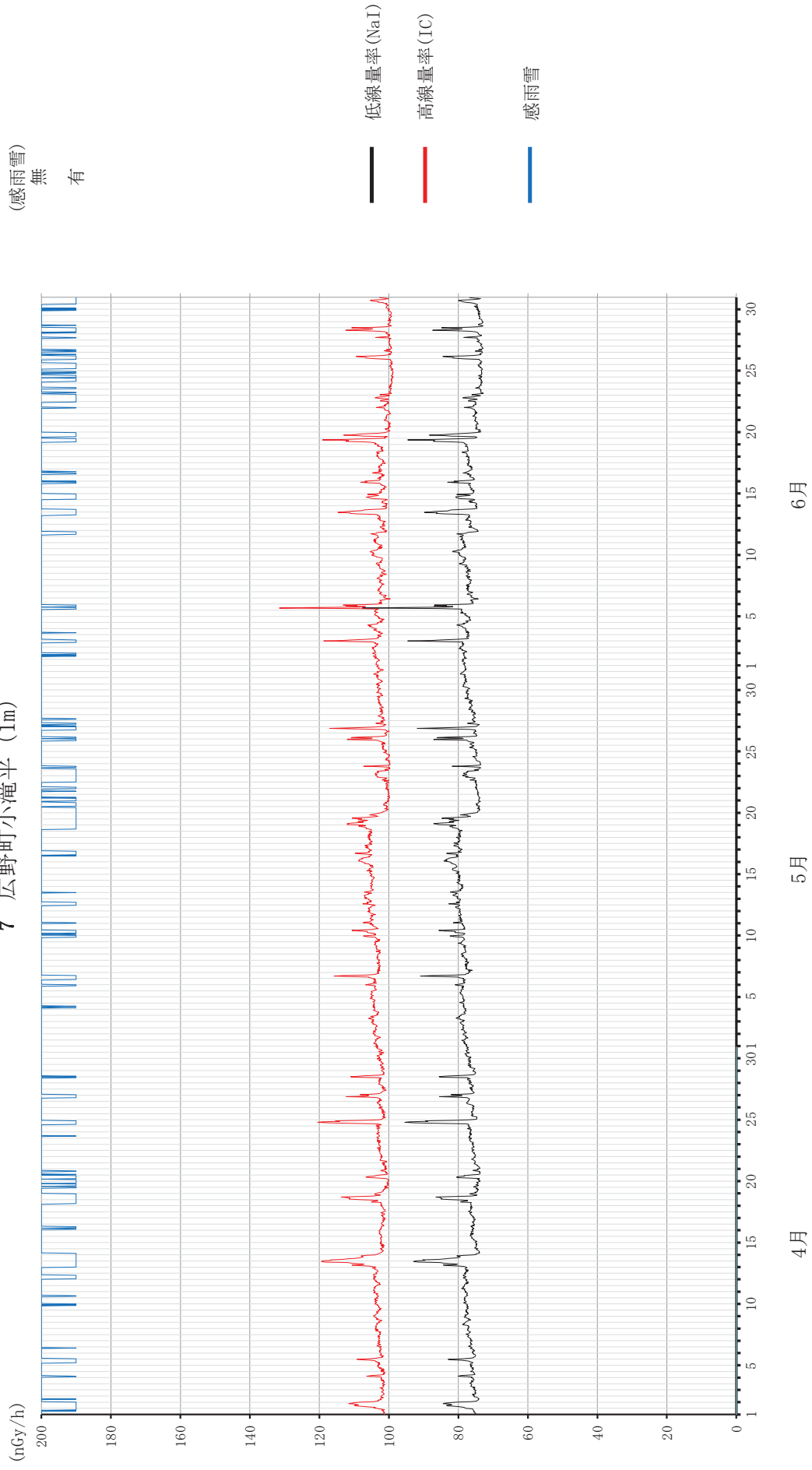


* 1 積雪のため線量率低下

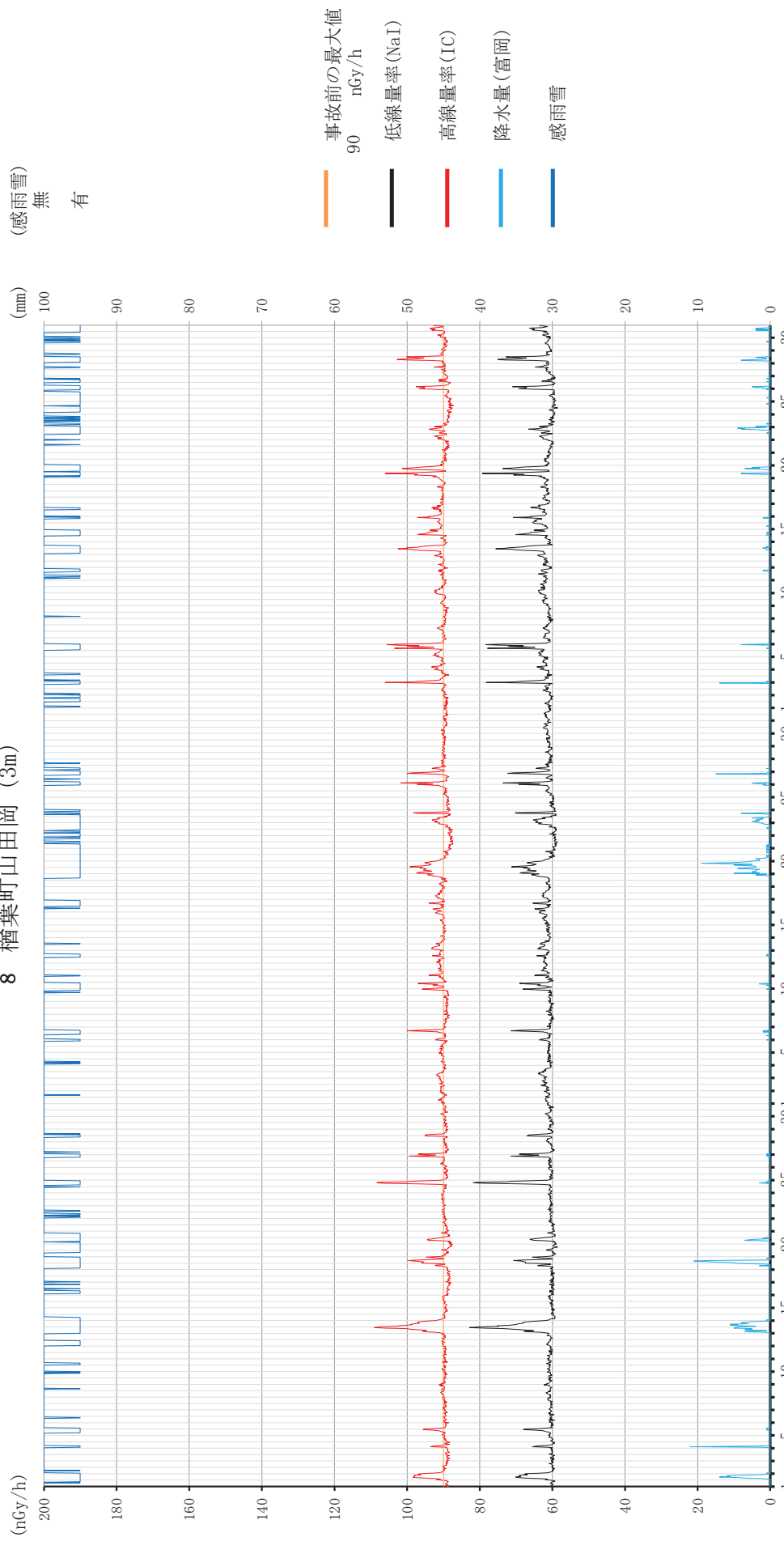
空間線量率の変動グラフ 6 広野町二ツ沼 (3m)



空間線量率の変動グラフ 7 広野町小滝平 (1m)



空間線量率の変動グラフ
8 榎葉町山田岡 (3m)

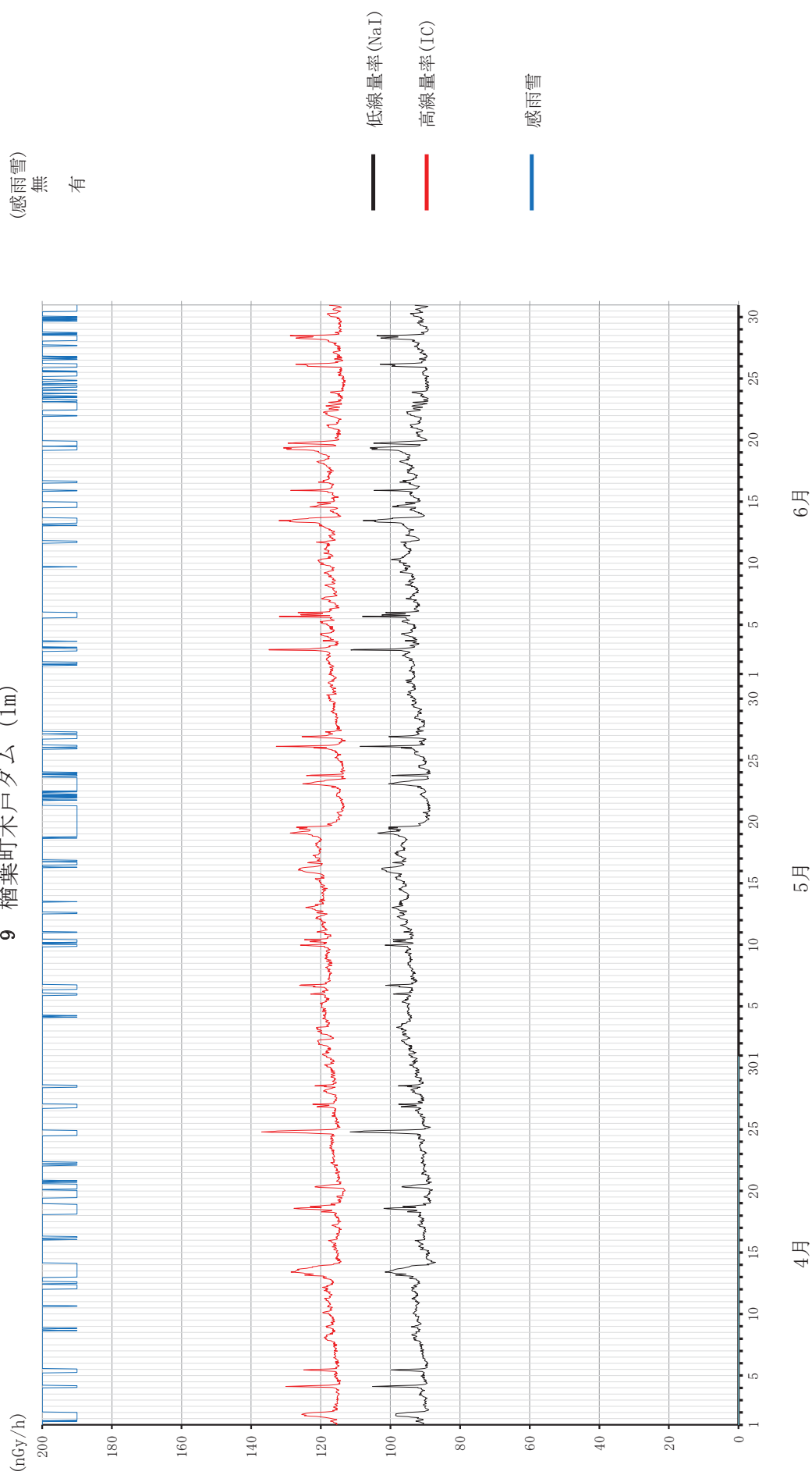


6月

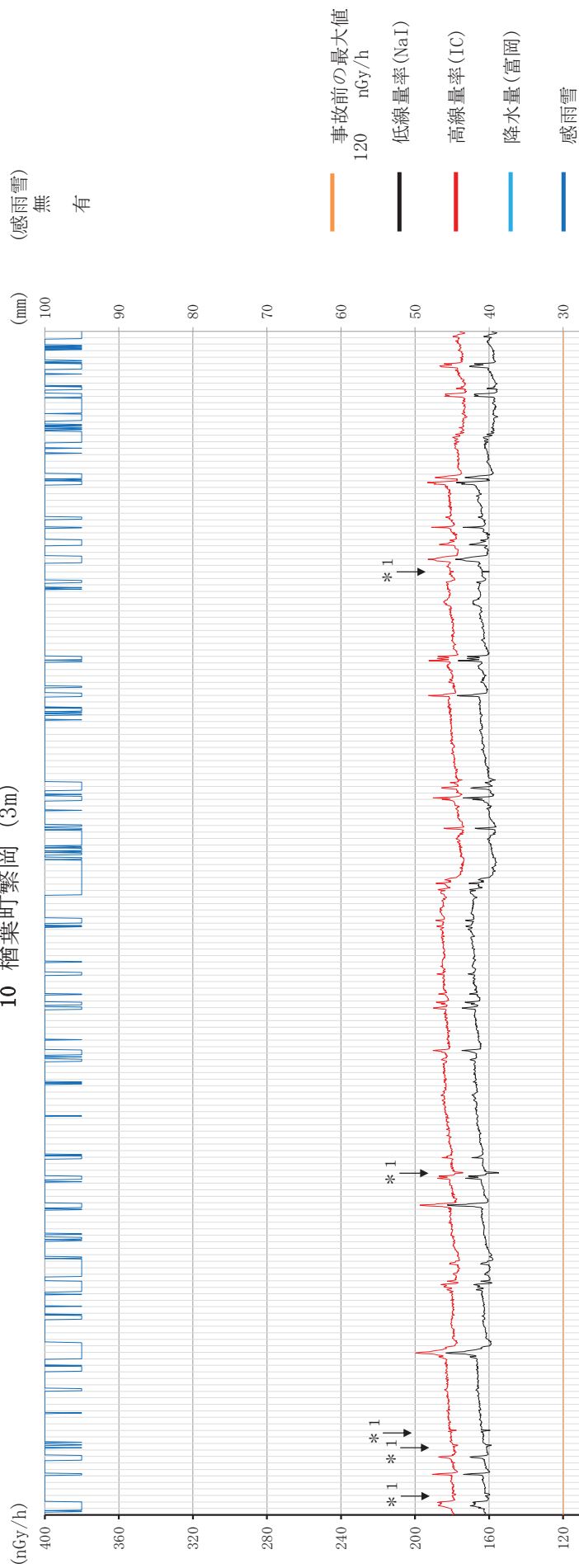
5月

4月

空間線量率の変動グラフ 9 榎葉町木戸ダム (1m)



空間線量率の変動グラフ
10 榎葉町繁岡 (3m)



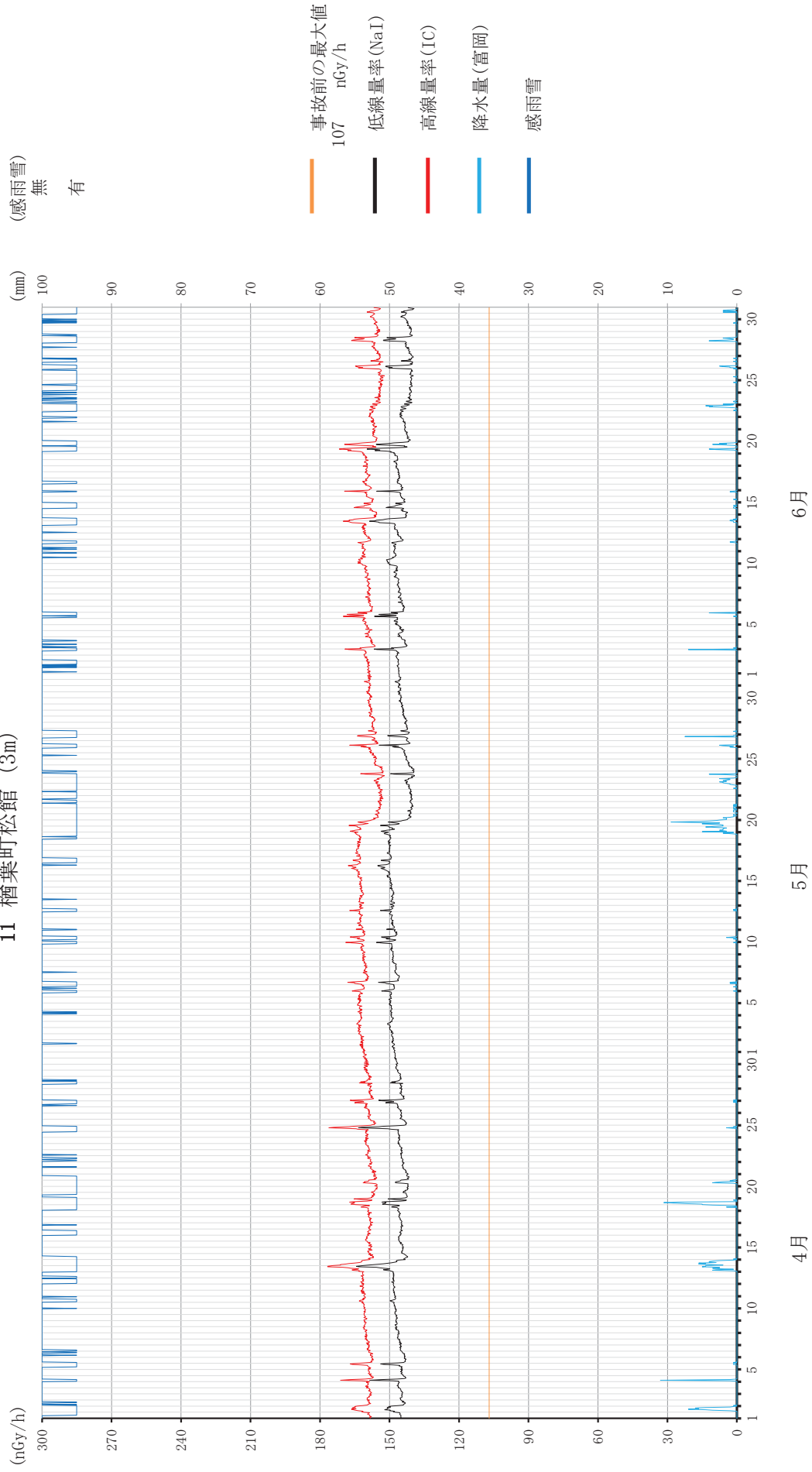
6月

5月

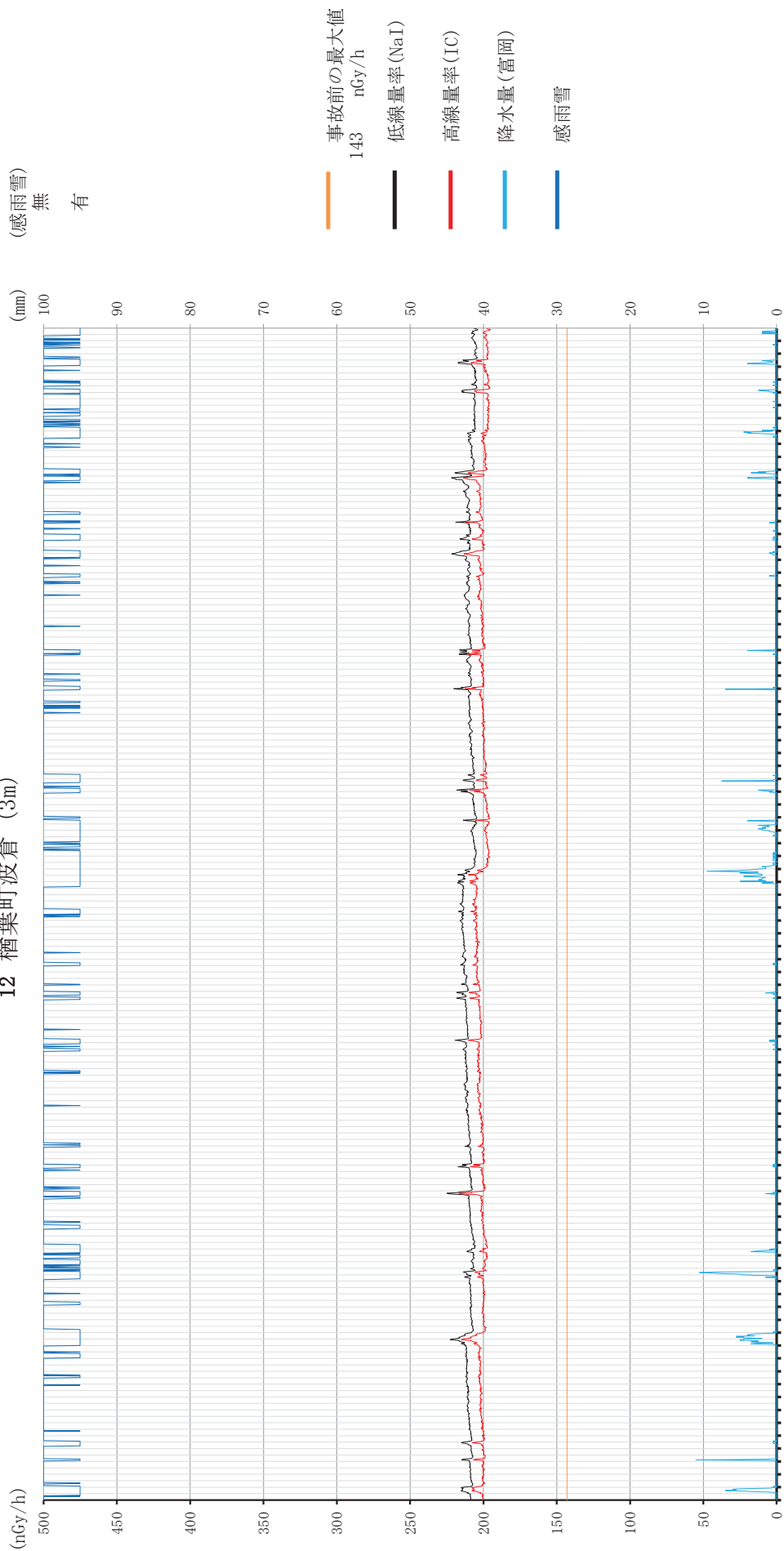
4月

* 1 4月2日、6日、7日、27日、6月12日は高倉周辺停車車両による遮へいの影響で線量率低下

空間線量率の変動グラフ
11 榎葉町松館 (3m)



空間線量率の変動グラフ
12 榎葉町波倉 (3m)



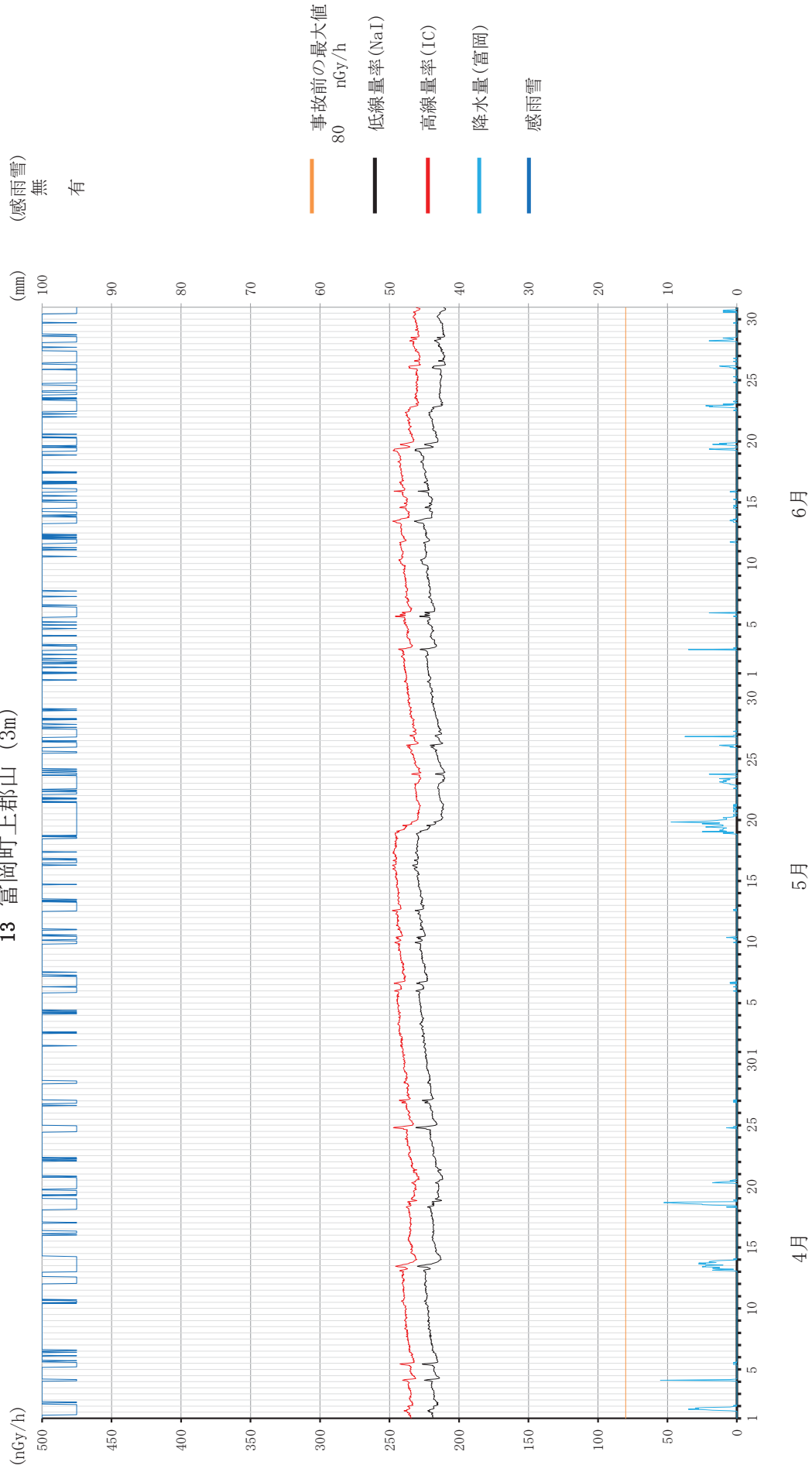
4月

5月

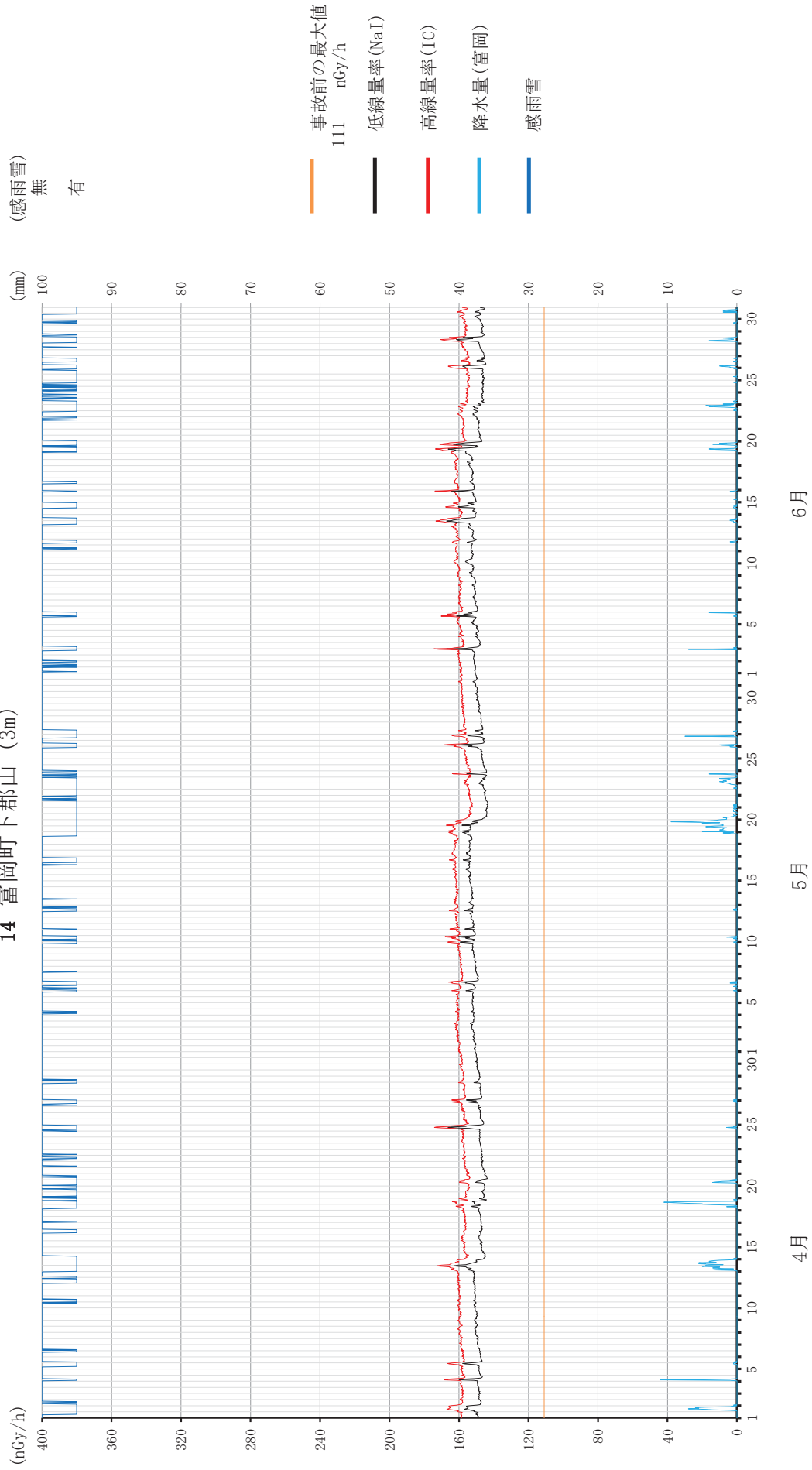
6月

電離箱検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線も測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaIシンチレーション検出器より30nGy/h程度高い、線量率が数百nGy/h程度の時は、電離箱検出器の線量特性が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の測定値が同程度又はNaIシンチレーション検出器の測定値が高くなると考えられる。

空間線量率の変動グラフ 13 富岡町上郡山 (3m)

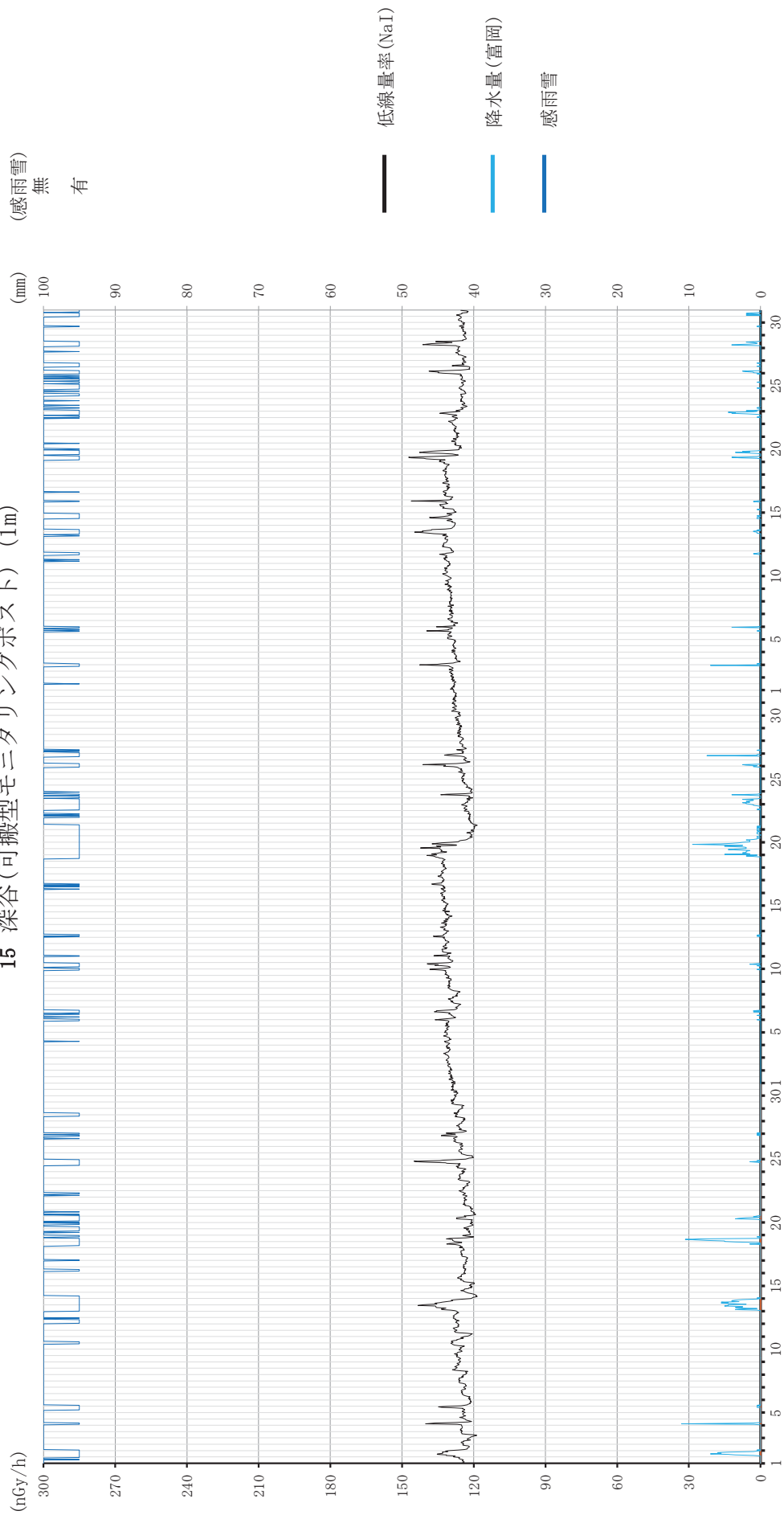


空間線量率の変動グラフ
14 富岡町下郡山 (3m)



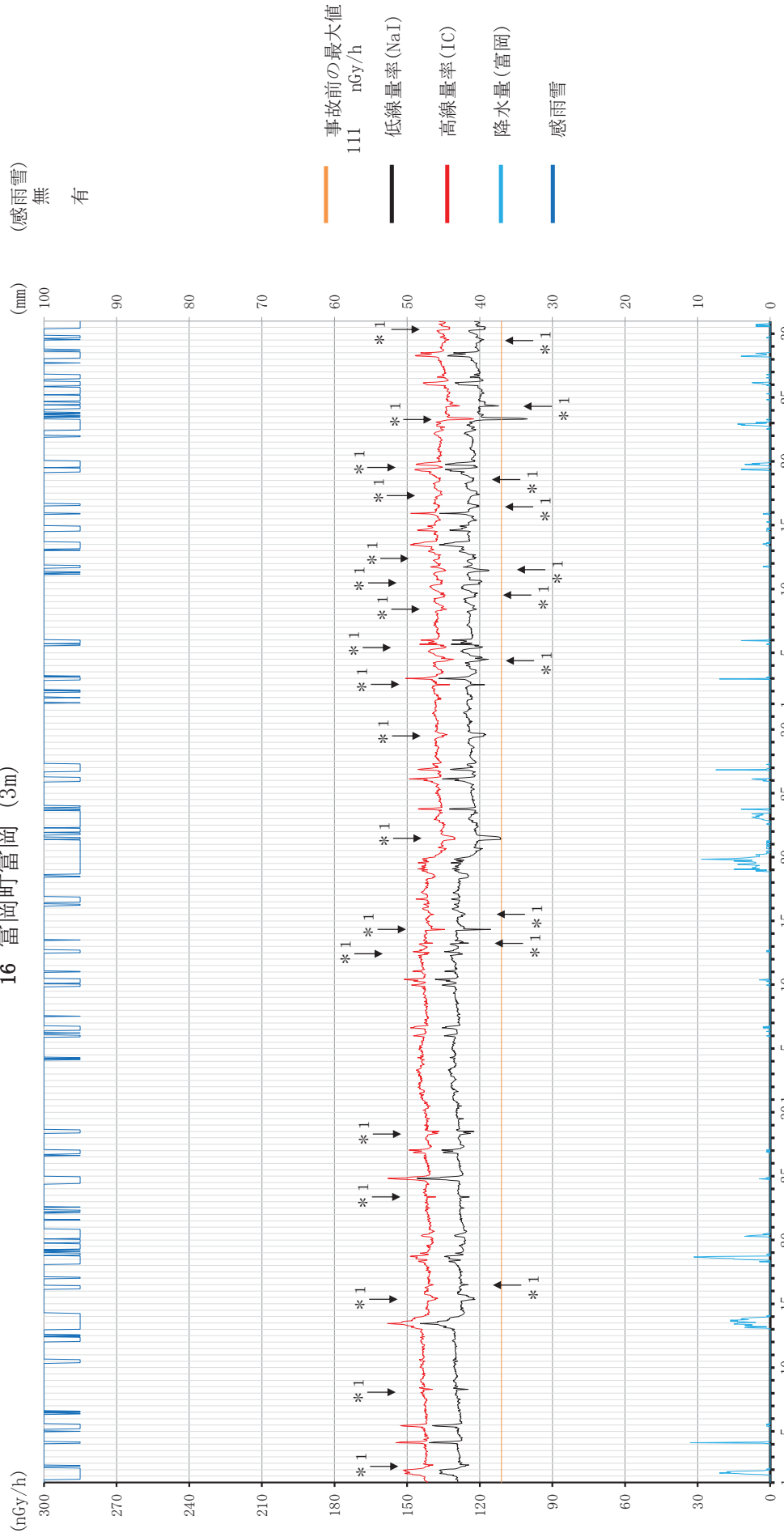
空間線量率の変動グラフ

15 深谷(可搬型モニタリングポスト) (1m)



4月 可搬型モニタリングポストには温度制御装置が装備されていないため、線量率が気温の変動による影響を受けて日周期で変動する。
5月
6月

空間線量率の変動グラフ
16 富岡町富岡 (3m)

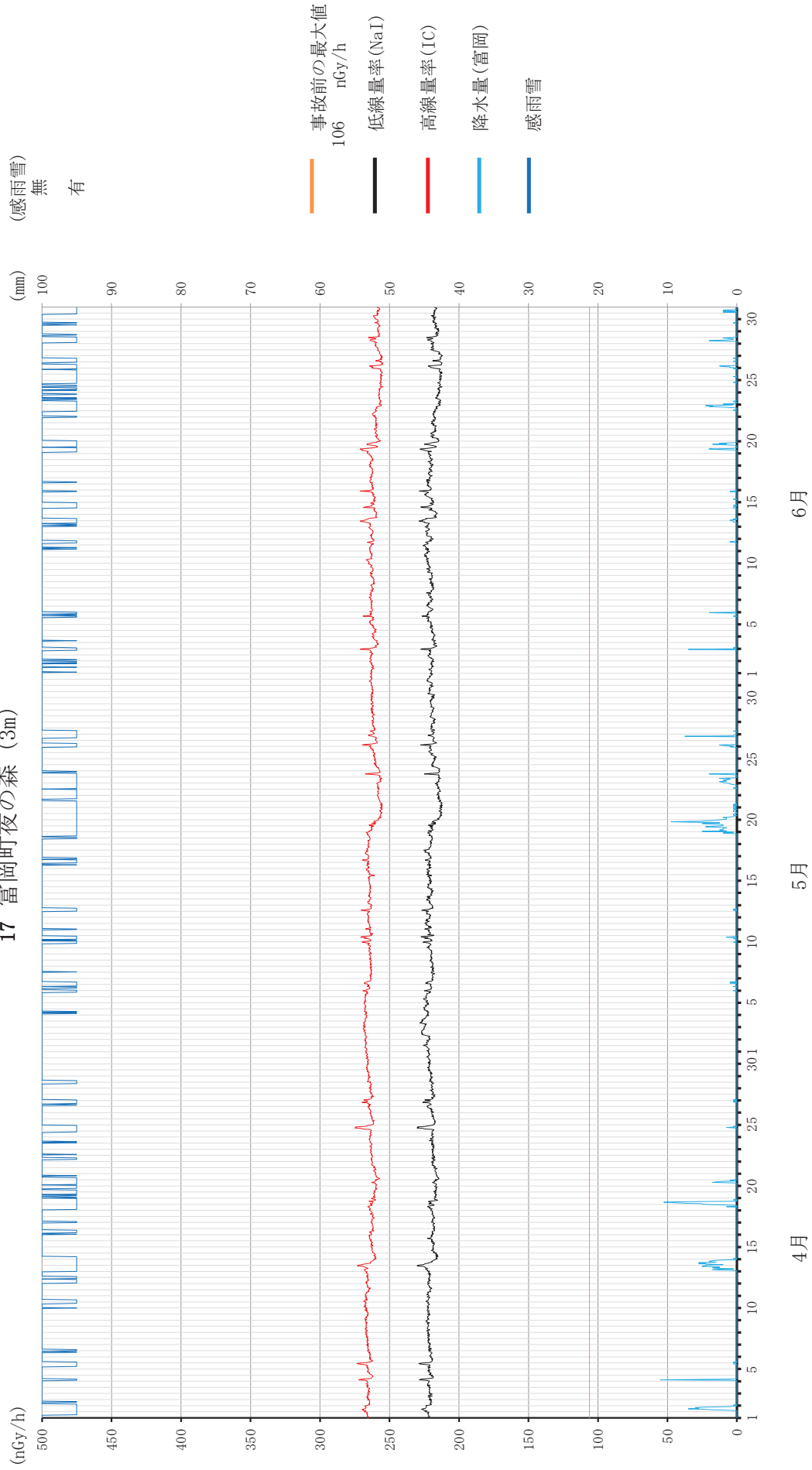


4月 *1 局舎周辺停車車両による遮へいの影響で線量率低下

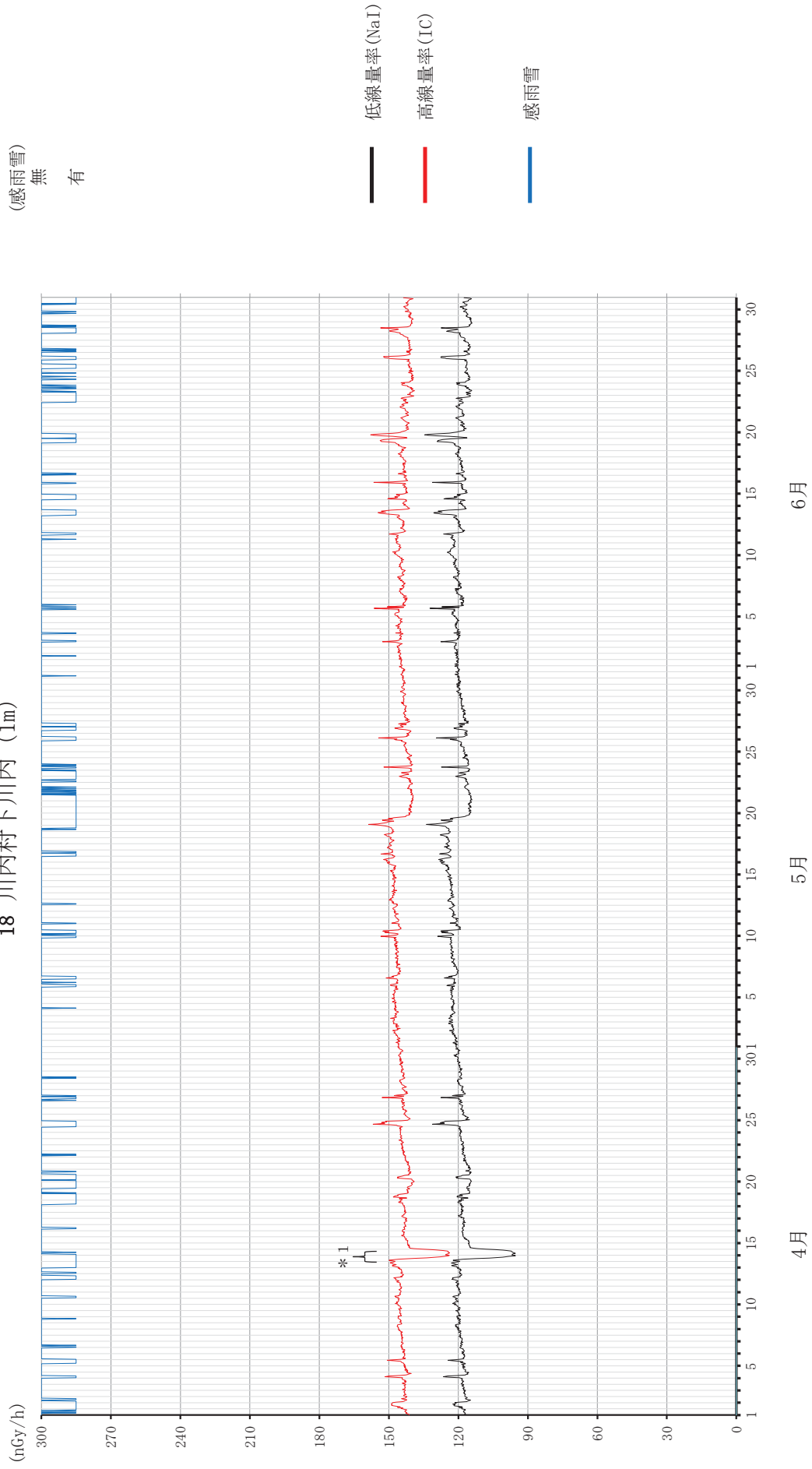
5月

6月

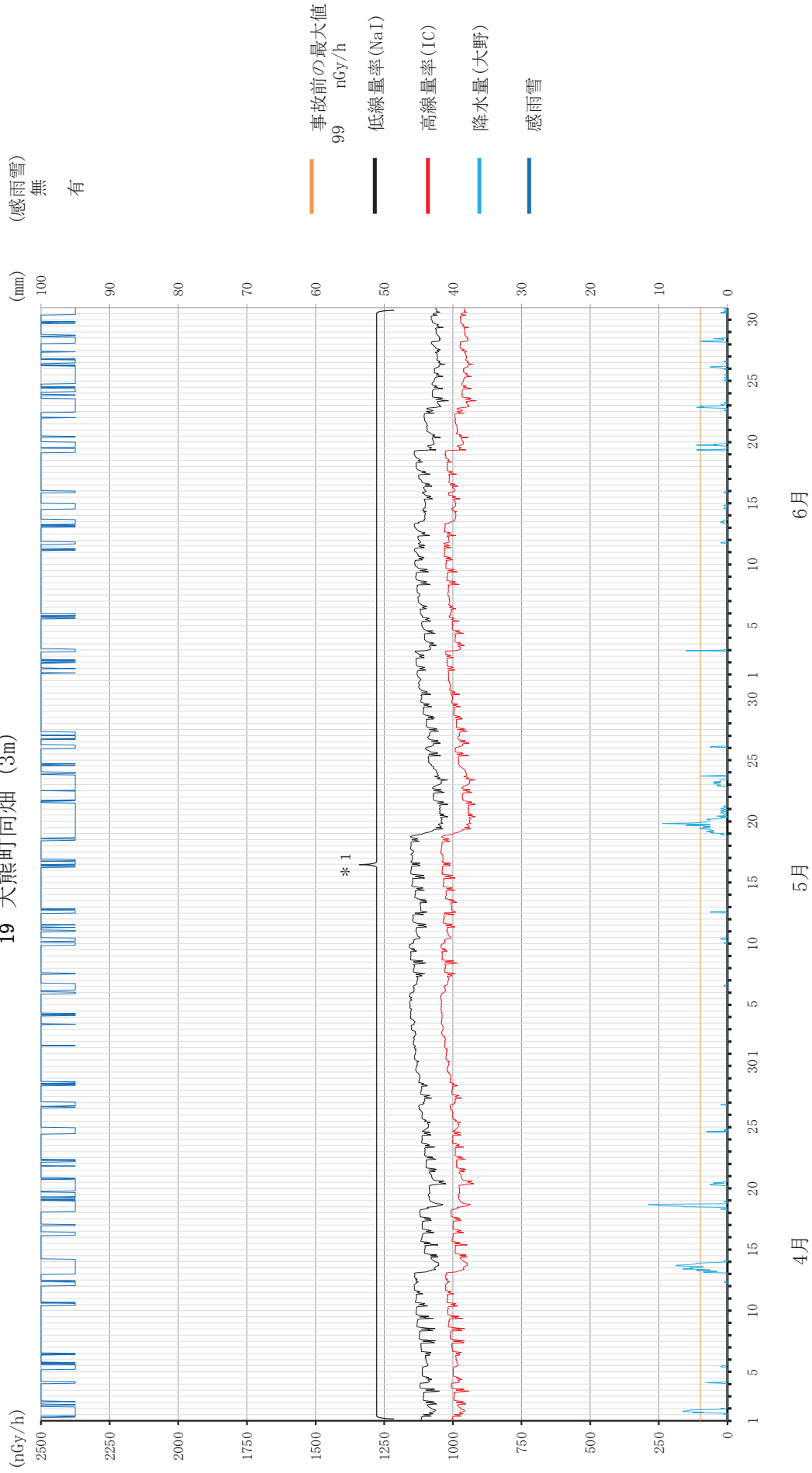
空間線量率の変動グラフ
17 富岡町夜の森 (3m)



空間線量率の変動グラフ 18 川内村下川内 (1m)



空間線量率の変動グラフ
19 大熊町向畑 (3m)

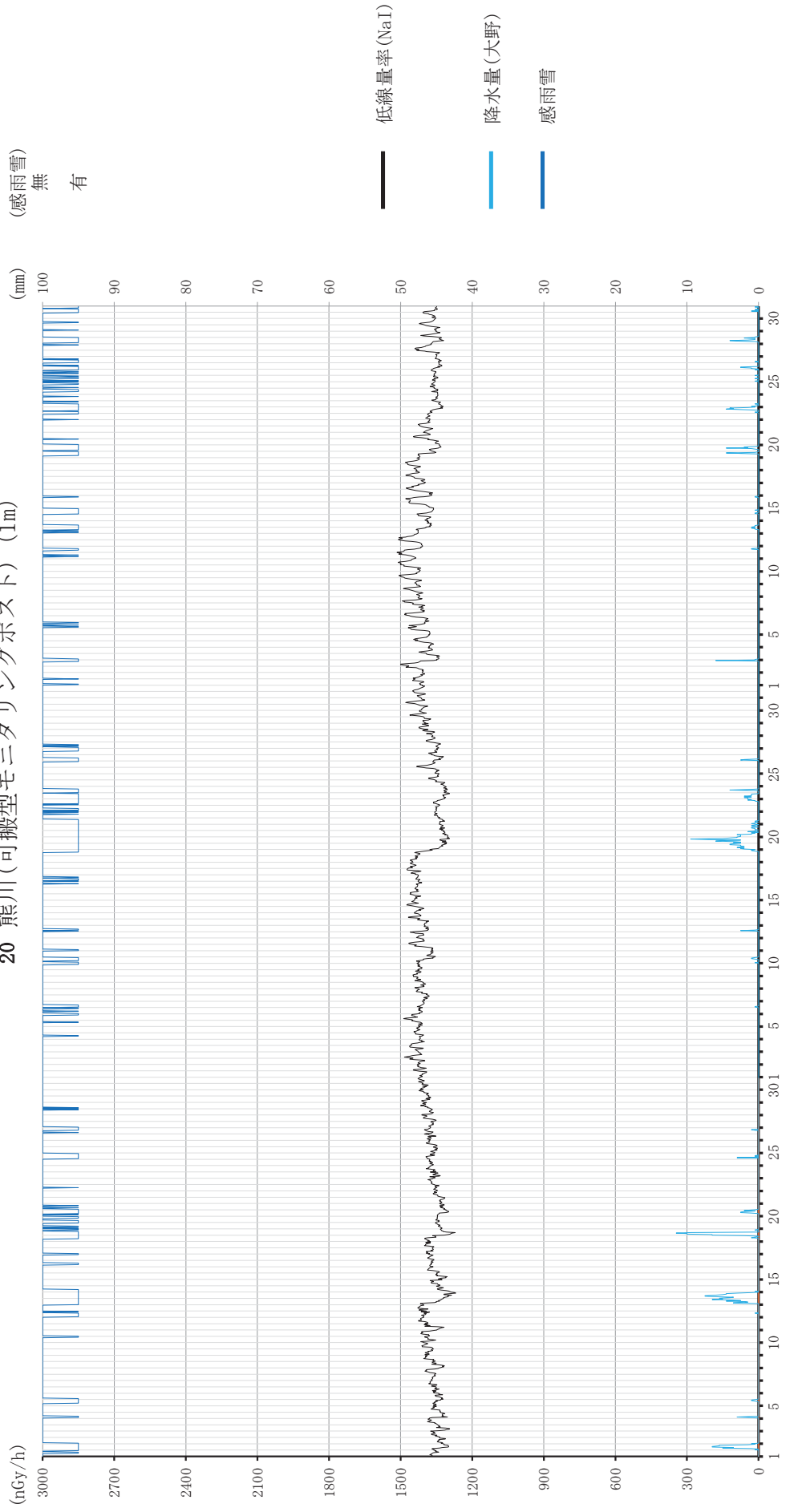


4月 5月 6月
* 1 局舎付近に帰還困難区域入退域ゲートがあり、朝夕の渋滞時の車両の遮へい効果により、1～6%程度の線量率低下が発生

電離箱検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線も測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaIシンチレーション検出器より30nGy/h程度高い。線量率が数百nGy/h程度の時は、電離箱検出器の線量率特性が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の測定値が同程度又はNaIシンチレーション検出器の測定値が高くなると考えられる。

空間線量率の変動グラフ

20 熊川(可搬型モニタリングポスト) (1m)

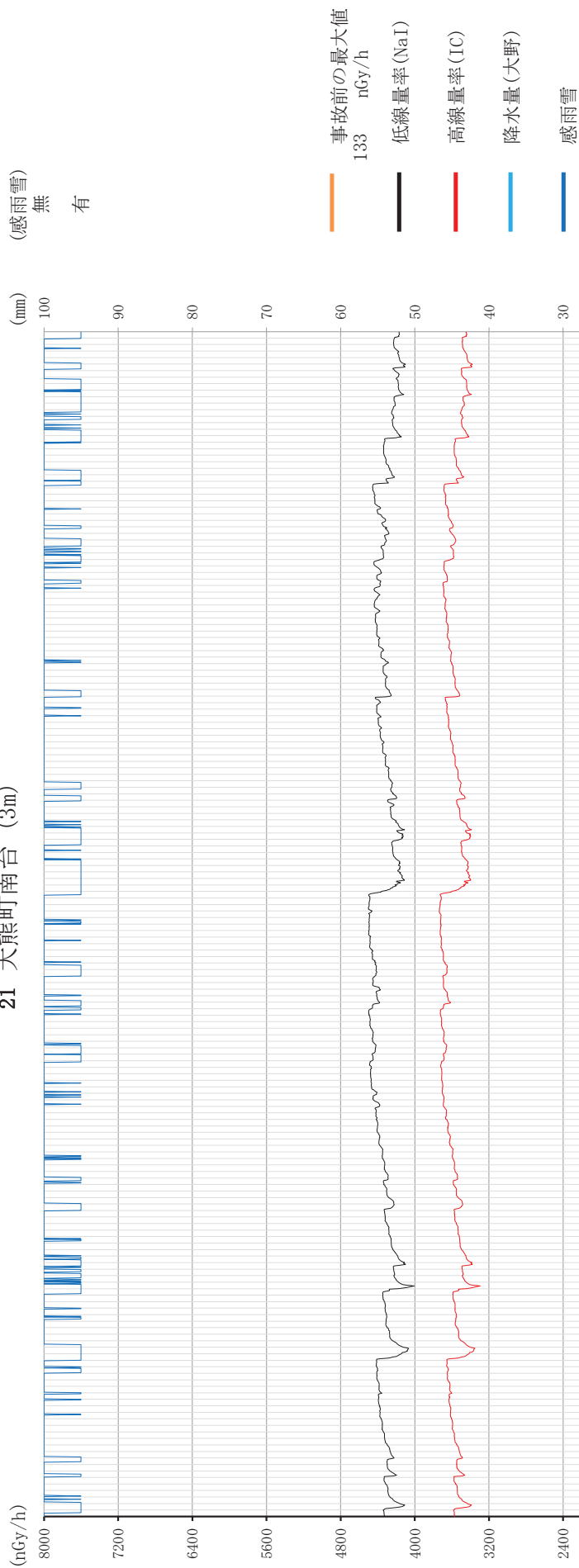


4月 可搬型モニタリングポストには温度制御装置が装備されていないため、線量率が気温の変動による影響を受けて日周期で変動する。

5月

6月

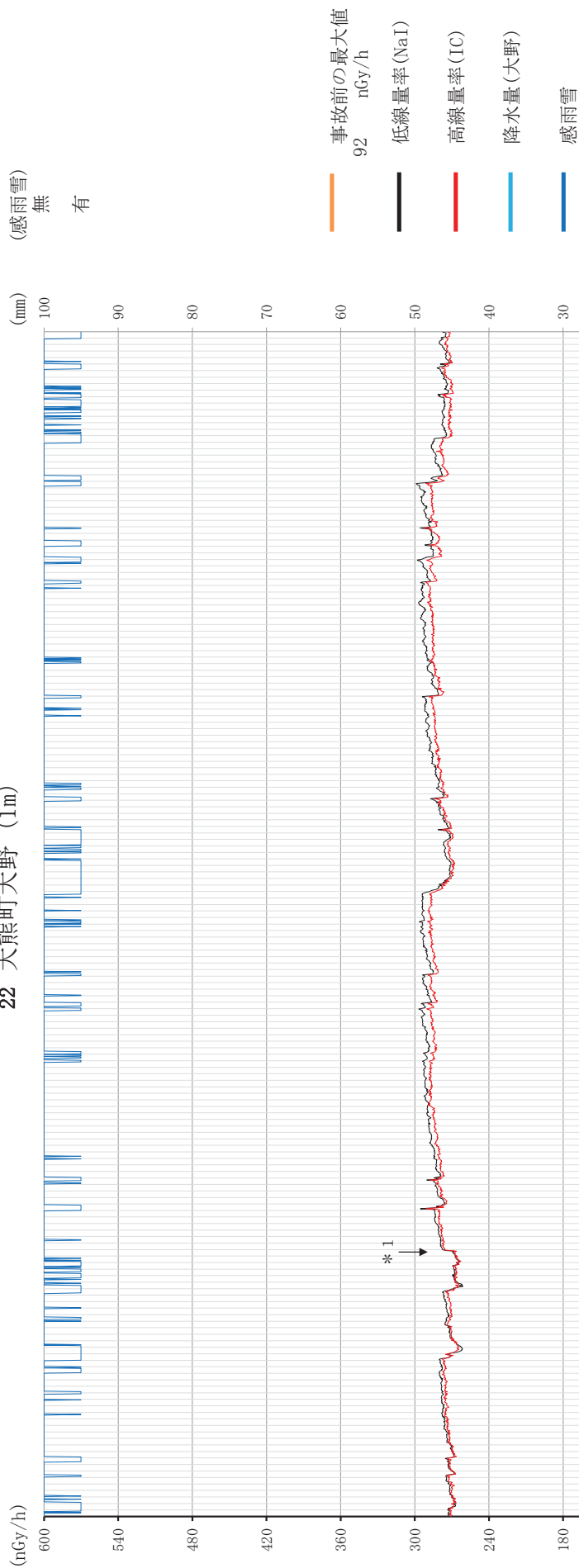
空間線量率の変動グラフ
21 大熊町南台 (3m)



4月 5月 6月

電離箱検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線も測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaIシンチレーション検出器より30nGy/h程度高い、線量率が数百nGy/h程度の時は、電離箱検出器の線量率特性が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の測定値が同程度又はNaIシンチレーション検出器の測定値が高くなると考えられる。

空間線量率の変動グラフ
22 大熊町大野 (1m)



4月

5月

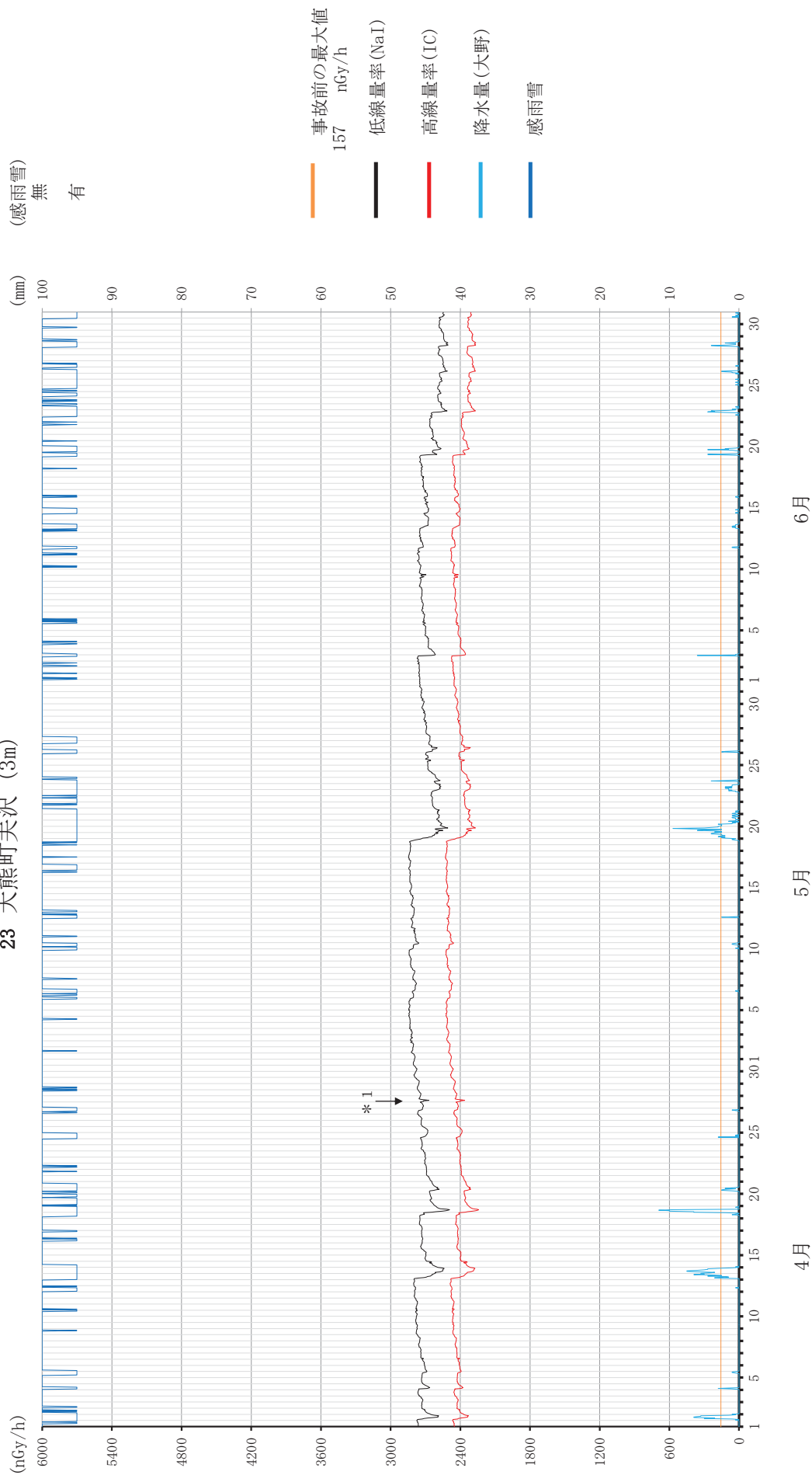
6月

測定地点を、福島県旧原子力センターから大熊町旧役場庁舎に令和2年4月1日から変更した。

* 1 4月21日以降、局舎近くで遮へい物となっていたプレハブ建屋が移動した影響でベースラインが上昇

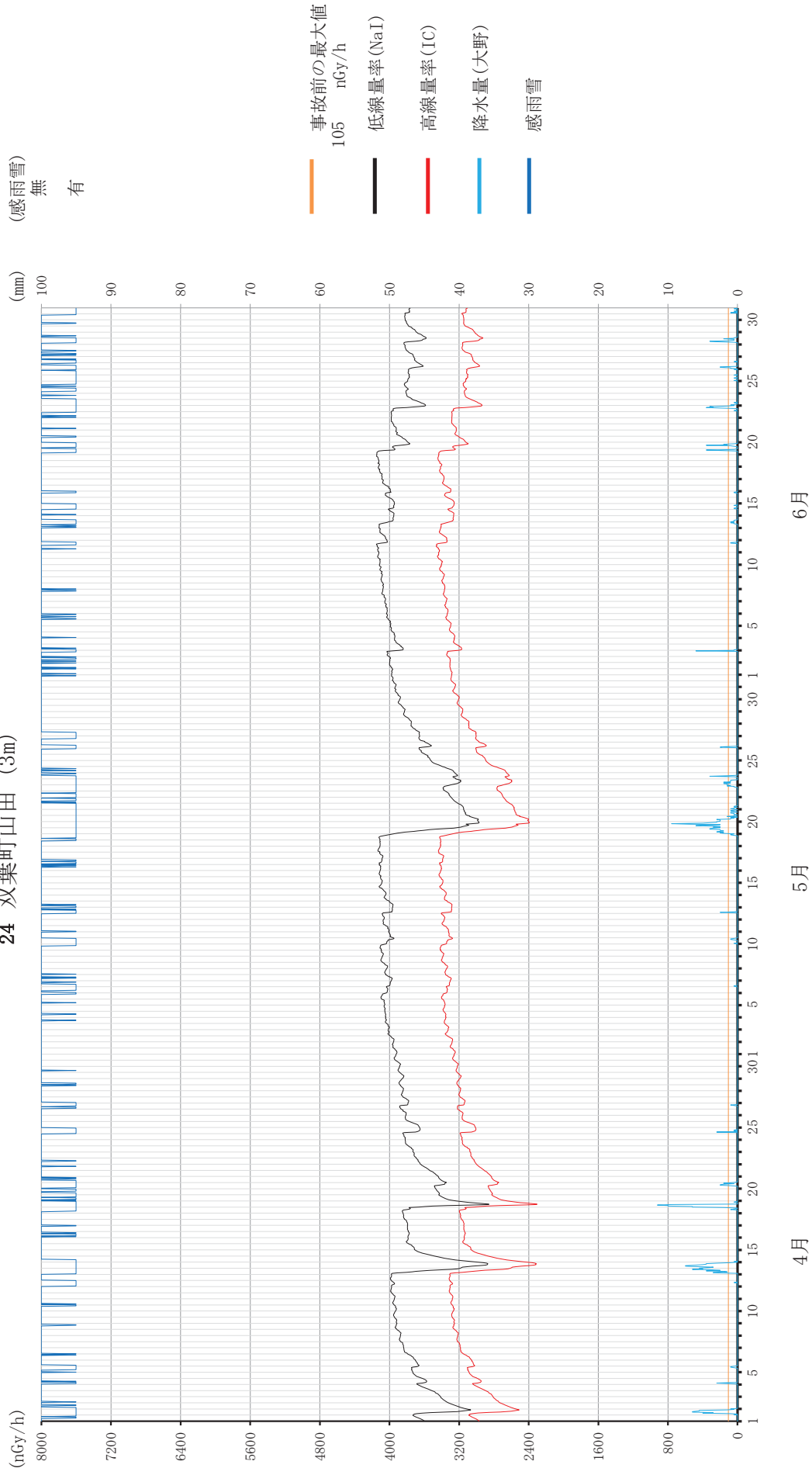
電離箱検出器(IC)は高エネルギーの宇宙線も測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaIシンチレーション検出器より30nGy/h程度高い。
線量率が数百nGy/h程度の時は、電離箱検出器の線量率特性が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の測定値が同程度又はNaIシンチレーション検出器の測定値が高くなると考えられる。

空間線量率の変動グラフ
23 大熊町夫沢 (3m)



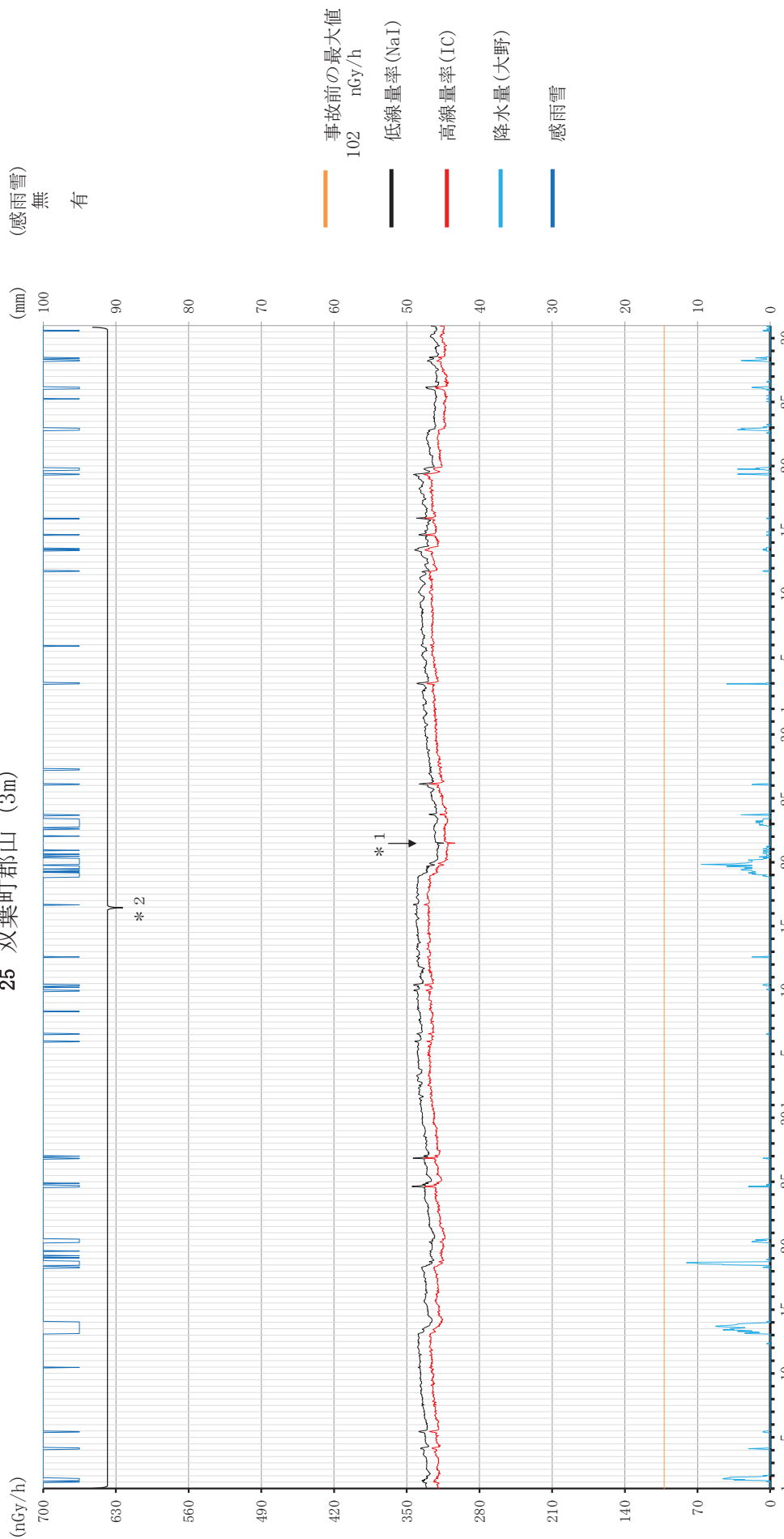
*1 4月27日は局舎周辺停車車両による遮へいの影響で線量率低下
電離箱検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線も測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaIシンチレーション検出器より30nGy/h程度高い。
線量率が数百nGy/h程度の時は、電離箱検出器の線量率特性が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の測定値が同程度又はNaIシンチレーション検出器の測定値が高くなると考えられる。

空間線量率の変動グラフ
24 双葉町山田 (3m)



電離箱検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線の測定も測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaIシンチレーション検出器より30nGy/h程度高い。線量率が数百nGy/h程度の時は、電離箱検出器の線量率特性が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の測定値が同程度又はNaIシンチレーション検出器の測定値が高くなると考えられる。

空間線量率の変動グラフ
25 双葉町郡山 (3m)



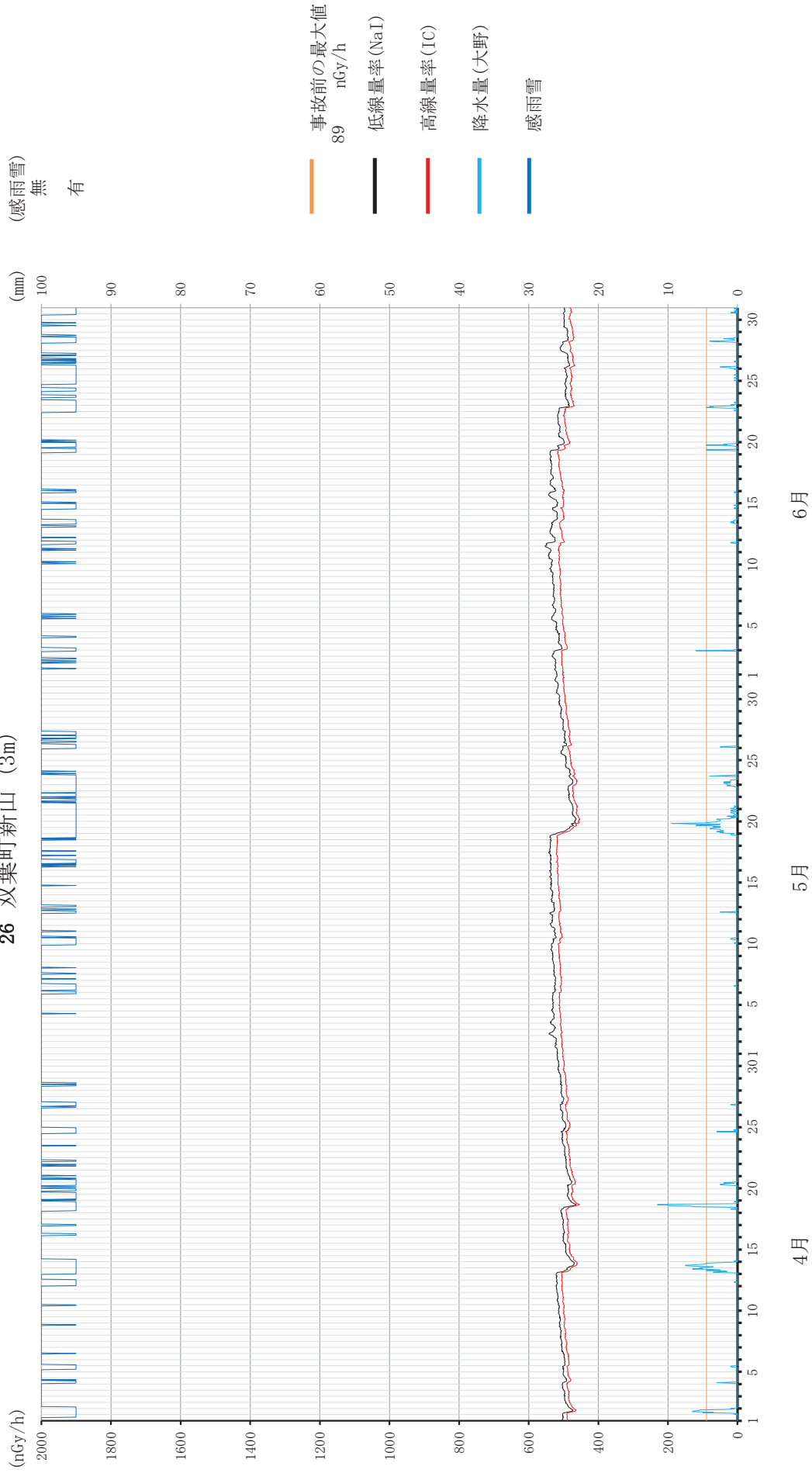
4月

5月

6月

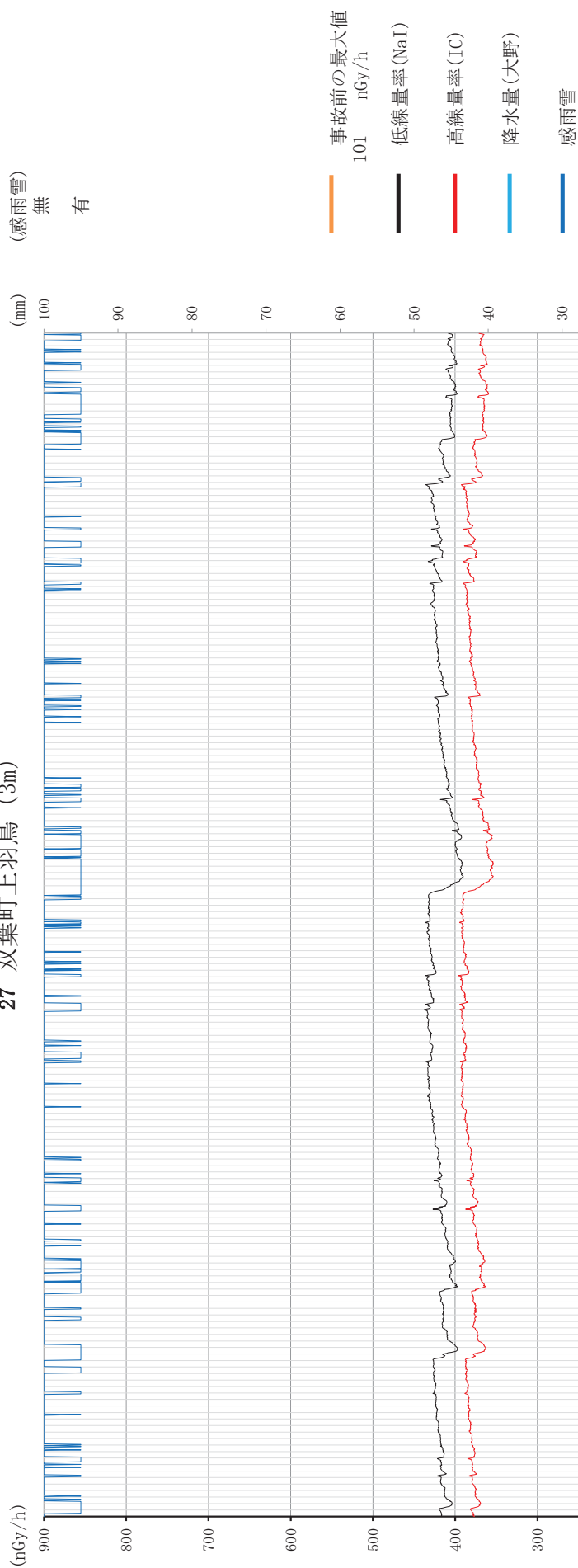
* 1 5月21日は局舎周辺停車帯による遮へいの影響で線量率低下
 * 2 感雨雪計の感度が低下 (4月1日～6月30日) していることから、参考として記載
 電離箱検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線も測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaIシンチレーション検出器より30nGy/h程度高い。
 線量率が数10nGy/h程度の時は、電離箱検出器の線量率特性が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の測定値が同程度又はNaIシンチレーション検出器の測定値が高くなると考えられる。

空間線量率の変動グラフ
26 双葉町新山 (3m)



電離箱検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線も測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaIシンチレーション検出器より30nGy/h程度高い。線量率が数百nGy/h程度の時は、電離箱検出器の線量率特性が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の測定値が同程度又はNaIシンチレーション検出器の測定値が高くなると考えられる。

空間線量率の変動グラフ
27 双葉町上羽鳥 (3m)



4月

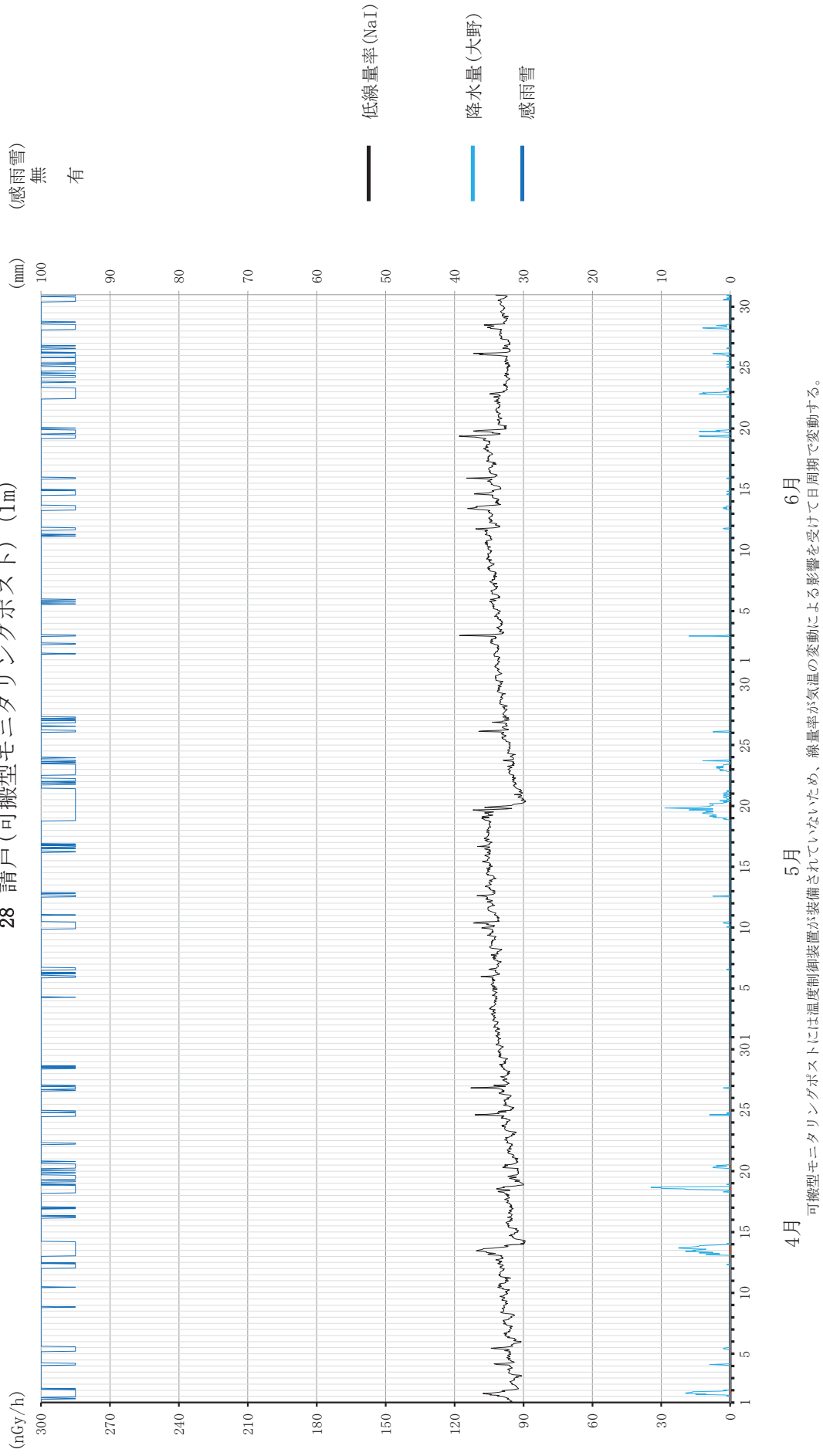
5月

6月

電離箱検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線の宇宙線も測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaIシンチレーション検出器より30nGy/h程度高い。線量率が数百nGy/h程度の時は、電離箱検出器の線量率特性が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の測定値が同程度又はNaIシンチレーション検出器の測定値が高くなると考えられる。

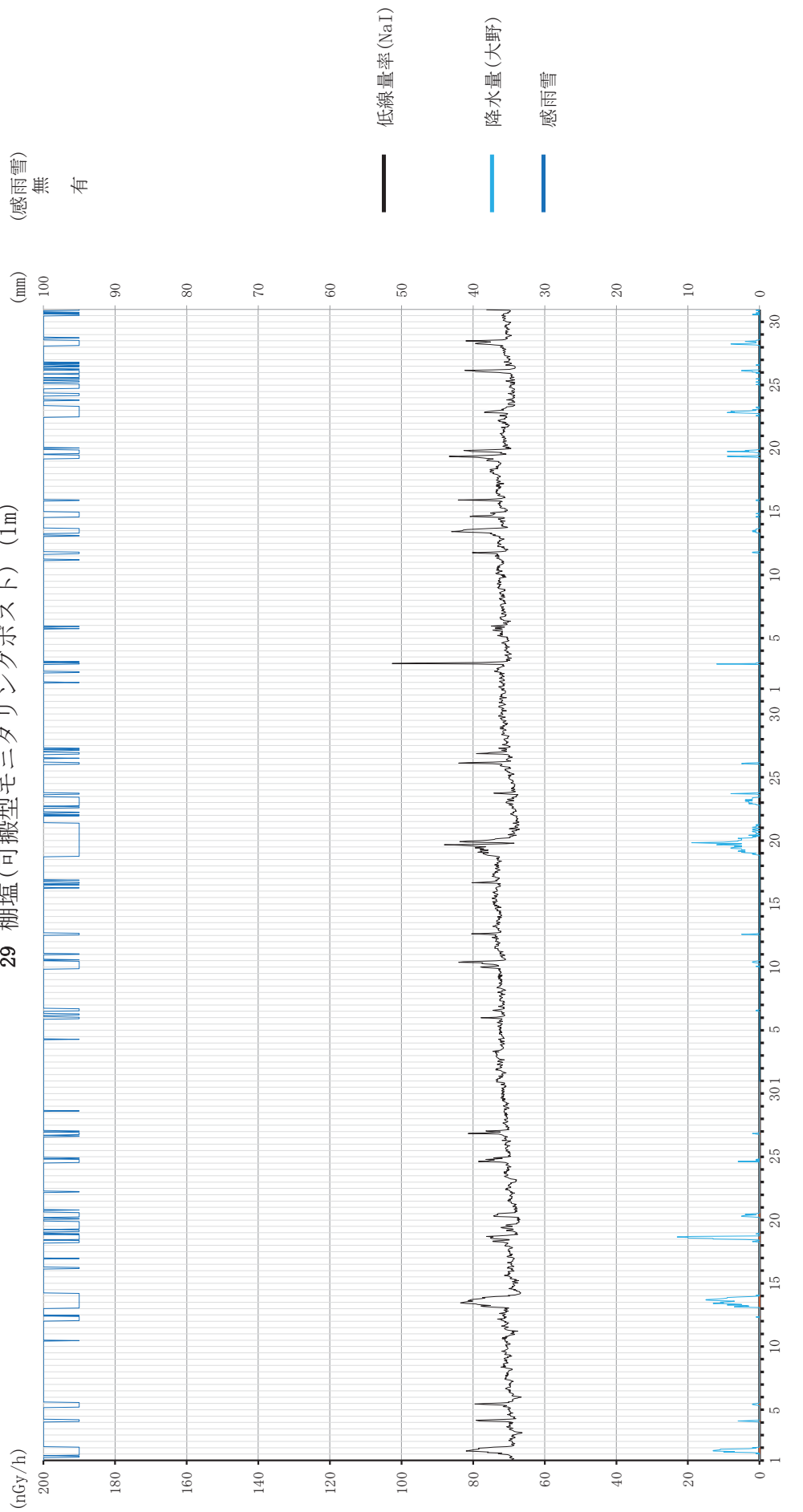
空間線量率の変動グラフ

28 請戸(可搬型モニタリングポスト) (1m)



空間線量率の変動グラフ

29 棚塩(可搬型モニタリングポスト) (1m)

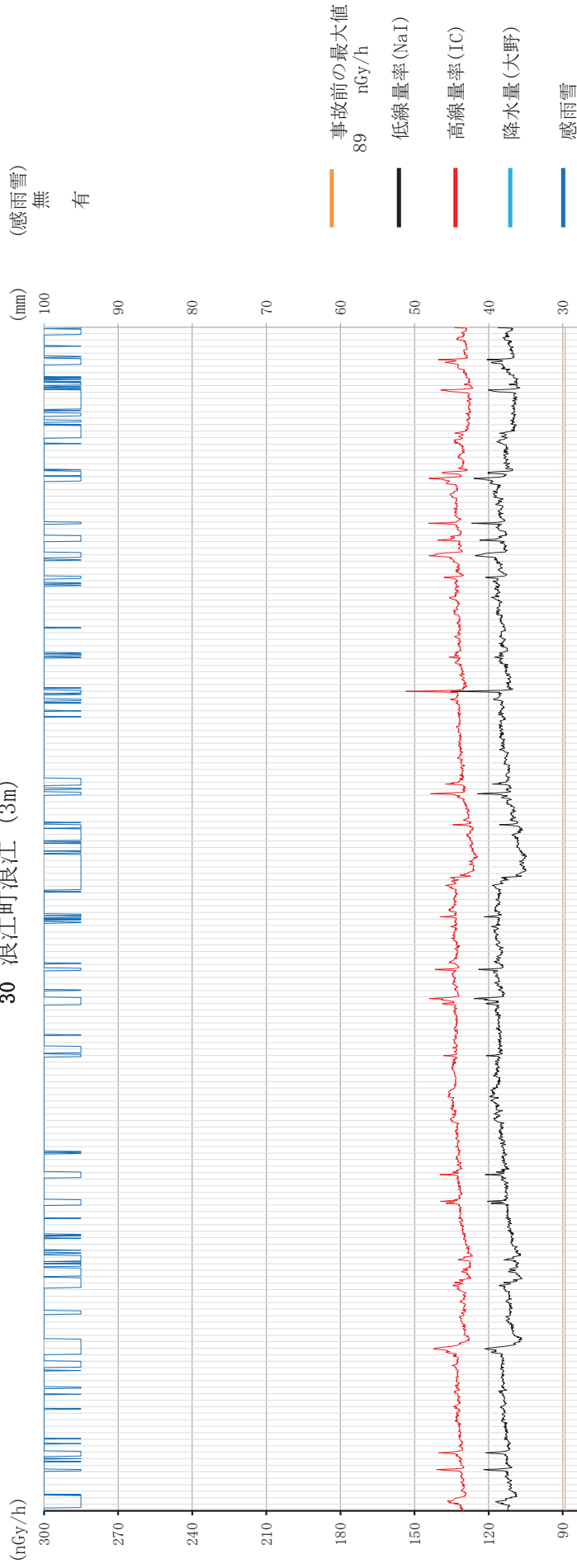


4月 可搬型モニタリングポストには温度制御装置が装備されていないため、線量率が気温の変動による影響を受けて日周期で変動する。

5月

6月

空間線量率の変動グラフ
30 浪江町浪江 (3m)

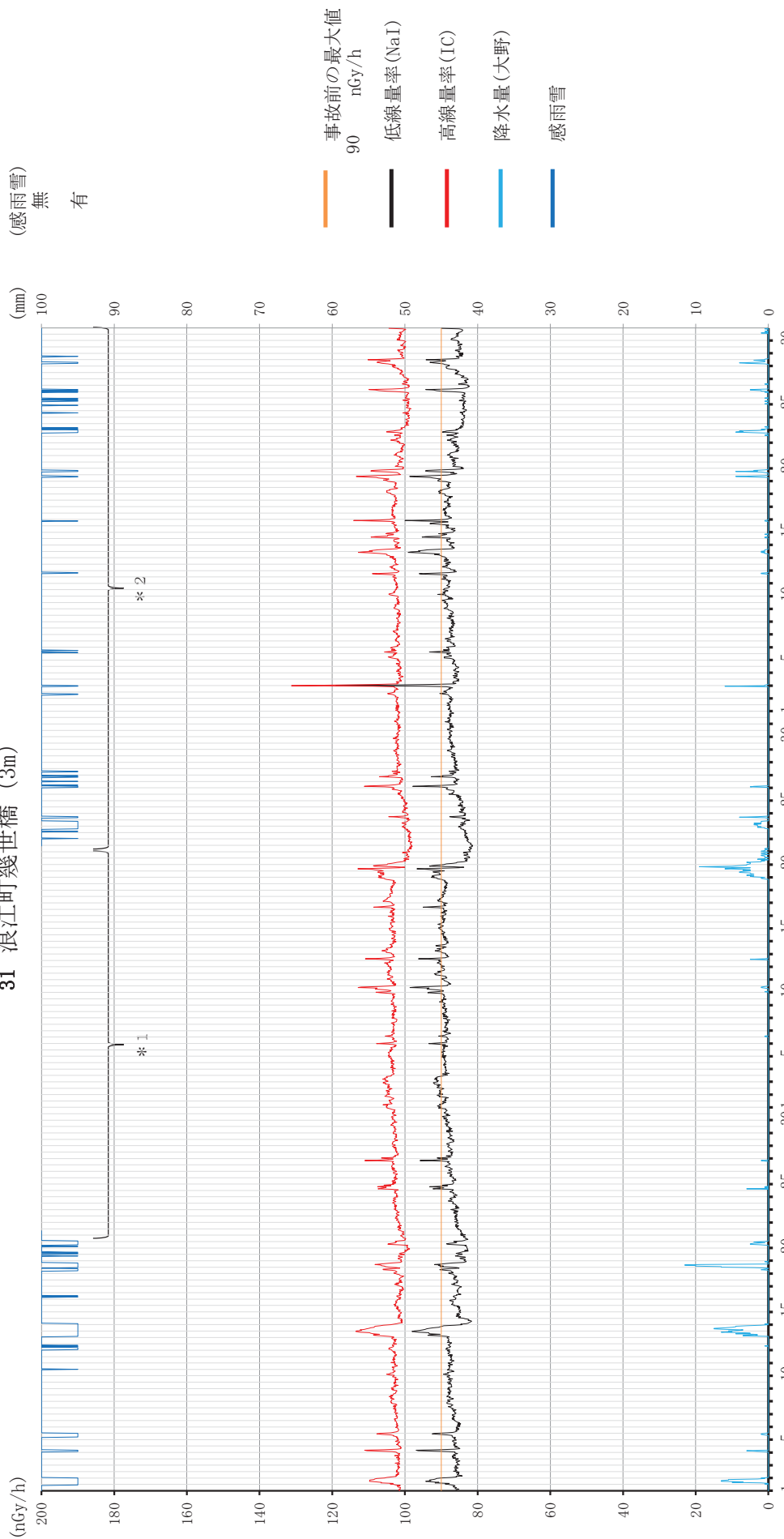


6月

5月

4月

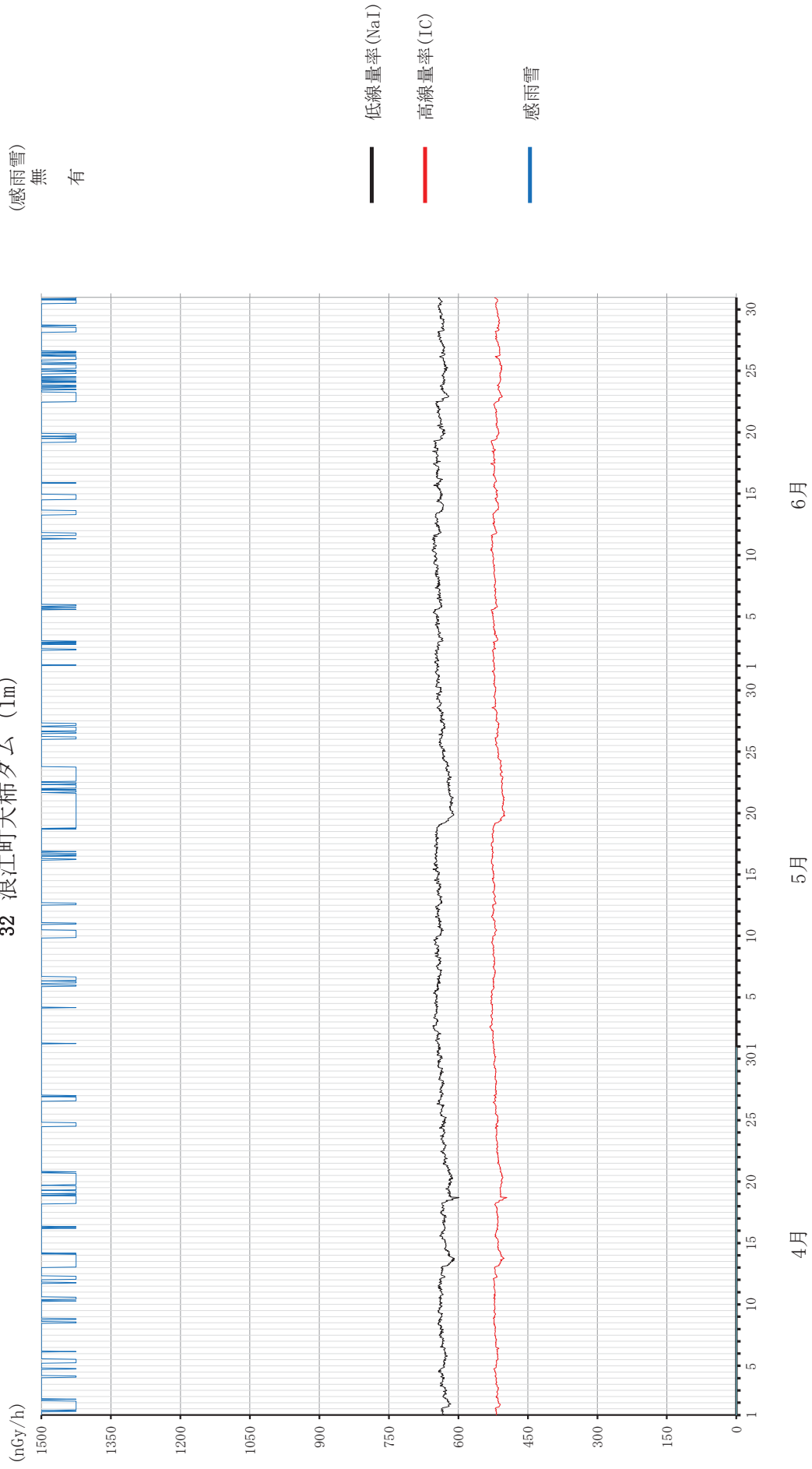
空間線量率の変動グラフ
31 浪江町幾世橋 (3m)



4月 5月 6月

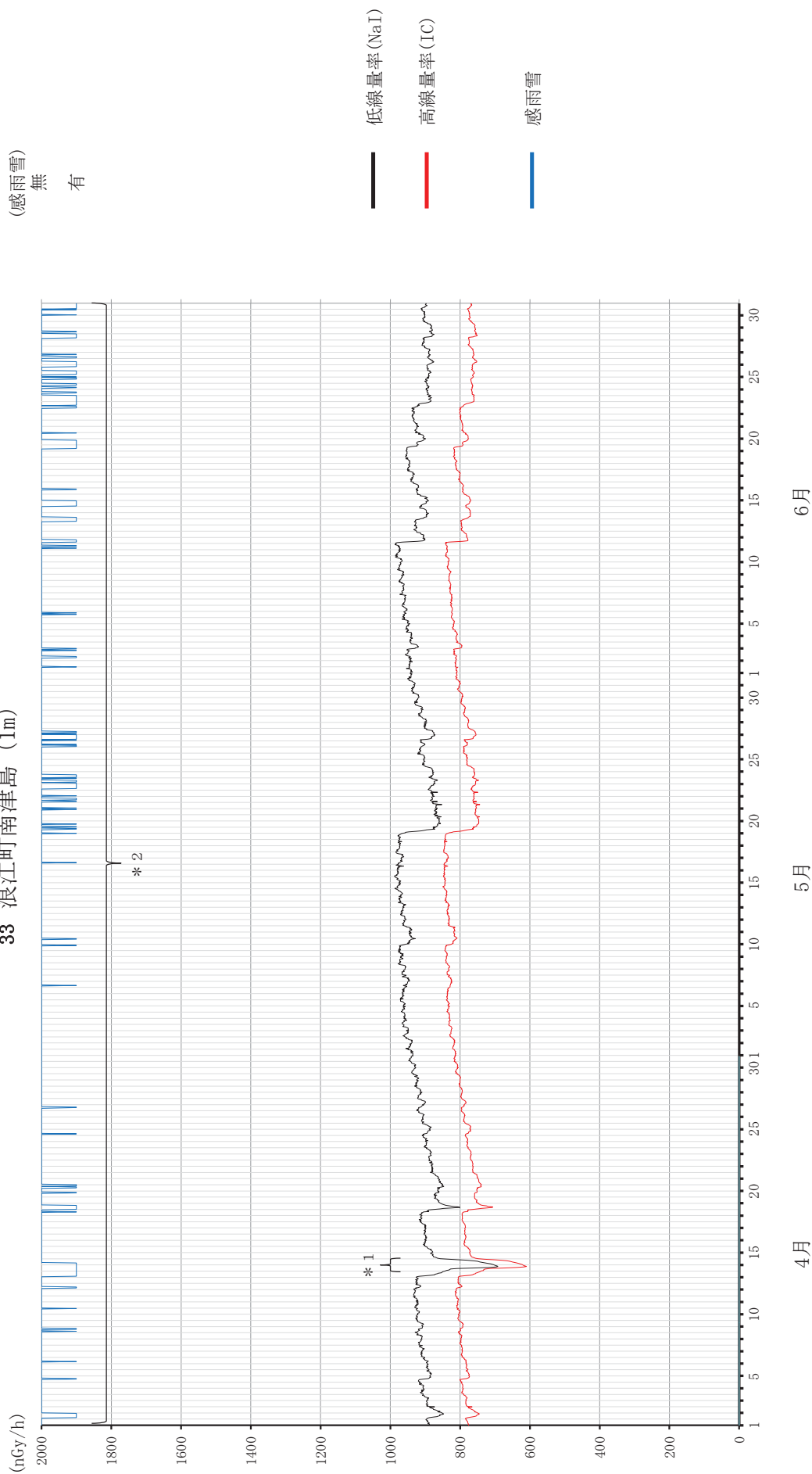
* 1 感雨雪計故障 (4月21日～5月21日) のため欠測
* 2 感雨雪計の感度が低下 (5月22日～6月30日) していることから、参考として記載

空間線量率の変動グラフ
32 浪江町大柿ダム (1m)



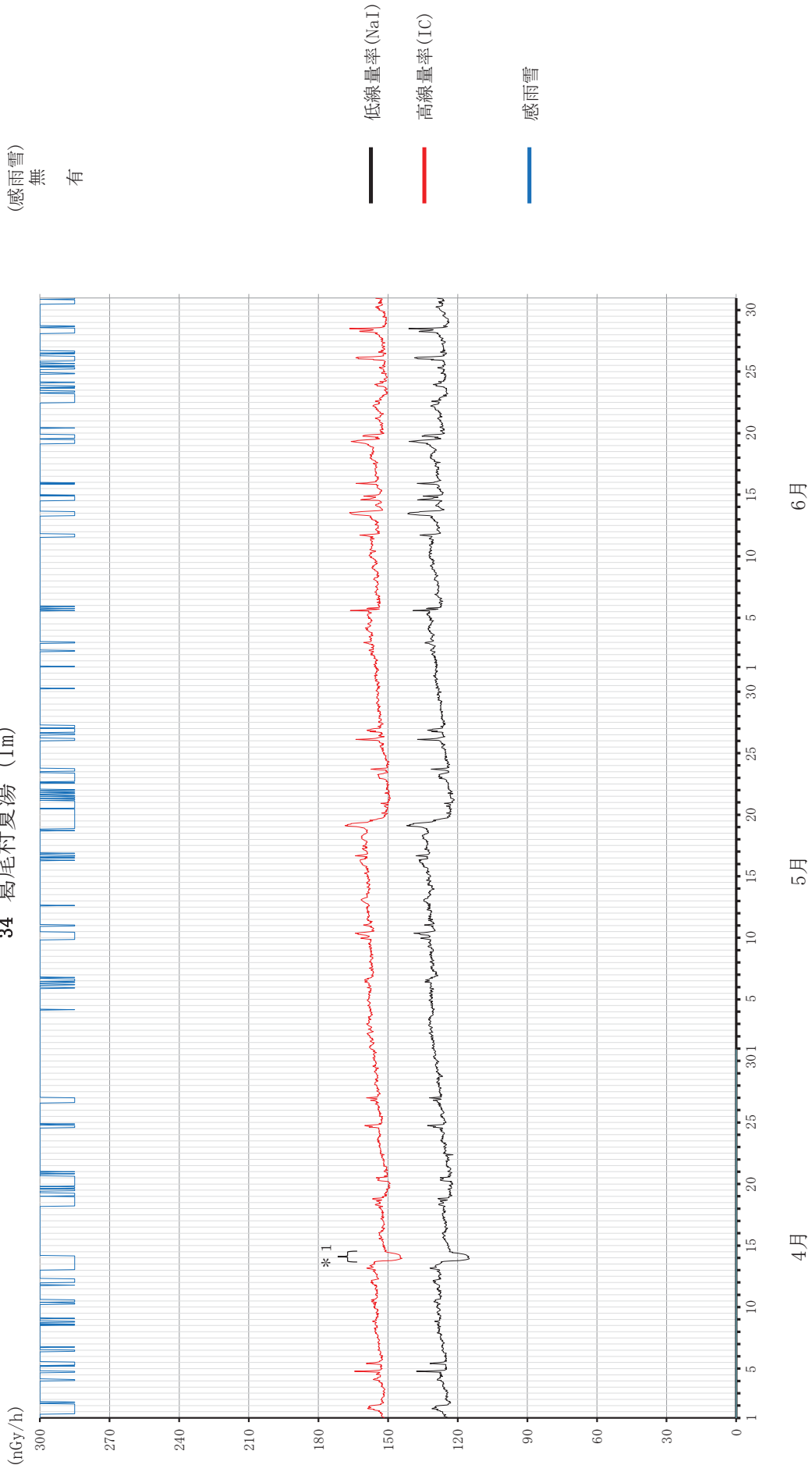
電離箱検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線も測定できることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaIシンチレーション検出器より30nGy/h程度高い。
線量率が数百nGy/h程度の時は、電離箱検出器の線量率特性が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の測定値が同程度又はNaIシンチレーション検出器の測定値が高くなると考えられる。

空間線量率の変動グラフ
33 浪江町南津島 (1m)

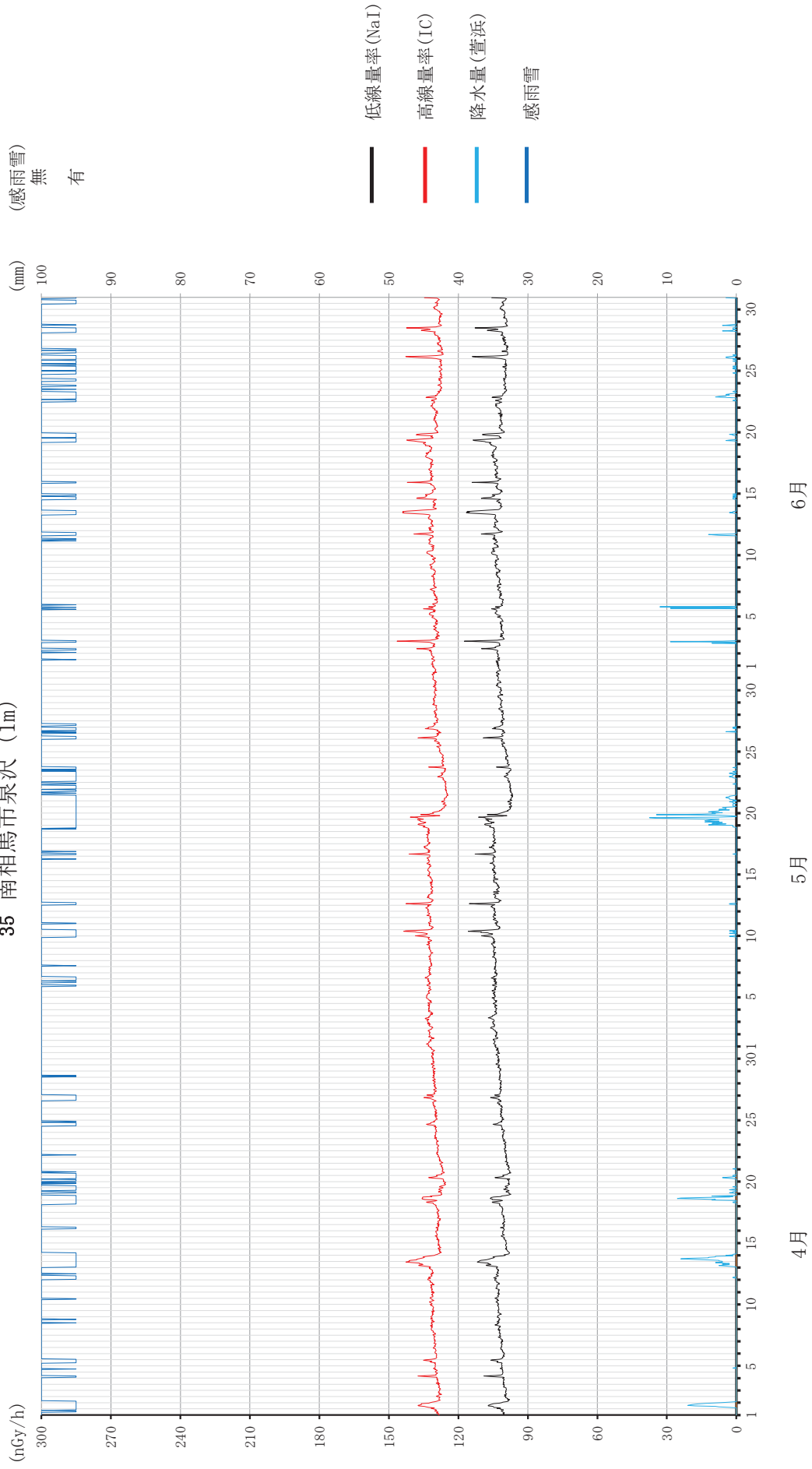


* 1 積雪のため線量率低下 (4月1日～6月30日) していることから、参考として記載
* 2 感雨雪計の感度が低下 (4月1日～6月30日) していることから、線量率が低レベルのときの測定値はNaIシンチレーション検出器より30nGy/h程度高い。
電離箱検出器 (IC) は高エネルギーの宇宙線も測定できることから、線量率が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の線量率が数百nGy/h程度の時は、電離箱検出器の線量率特性が良好なのに対してNaIシンチレーション検出器の線量率特性が1.1程度であることから、両検出器の測定値が同程度又はNaIシンチレーション検出器の測定値が高くなると考えられる。

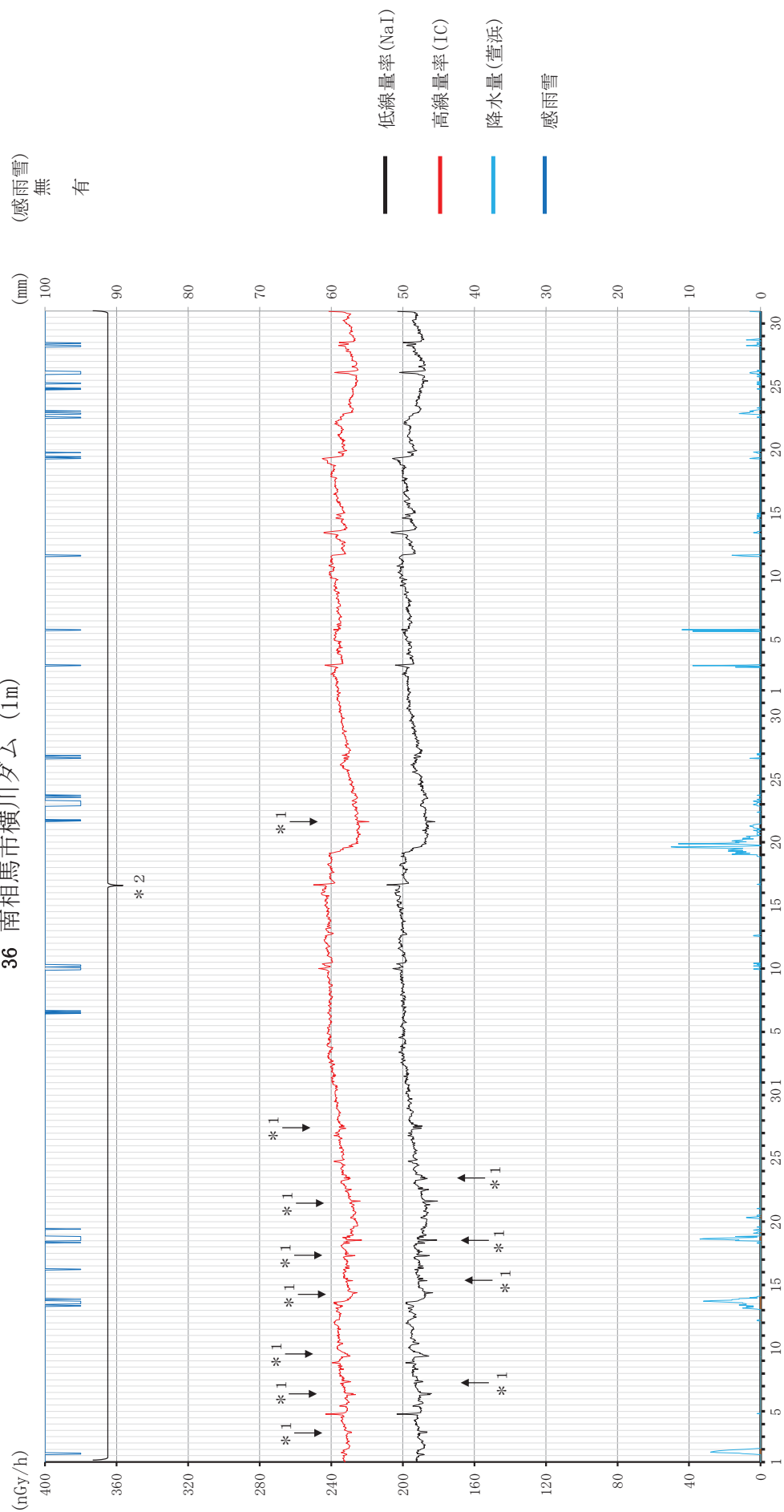
空間線量率の変動グラフ 34 葛尾村夏湯 (1m)



空間線量率の変動グラフ 35 南相馬市泉沢 (1m)



空間線量率の変動グラフ
36 南相馬市横川ダム (1m)



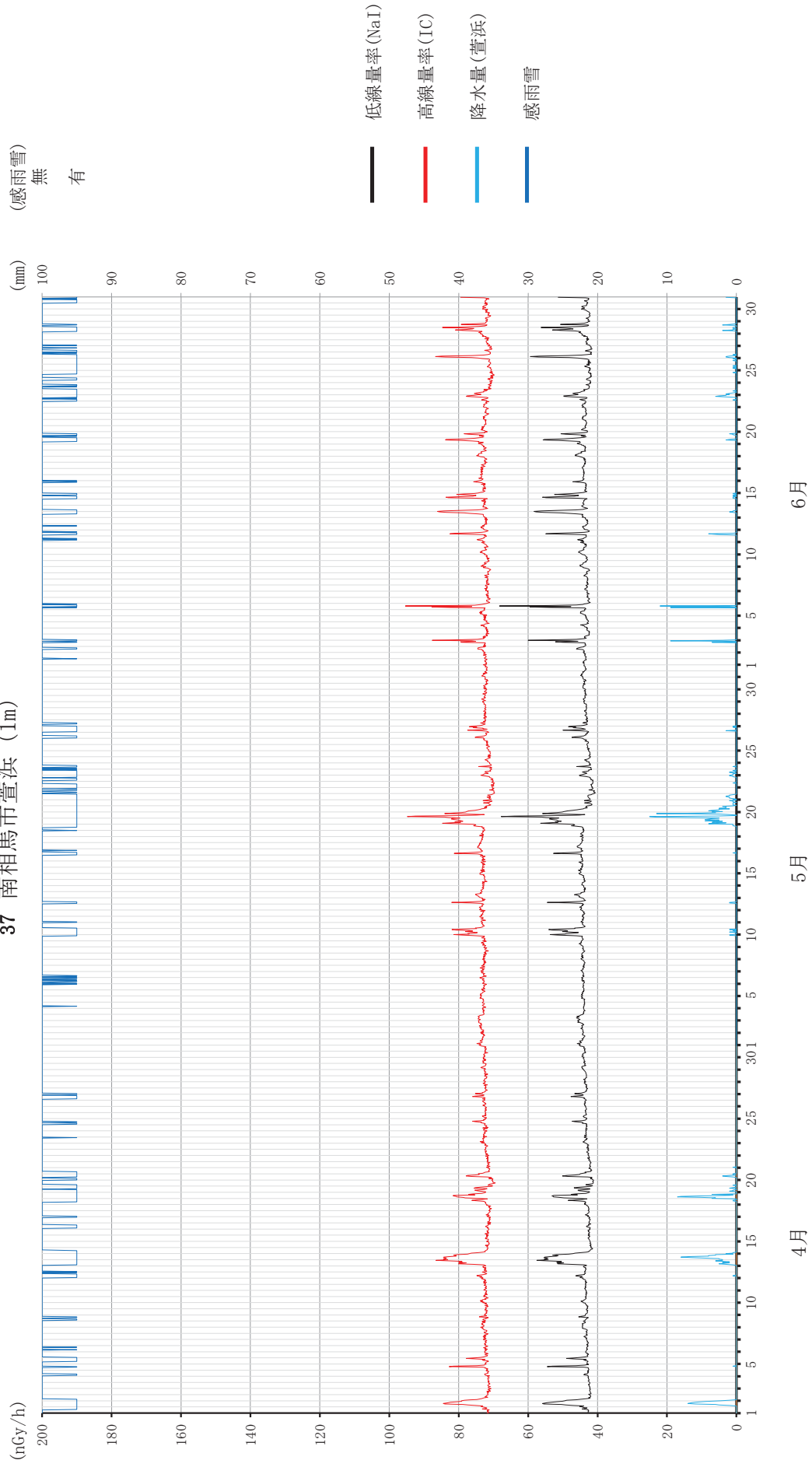
4月

5月

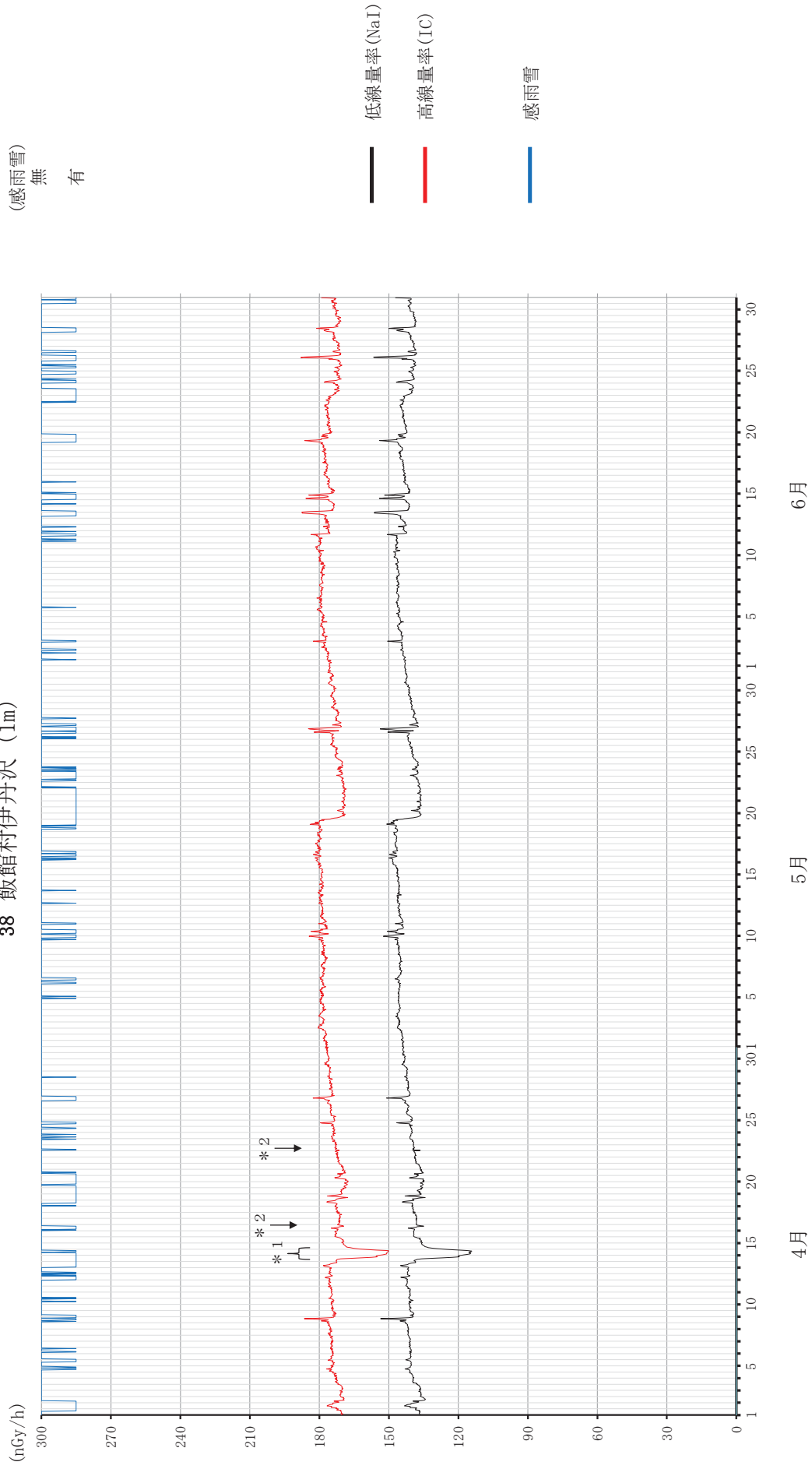
6月

*1 局舎周辺停車車両による遮へいの影響で線量率低下
*2 感雨雪計の感度が低下(4月1日~6月30日)していることから、参考として記載

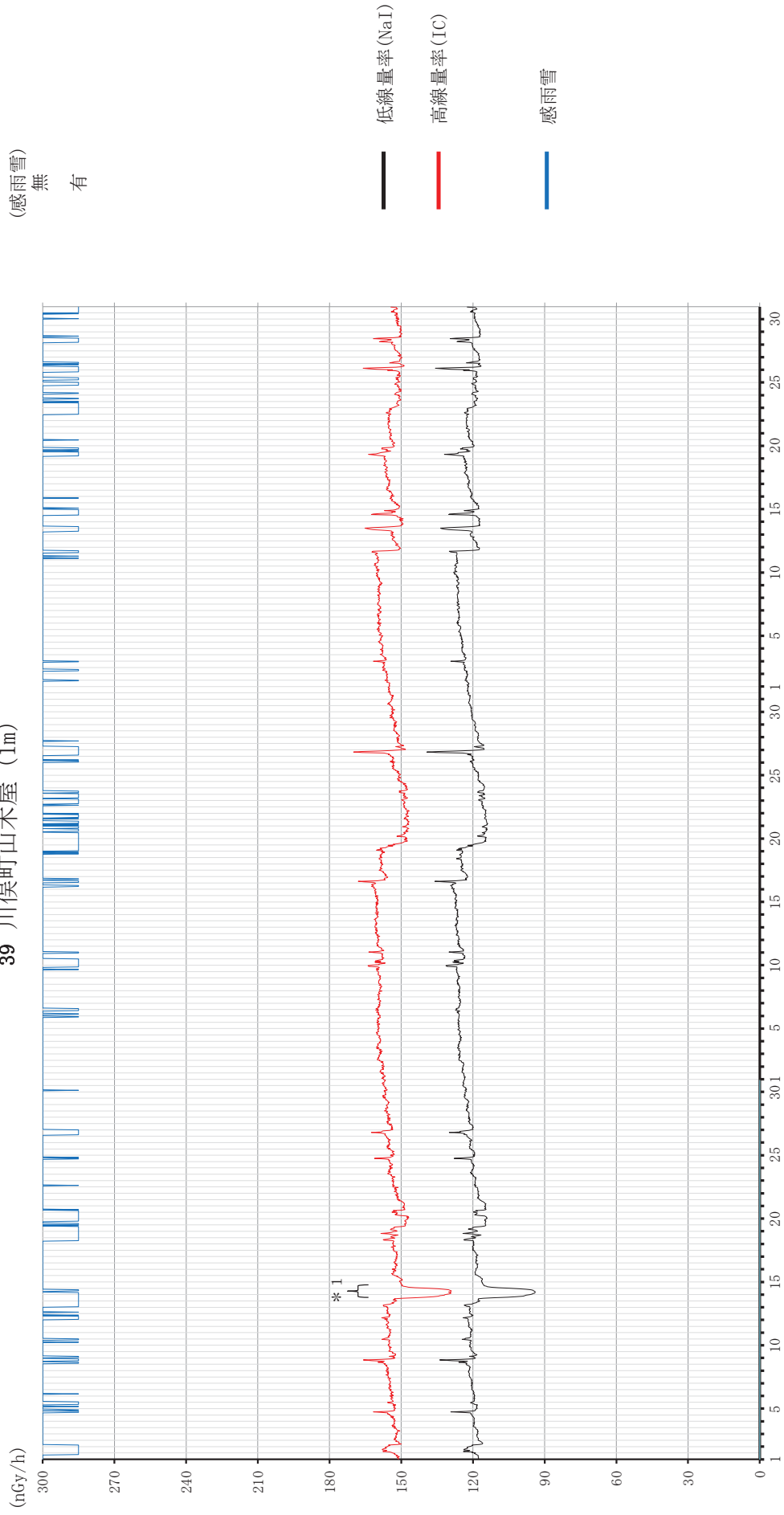
空間線量率の変動グラフ
37 南相馬市萱浜 (1m)



空間線量率の変動グラフ
38 飯館村伊丹沢 (1m)



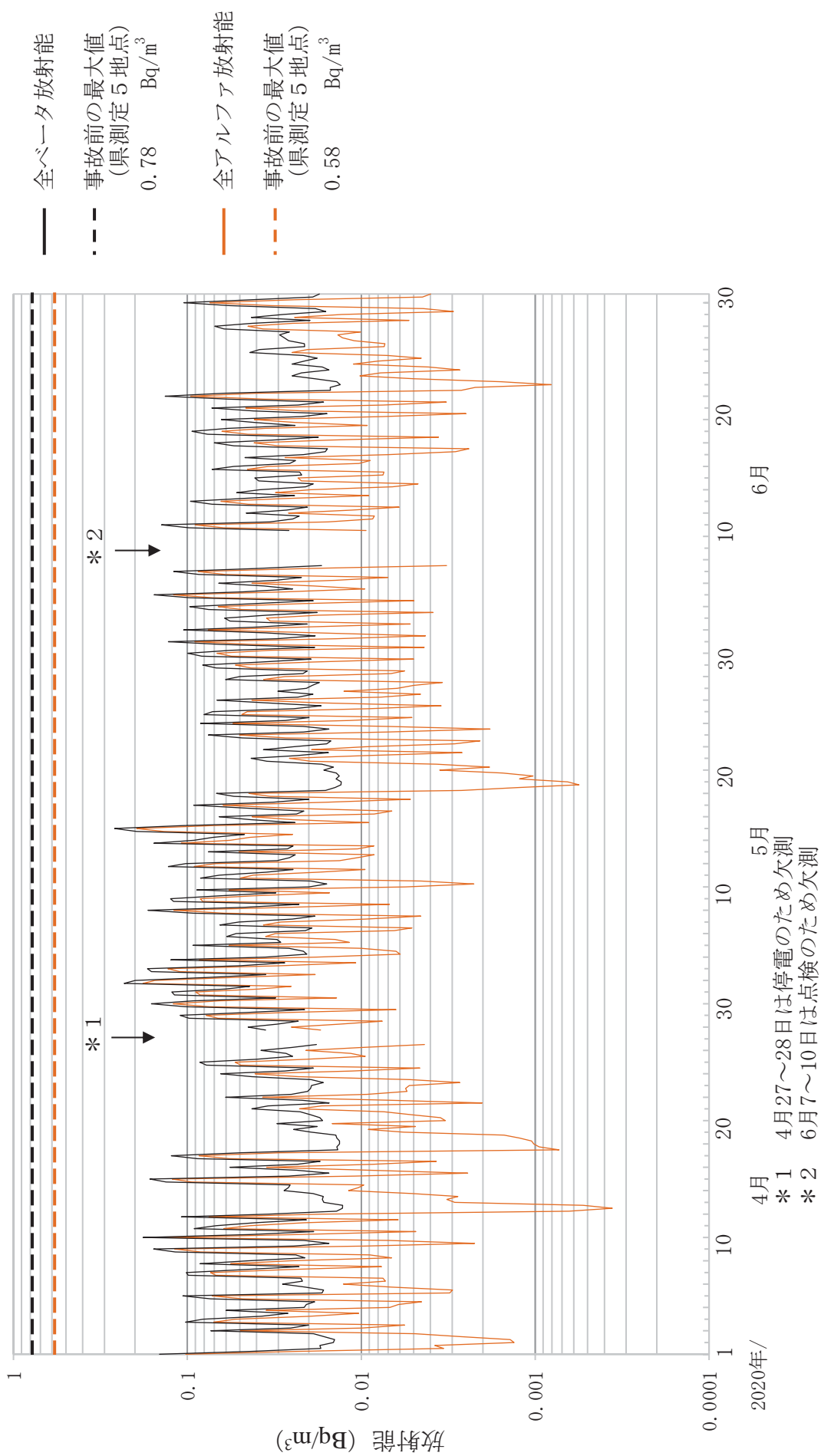
空間線量率の変動グラフ
39 川俣町山木屋 (1m)



4月 * 1 積雪のため線量率低下

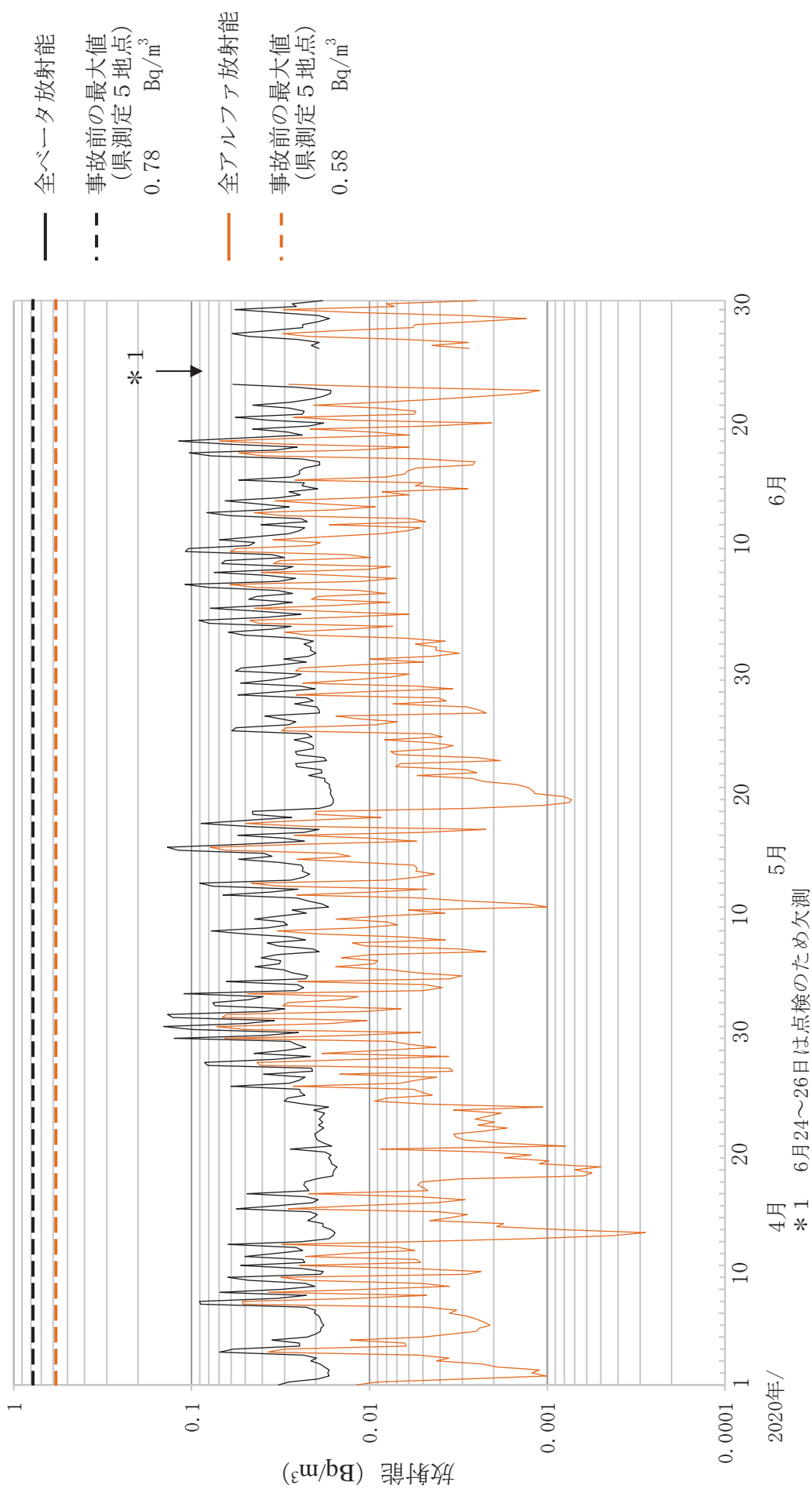
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

1 いわき市小川
(令和2年4月1日～6月30日)



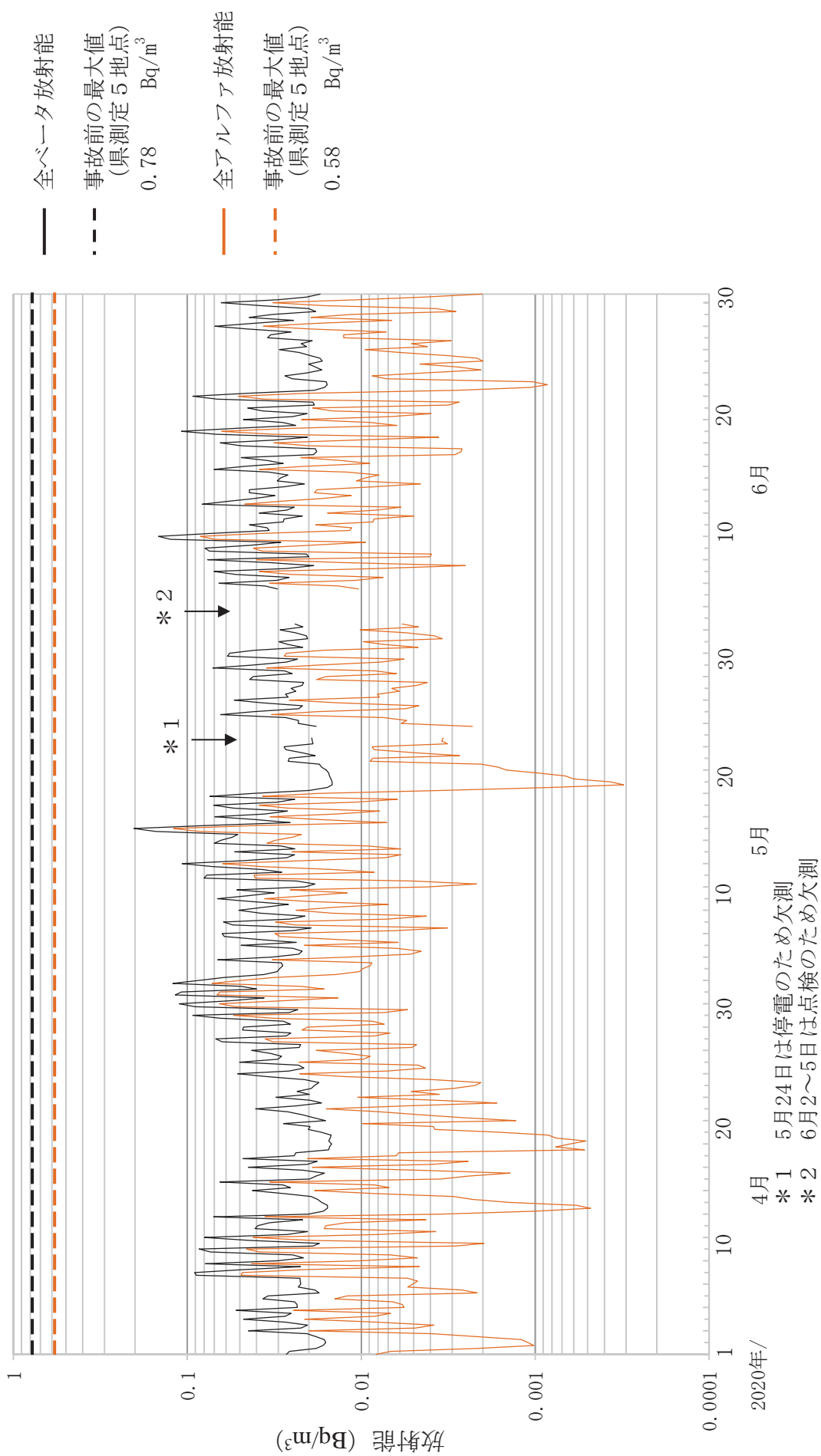
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

2 田村市都路馬洗戸
(令和2年4月1日～6月30日)



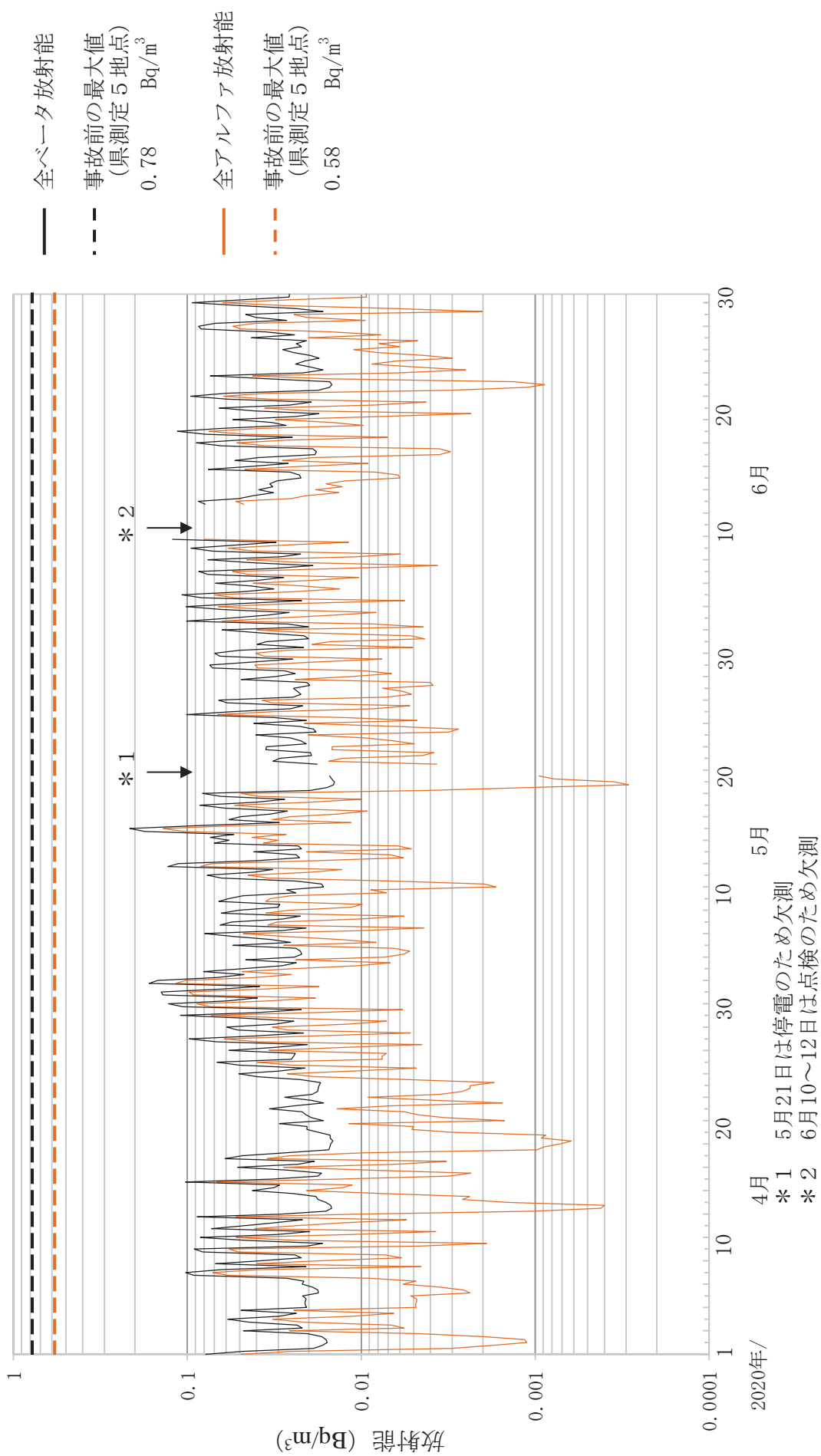
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

3 広野町小滝平
(令和2年4月1日～6月30日)



大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

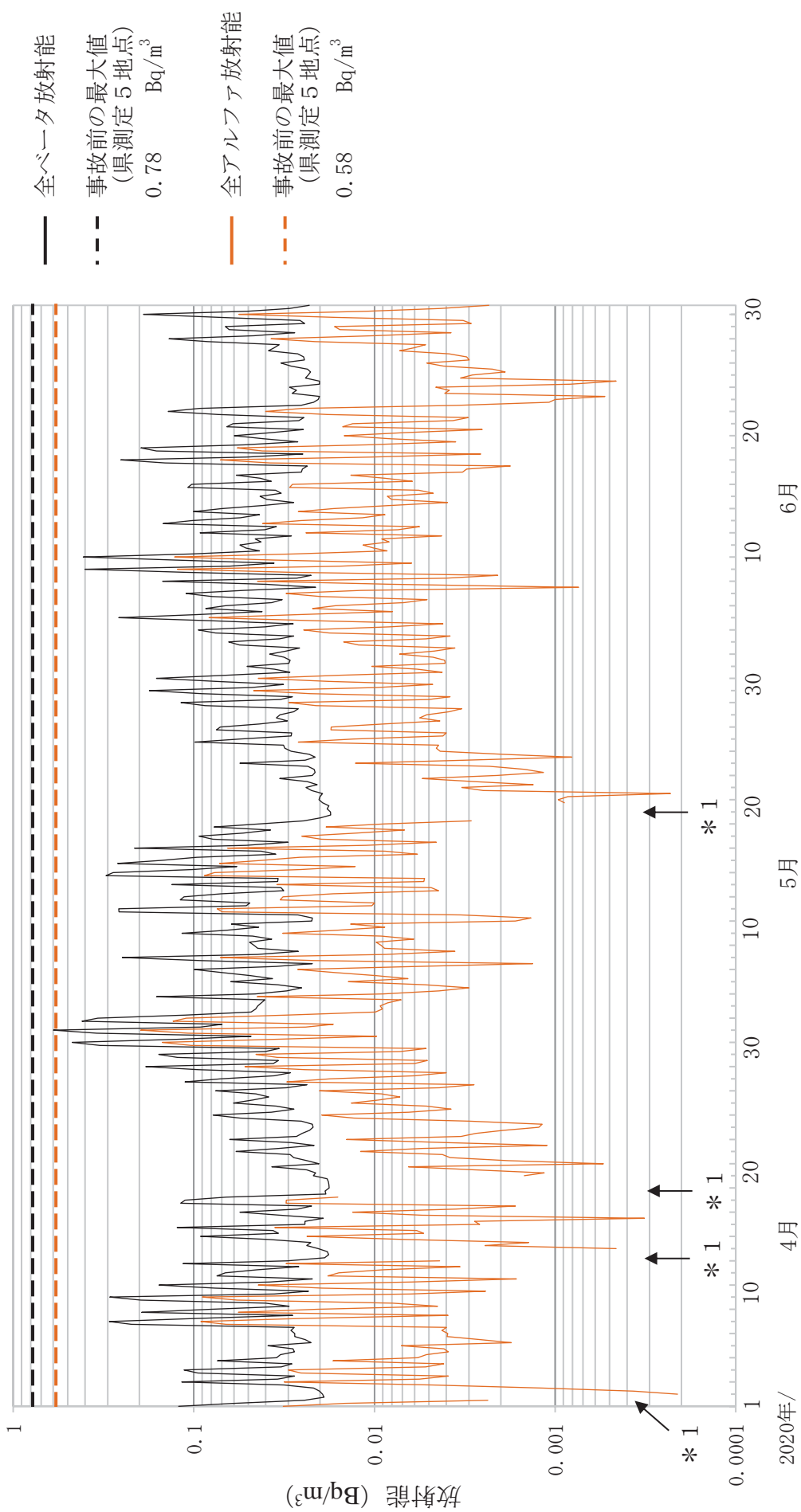
4 榎葉町木戸ダム
(令和2年4月1日～6月30日)



大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

5 檜葉町繁岡

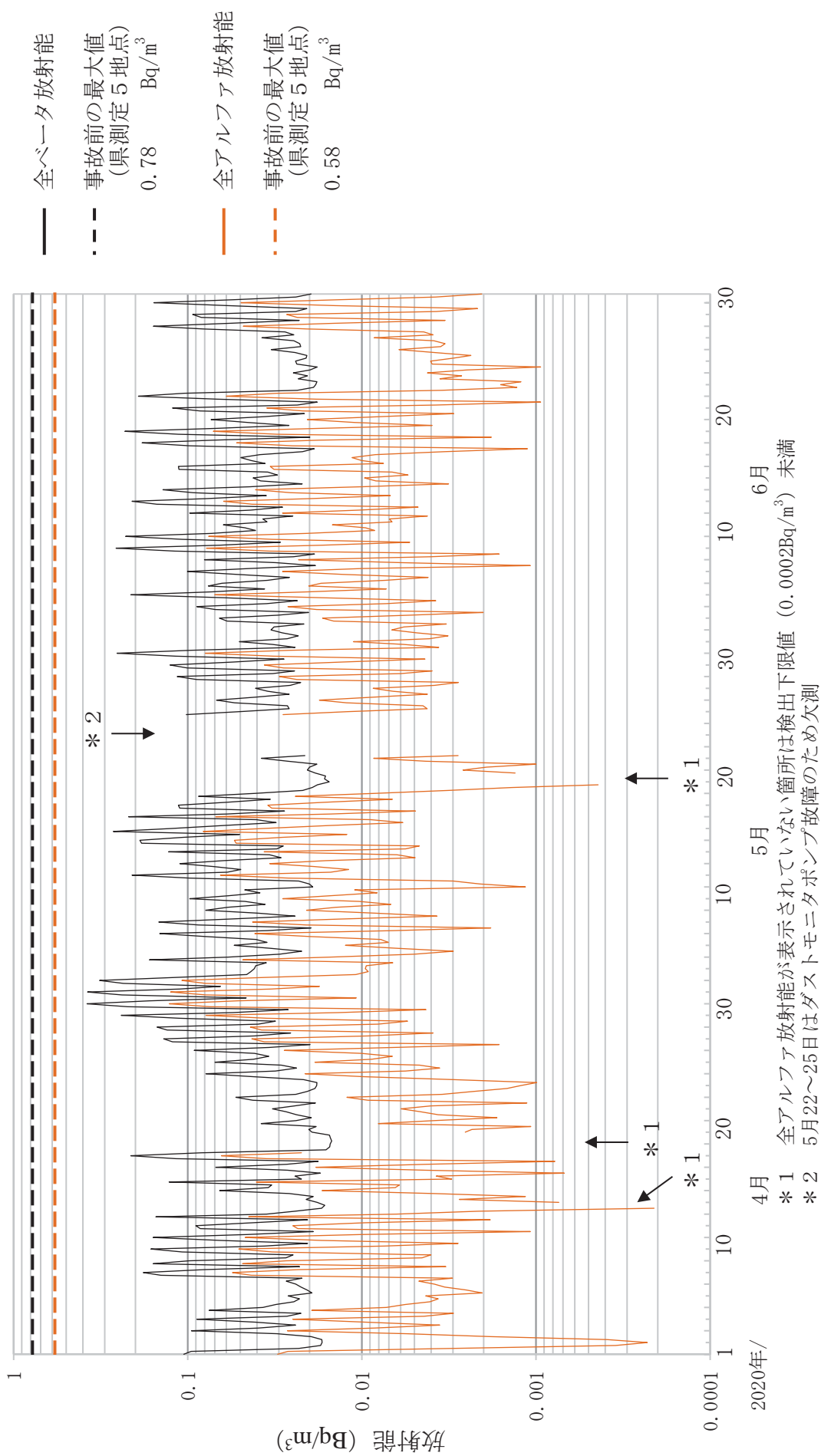
(令和2年4月1日～6月30日)



* 1 全アルファ放射能が表示されていない箇所は検出下限値 (0.0002Bq/m³) 未満

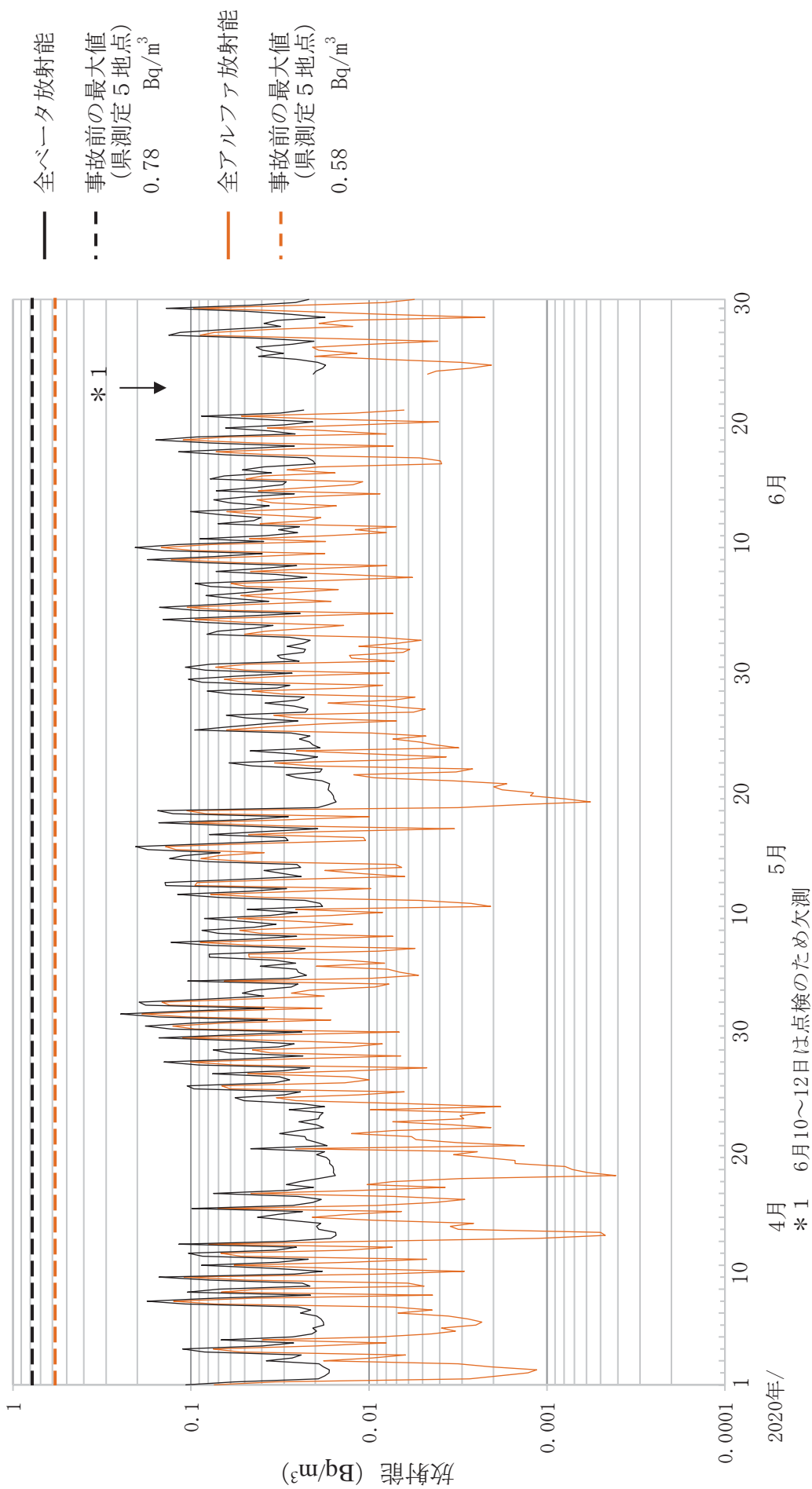
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

6 富岡町富岡
(令和2年4月1日～6月30日)



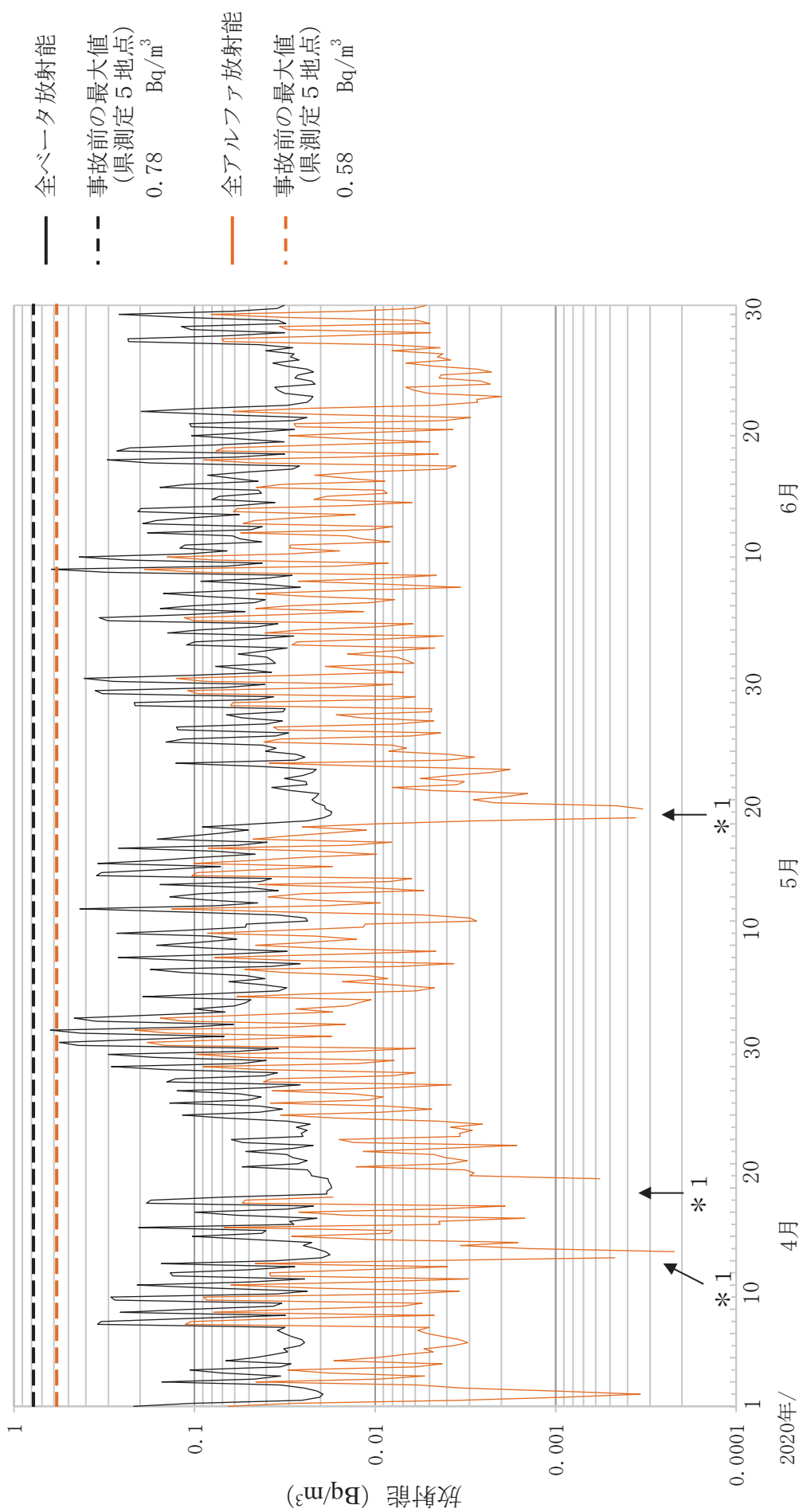
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

7 川内村下川内
(令和2年4月1日～6月30日)



大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

8 大熊町大野
(令和2年4月1日～6月30日)

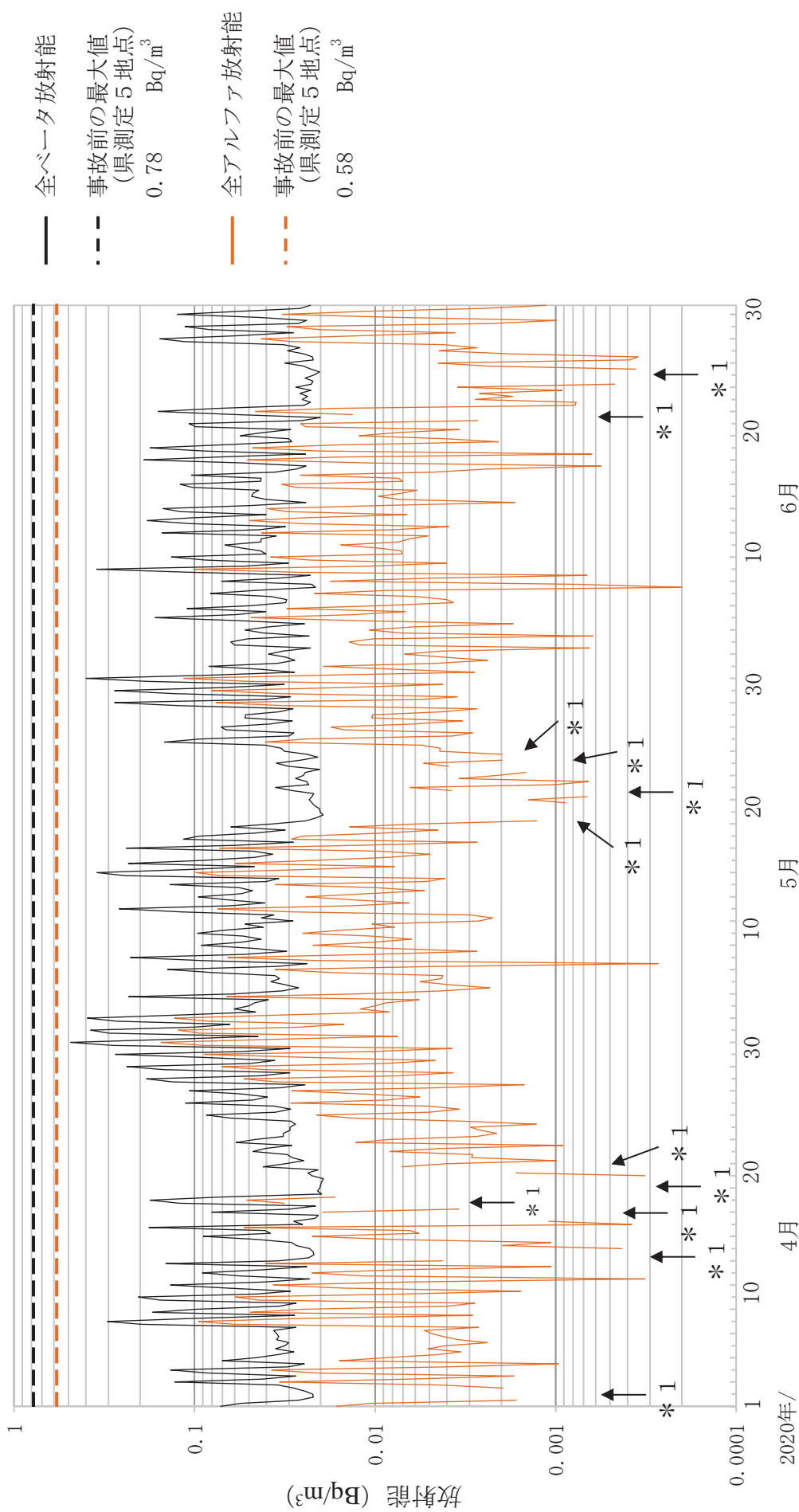


測定地点を、福島県旧原子力センターから大熊町旧役場庁舎に令和2年4月1日から変更した。

*1 全アルファ放射能が表示されていない箇所は検出下限値 (0.0002Bq/m³) 未満

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

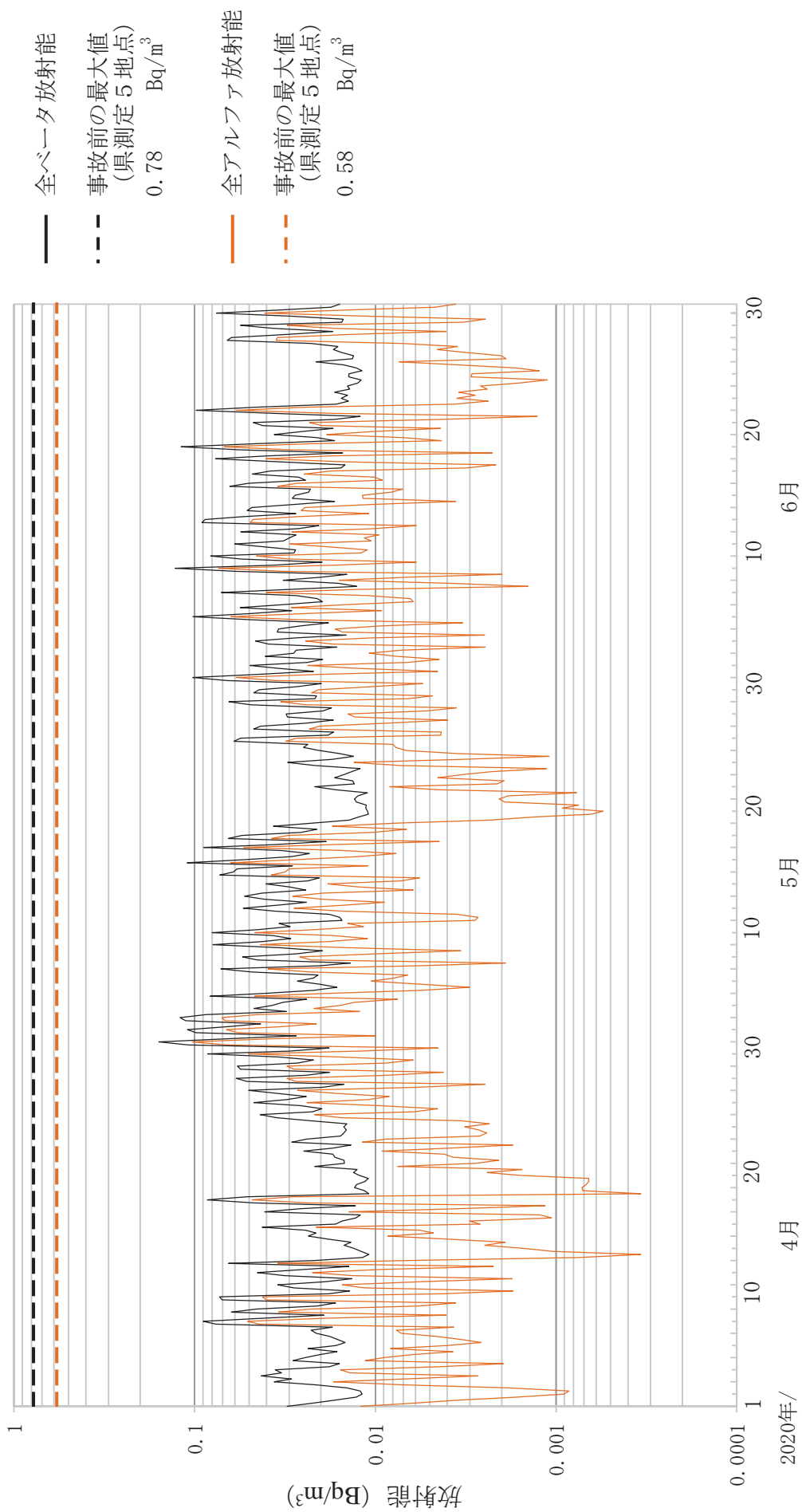
9 大熊町夫沢
(令和2年4月1日～6月30日)



* 1 全アルファ放射能が表示されていない箇所は検出下限値 (0.0002Bq/m³) 未満

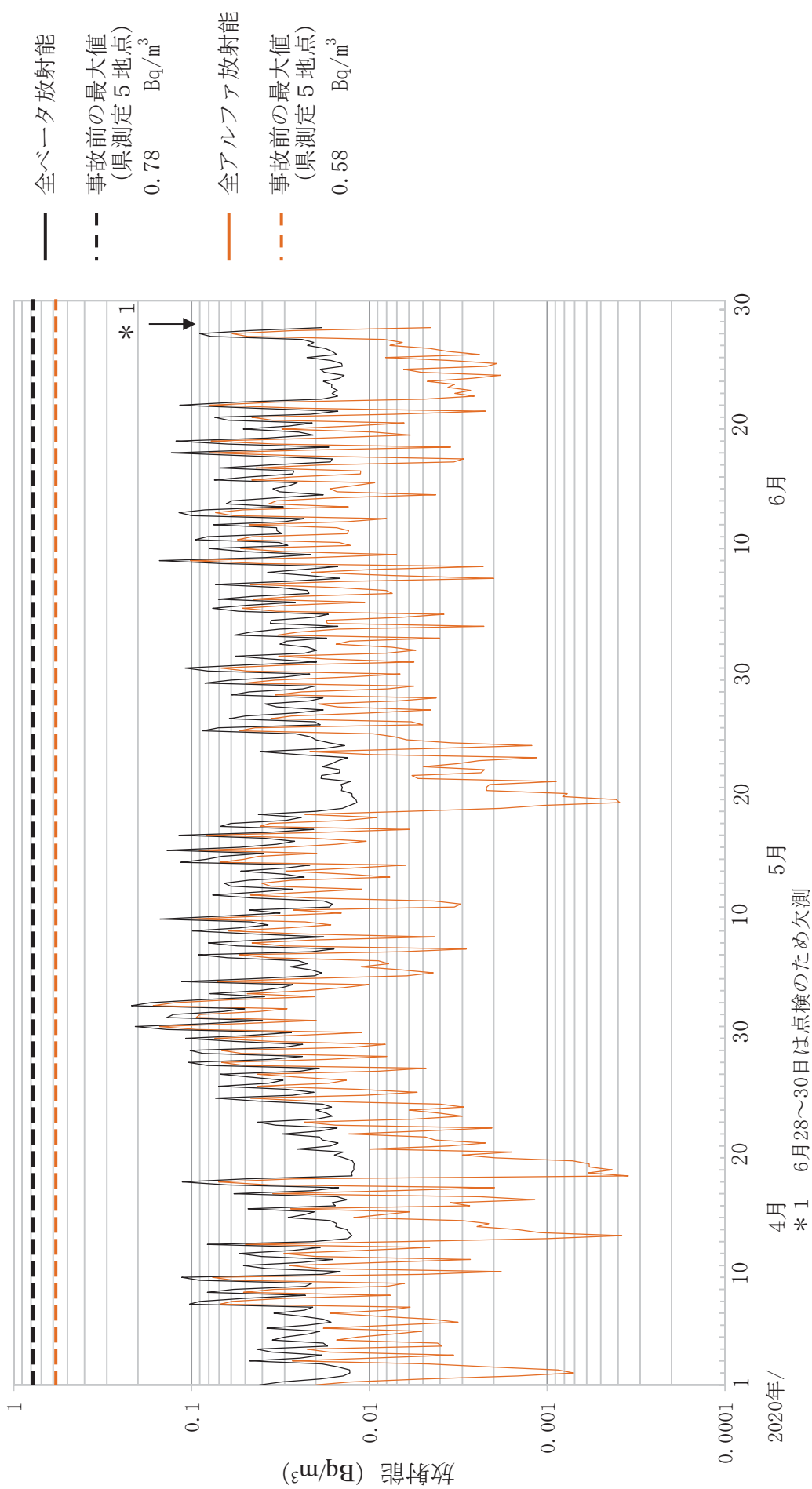
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

10 双葉町郡山
(令和2年4月1日～6月30日)



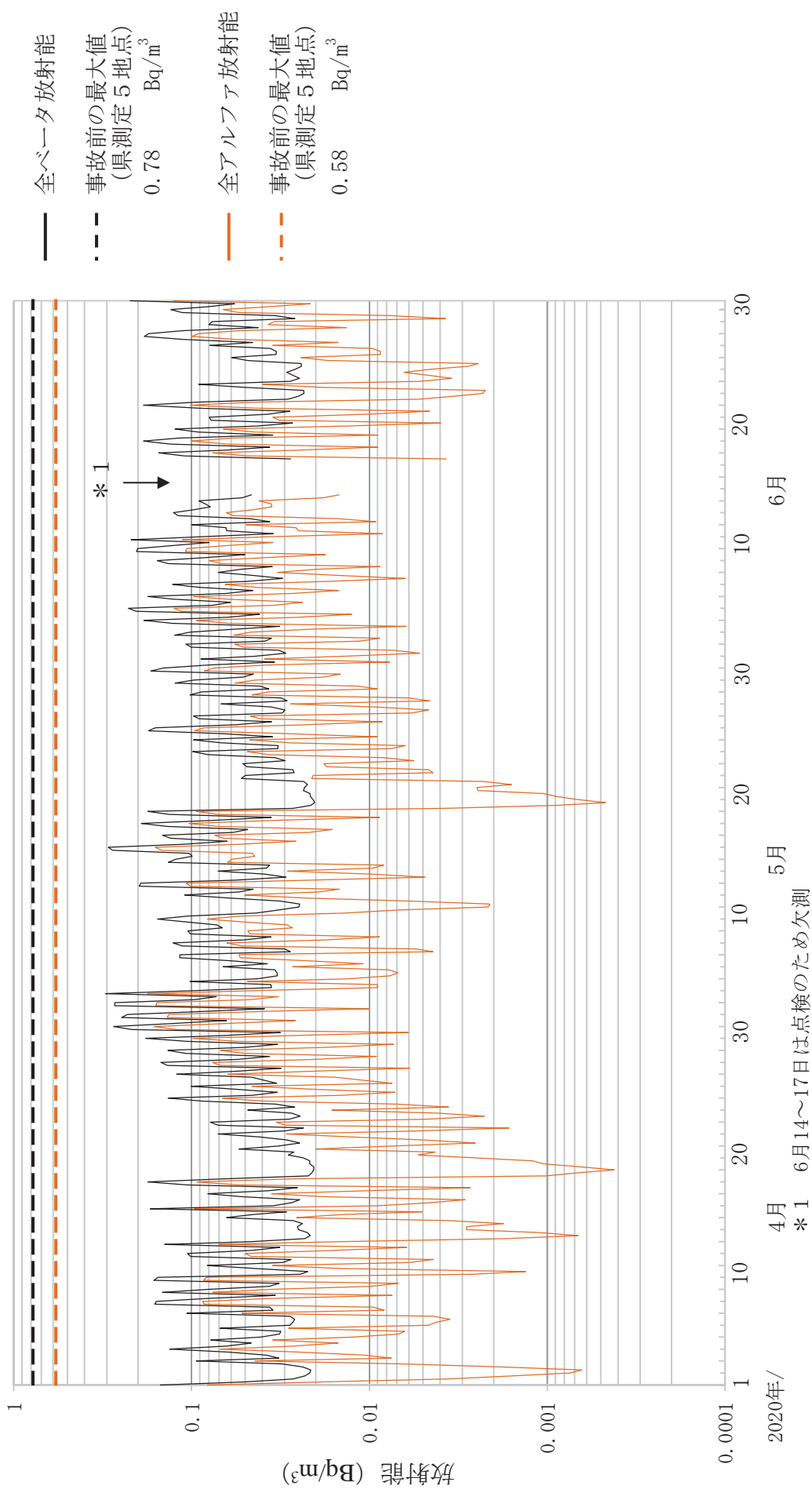
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

11 浪江町幾世橋
(令和2年4月1日～6月30日)



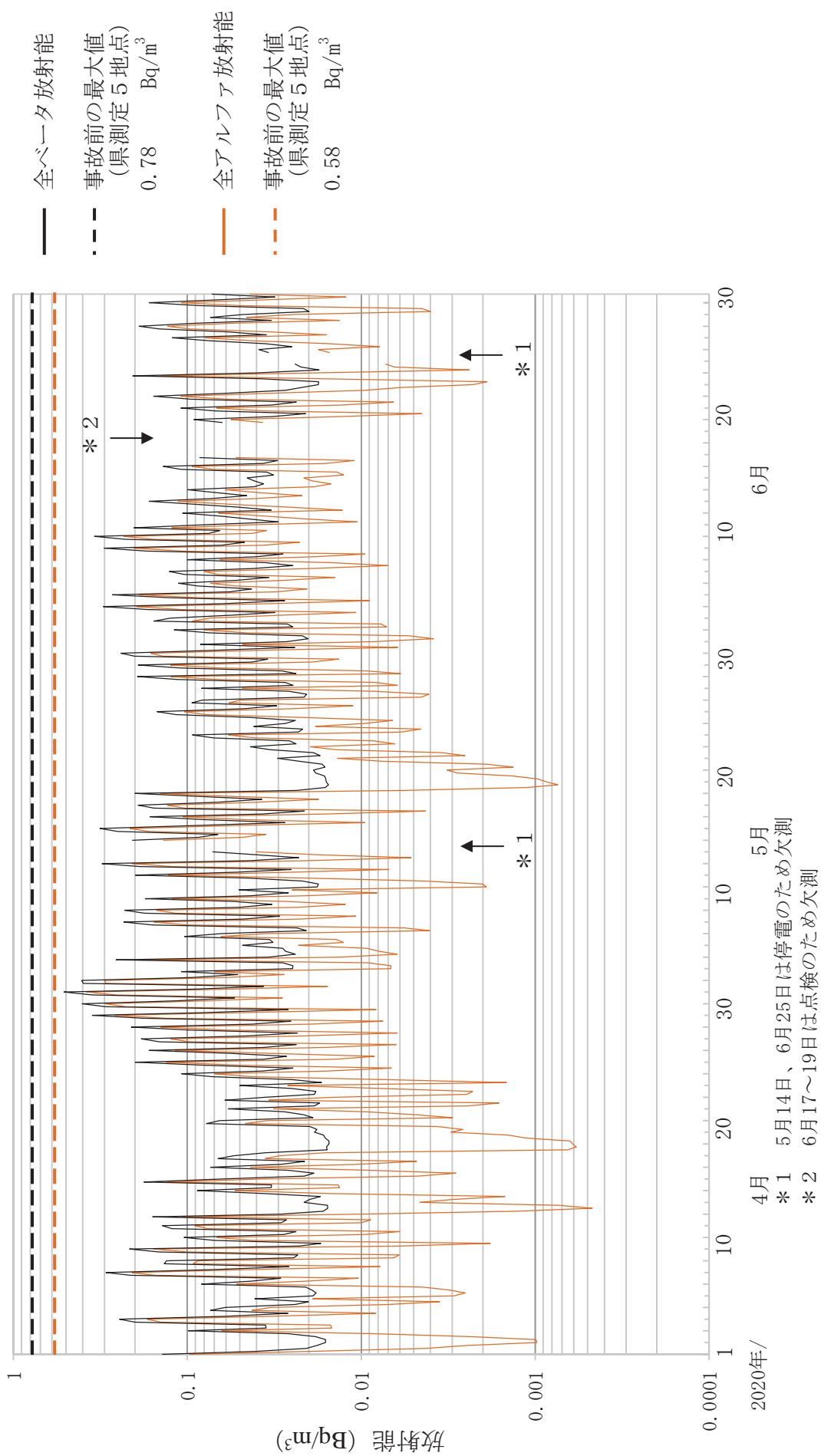
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

12 浪江町大柿ダム
(令和2年4月1日～6月30日)



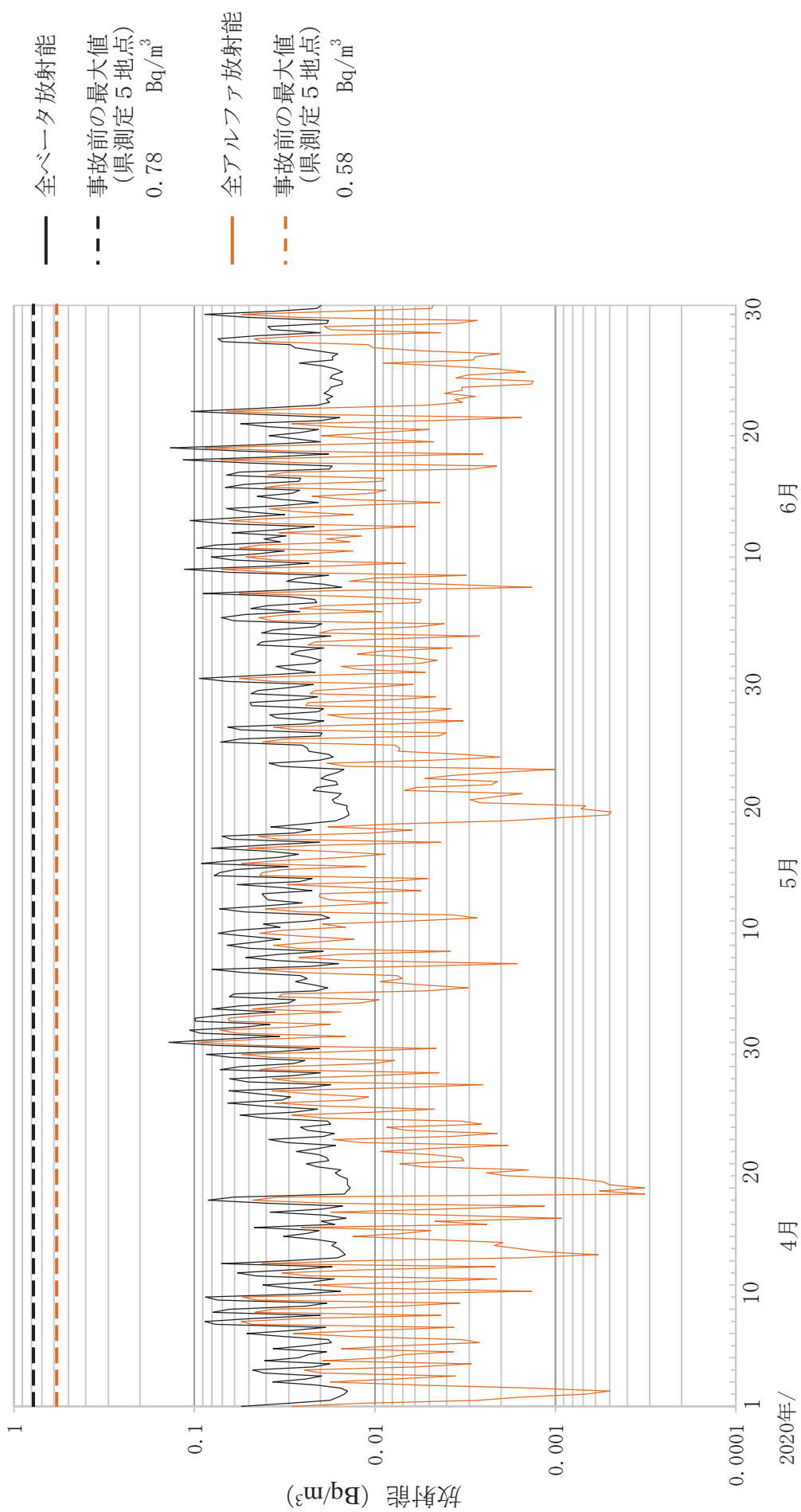
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

13 葛尾村夏湯
(令和2年4月1日～6月30日)



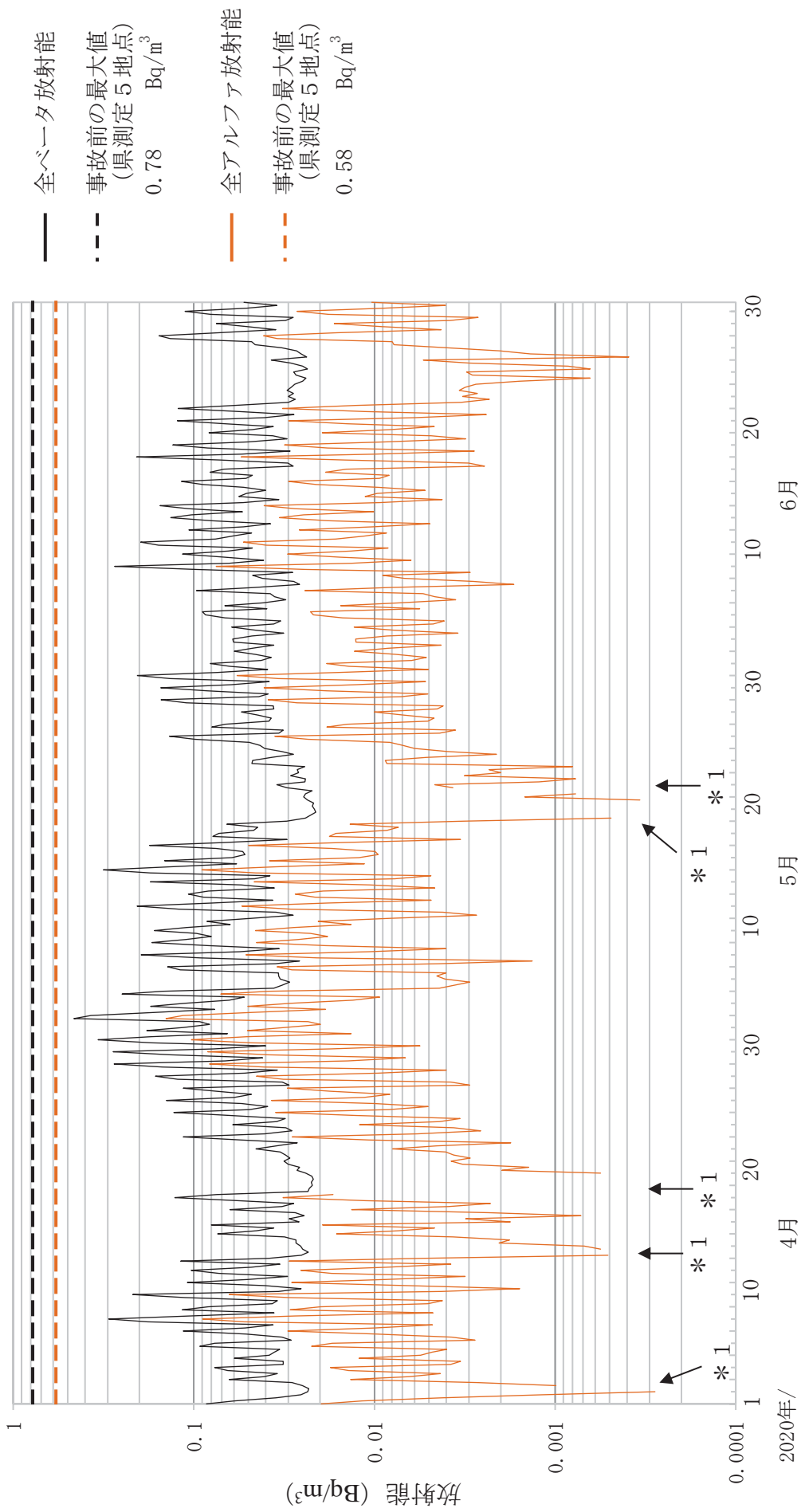
大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

14 南相馬市泉沢
(令和2年4月1日～6月30日)



大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

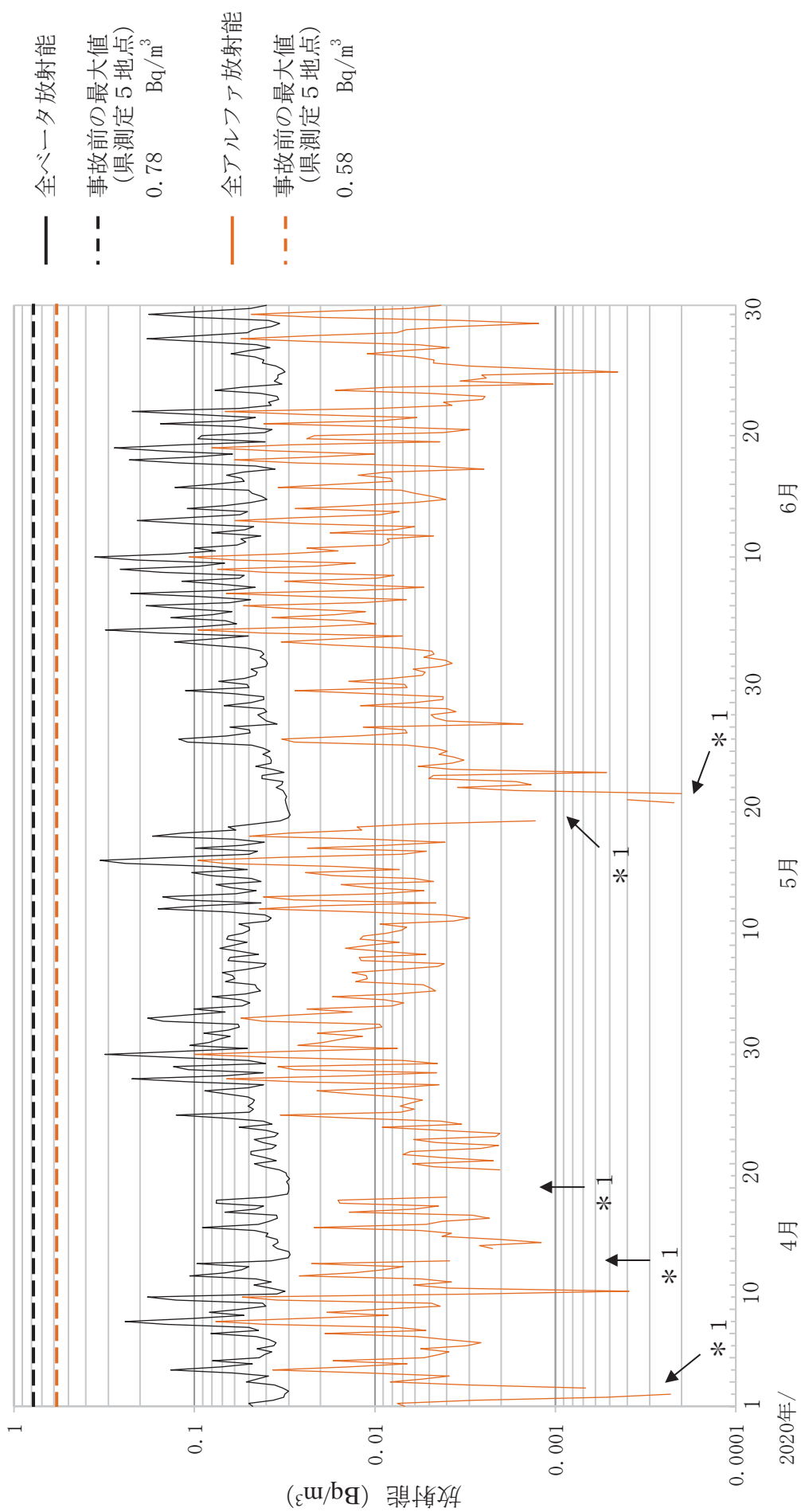
15 南相馬市菅浜
 (令和2年4月1日～6月30日)



* 1 全アルファ放射能が表示されていない箇所は検出下限値 (0.0002Bq/m³) 未満

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

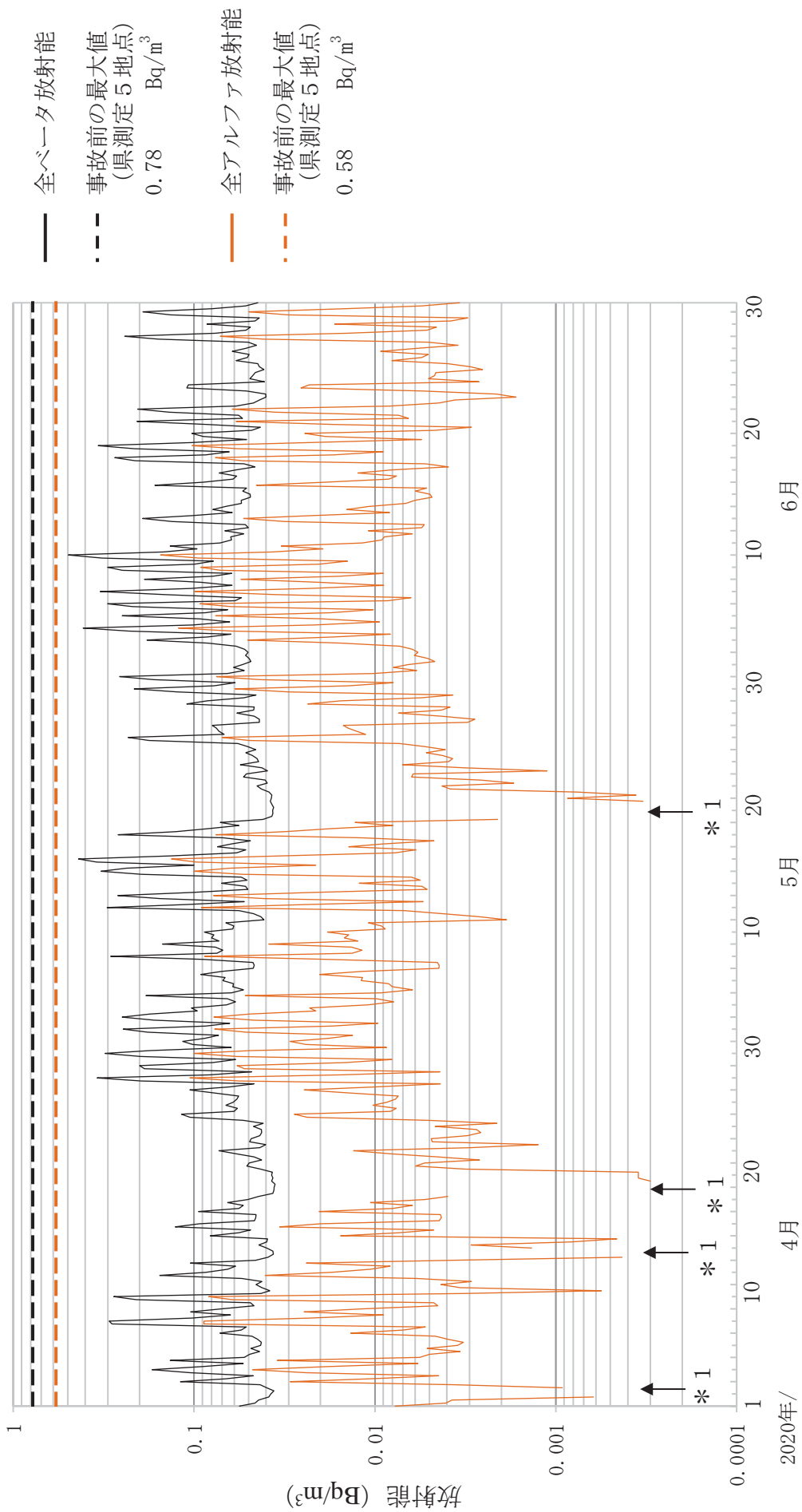
16 飯館村伊丹沢
(令和2年4月1日～6月30日)



* 1 全アルファ放射能が表示されていない箇所は検出下限値 (0.0002Bq/m³) 未満

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

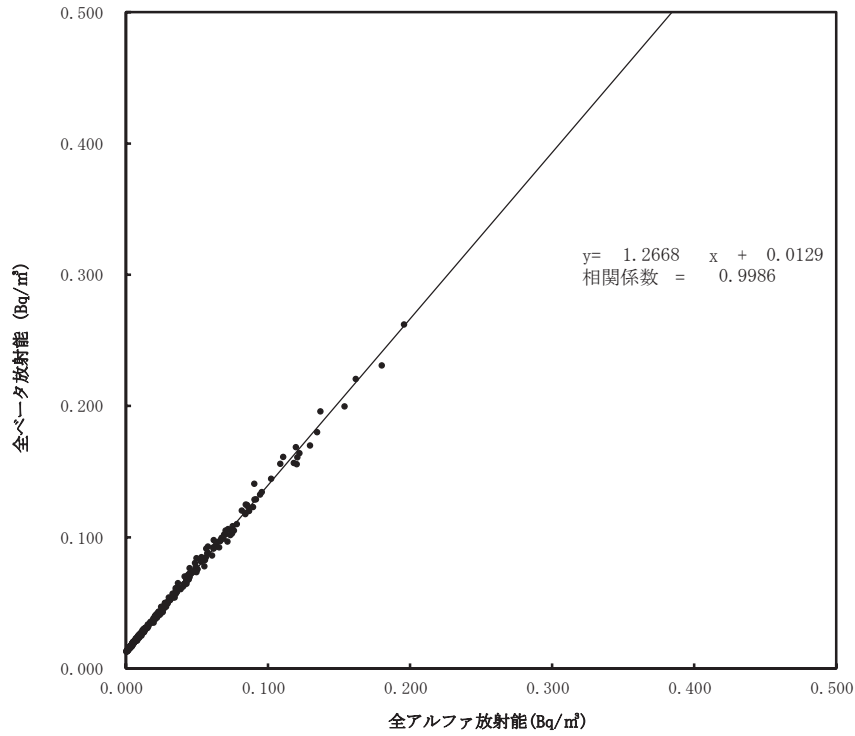
17 川俣町山木屋
(令和2年4月1日～6月30日)



*1 全アルファ放射能が表示されていない箇所は検出下限値 (0.0002Bq/m³) 未満

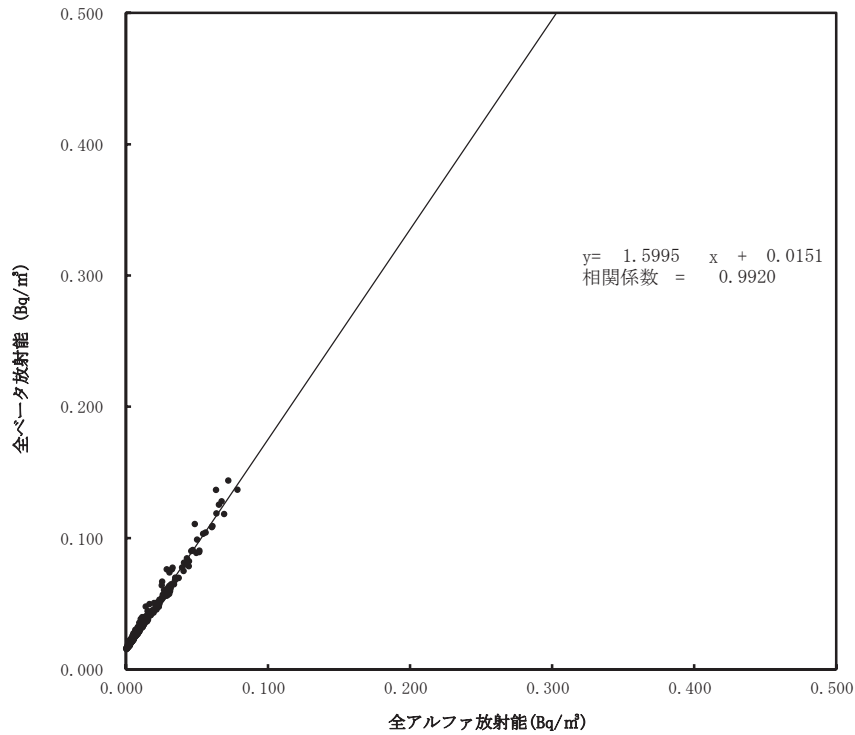
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(いわき市小川)



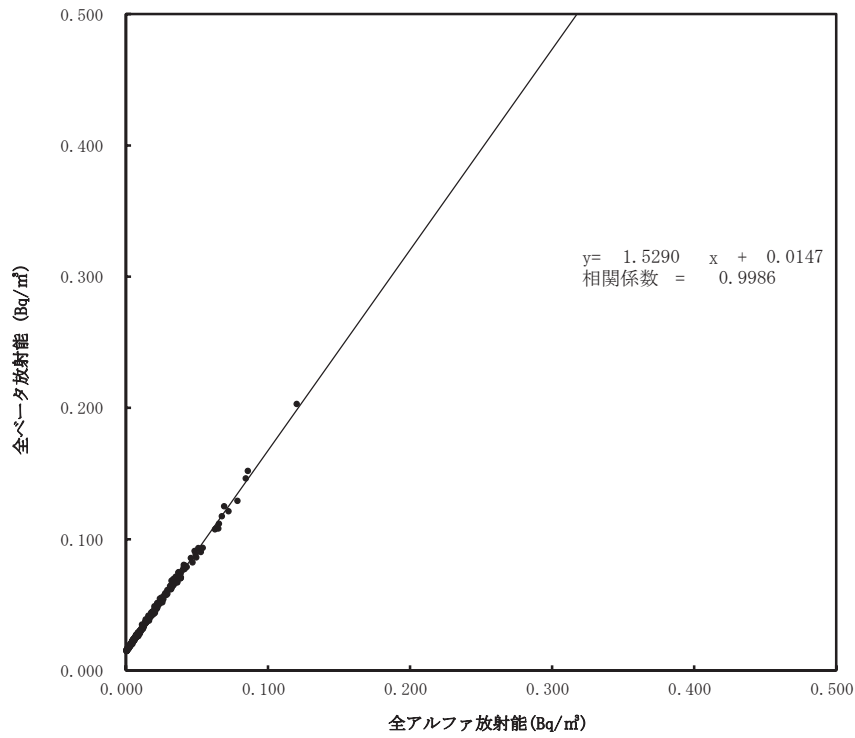
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(田村市都路馬洗戸)



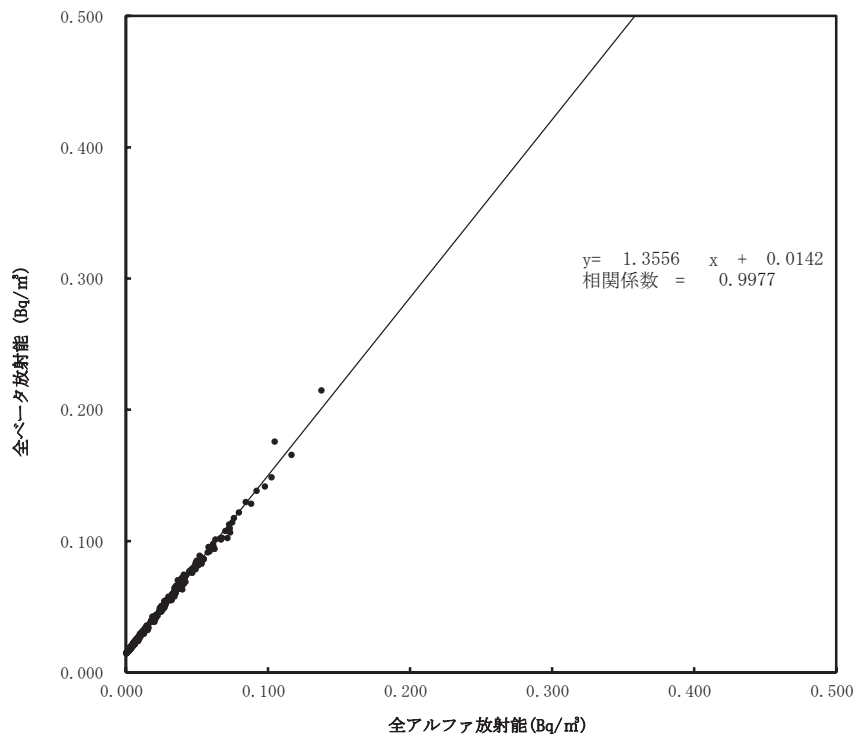
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(広野町小滝平)



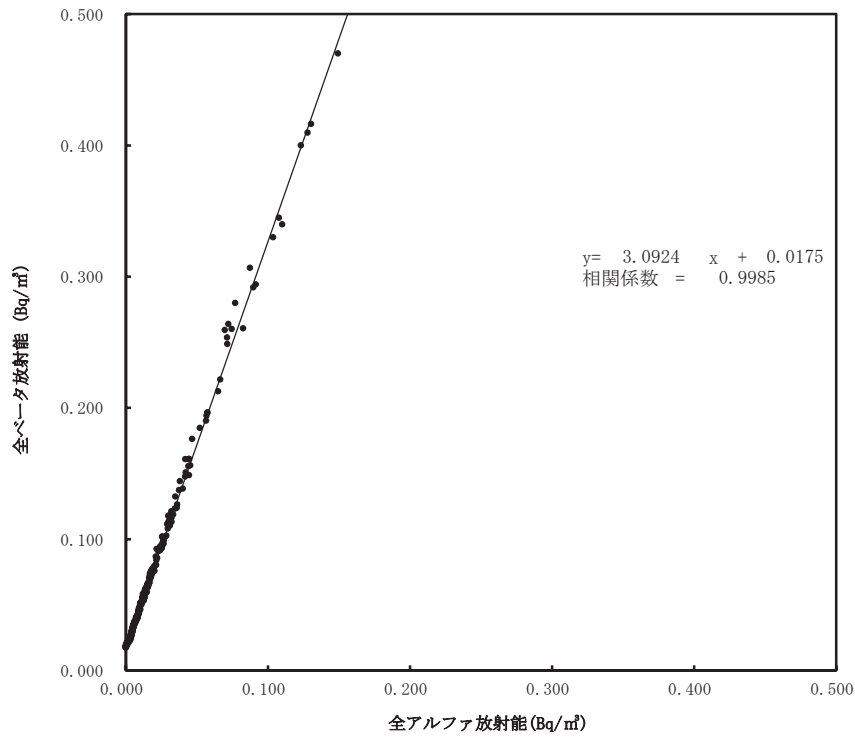
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(檜葉町木戸ダム)



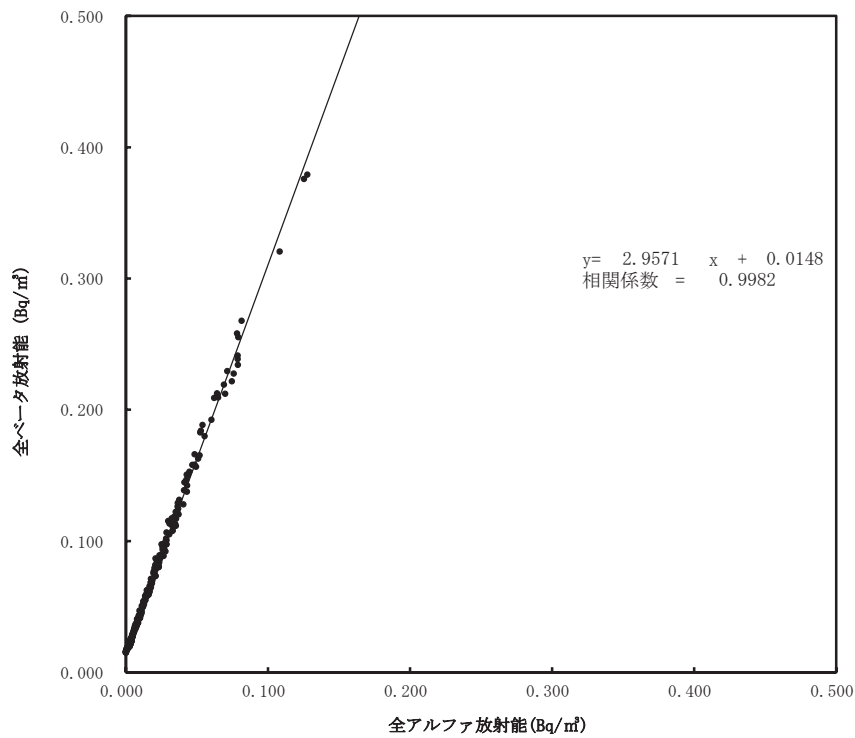
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(檜葉町繁岡)



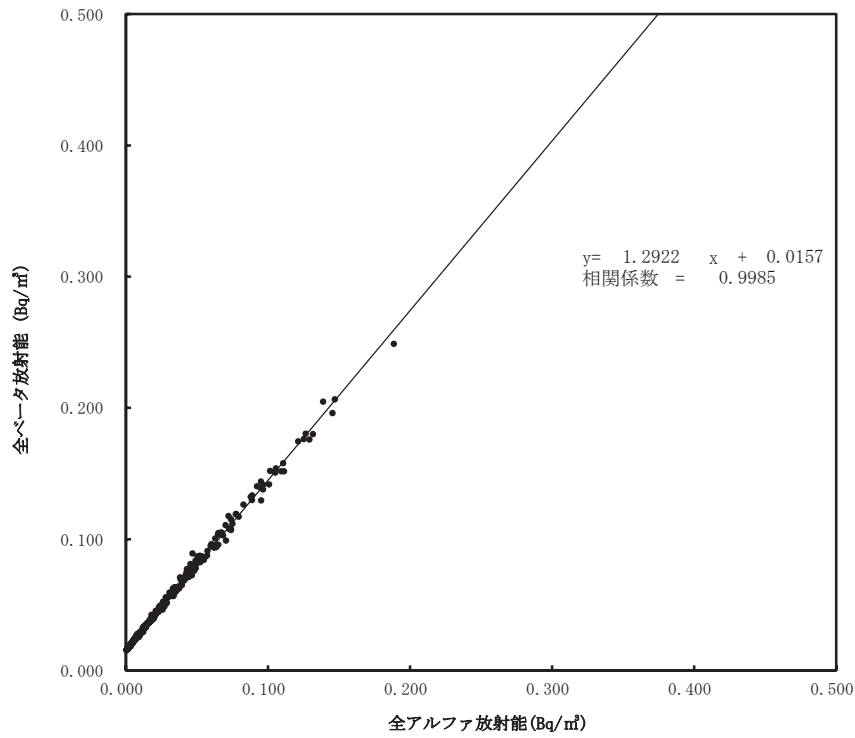
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(富岡町富岡)



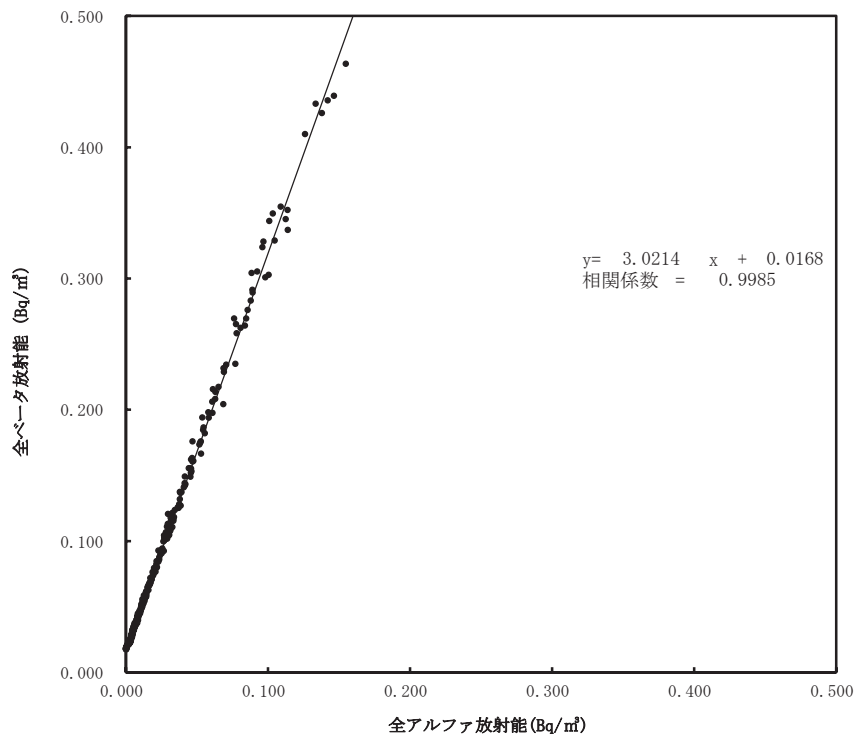
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(川内村下川内)



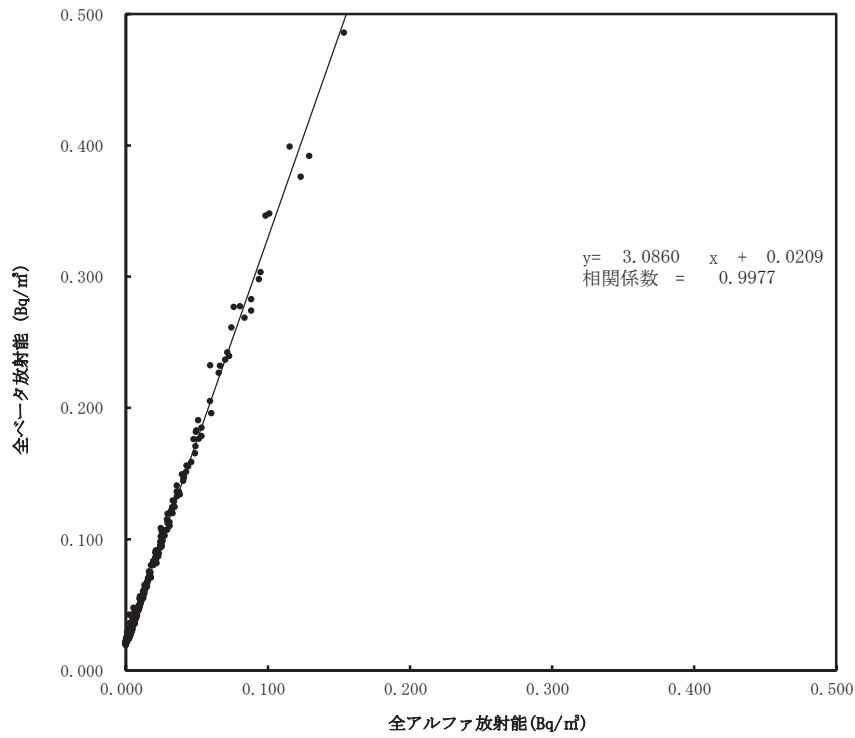
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(大熊町大野)



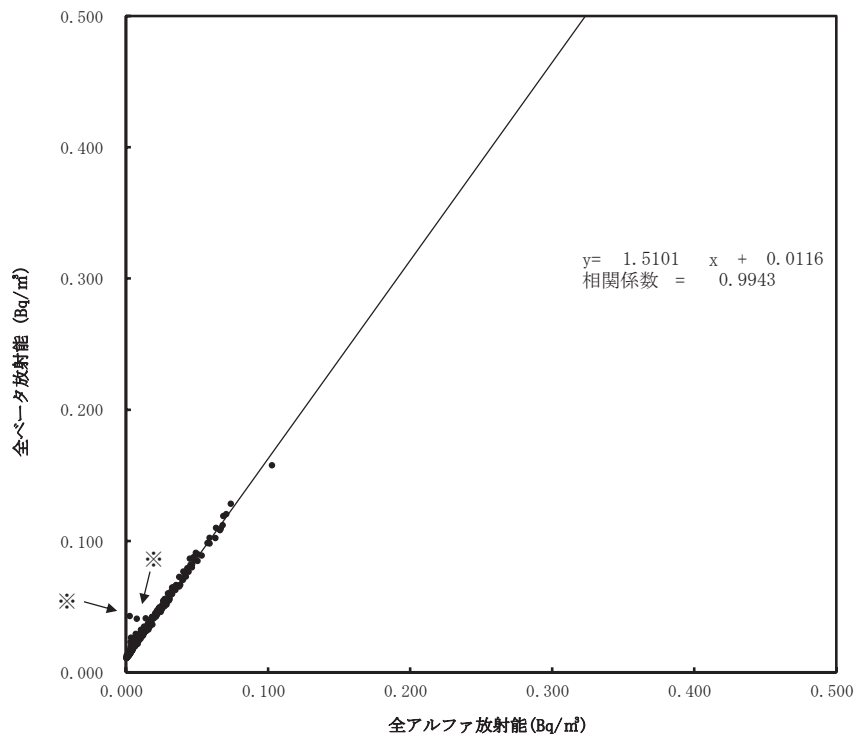
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(大熊町夫沢)



大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

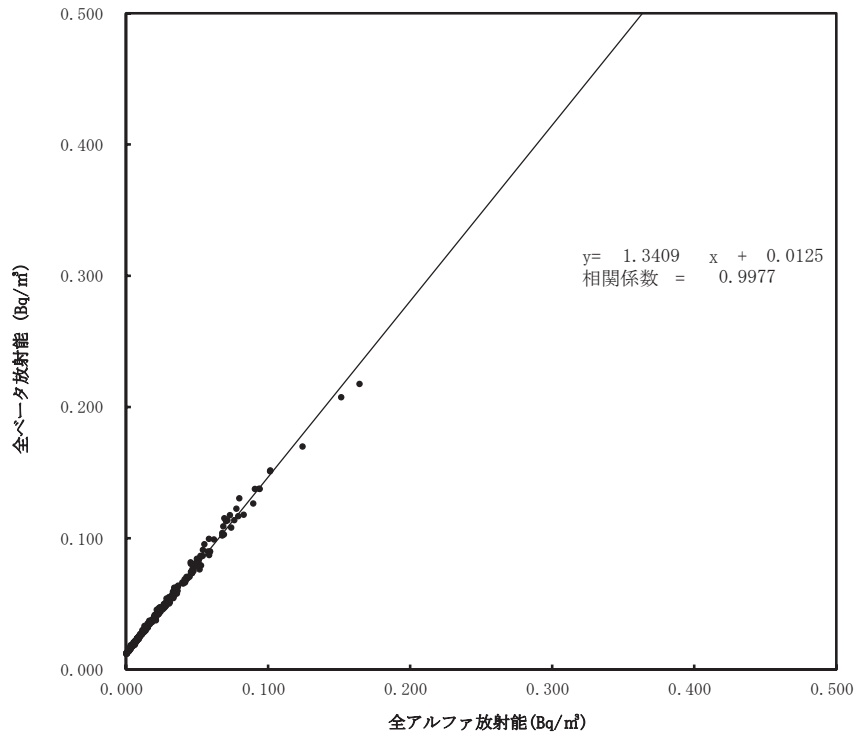
(令和2年4月～6月)
(双葉町郡山)



※全アルファ放射能及び全ベータ放射能の相関直線から外れた試料については個別に核種濃度を測定した。
この結果、Cs-137とCs-134は福島第一原子力発電所の事故に伴い平成23年当時に周辺環境へ放出されたものと推定される存在比で検出され、その他の核種は検出されていないことを確認した。

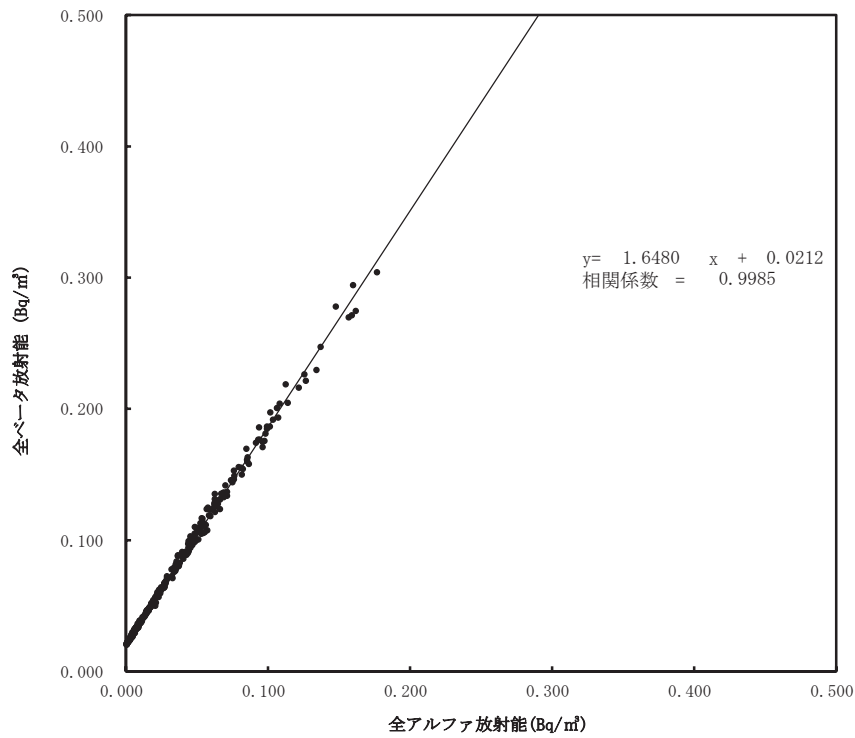
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(浪江町幾世橋)



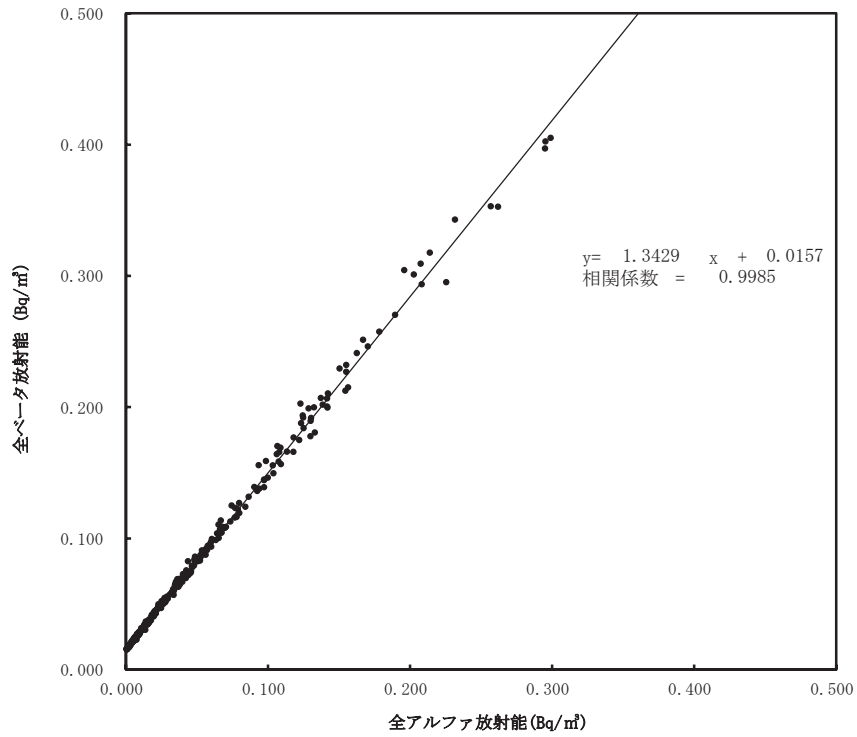
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(浪江町大柿ダム)



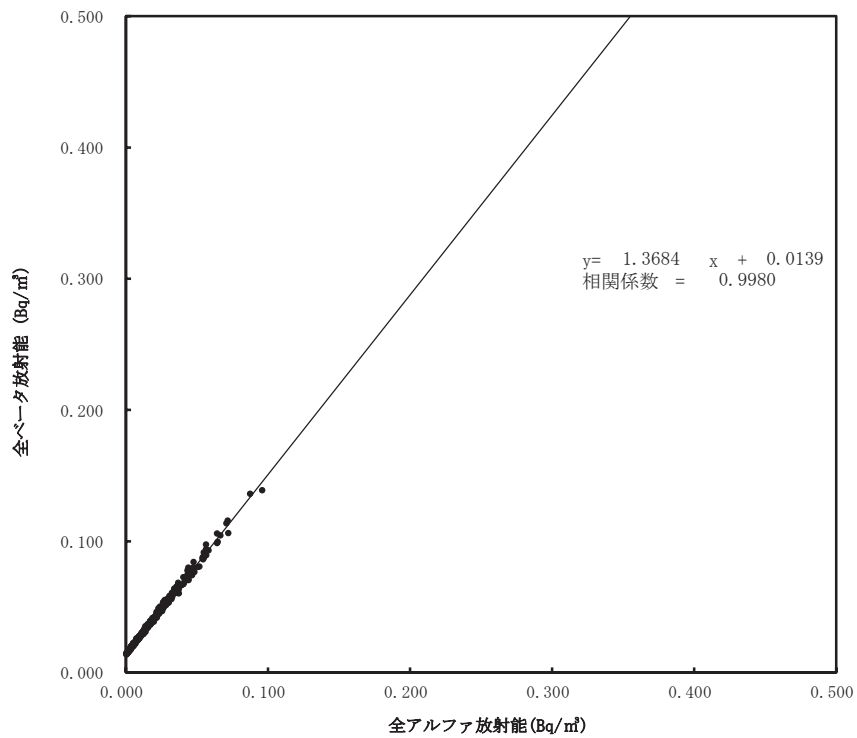
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(葛尾村夏湯)



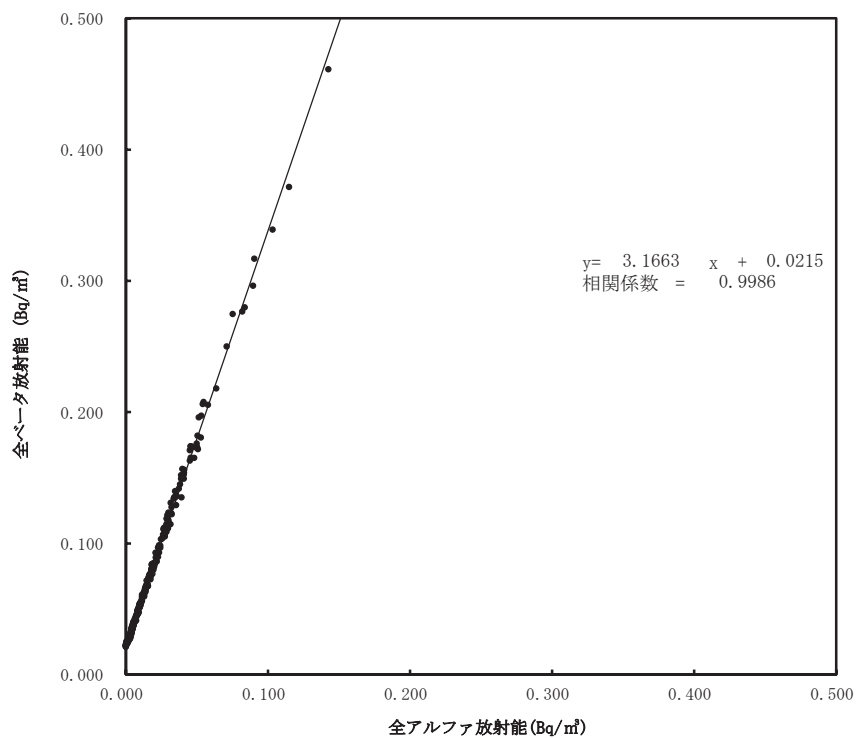
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(南相馬市泉沢)



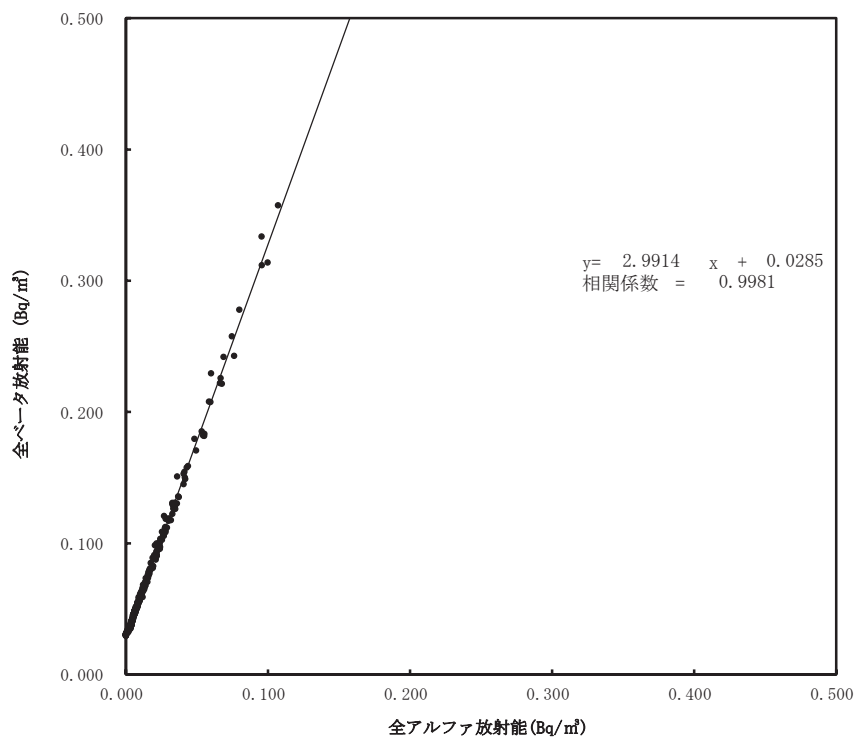
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(南相馬市萱浜)



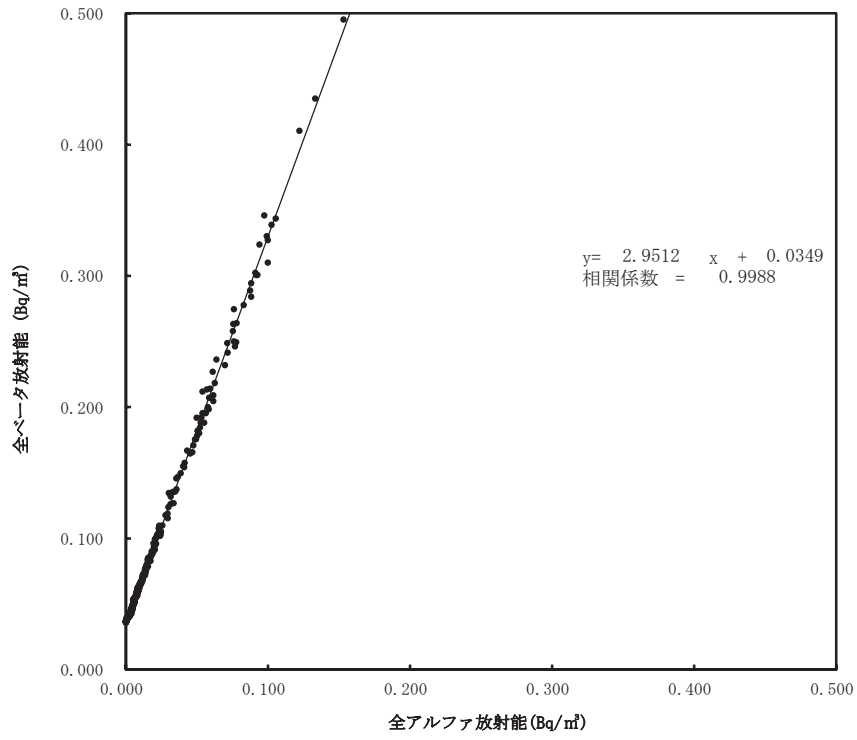
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(飯館村伊丹沢)



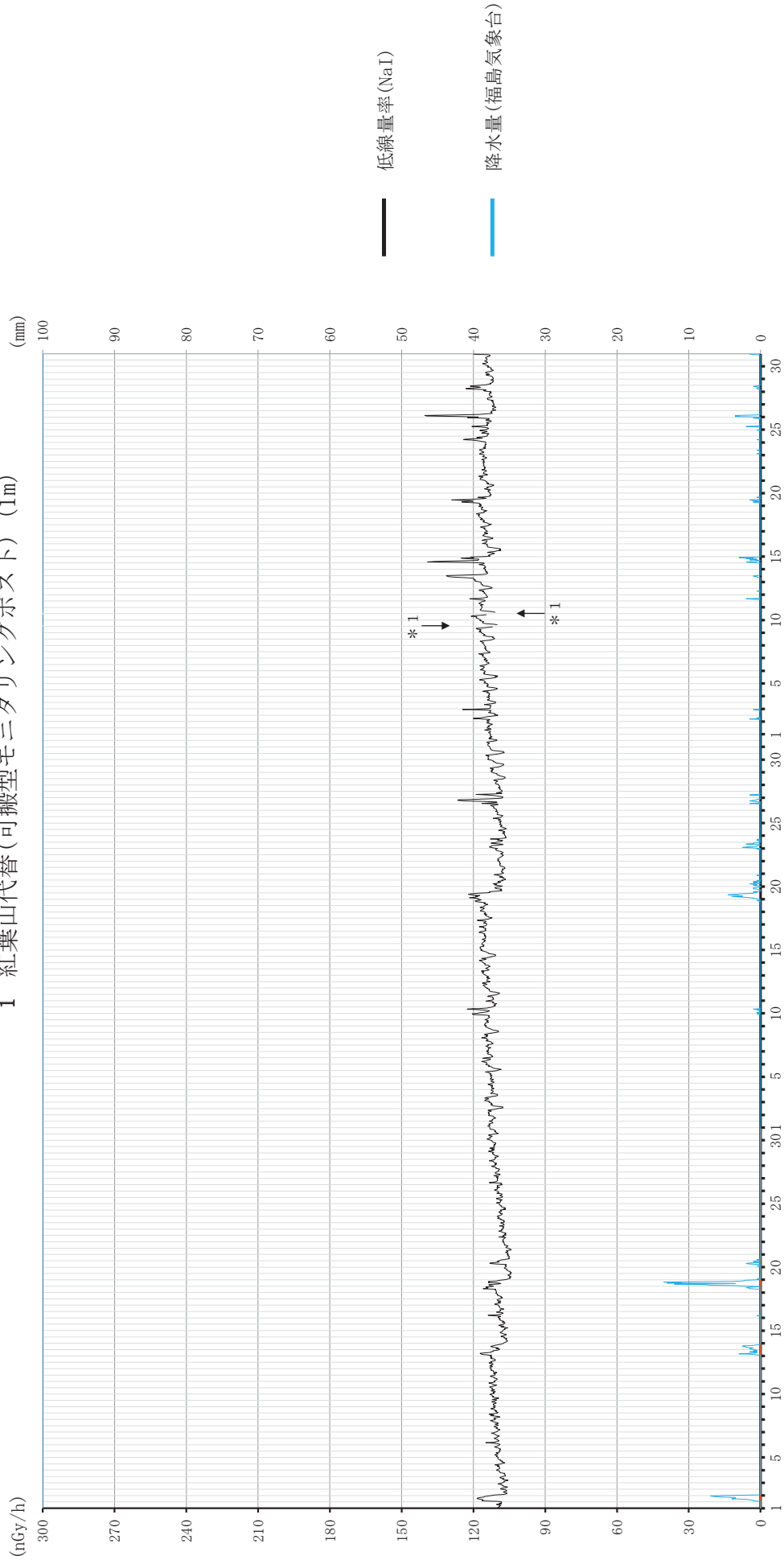
大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(令和2年4月～6月)
(川俣町山木屋)



空間線量率の変動グラフ

1 紅葉山代替(可搬型モニタリングポスト) (1m)

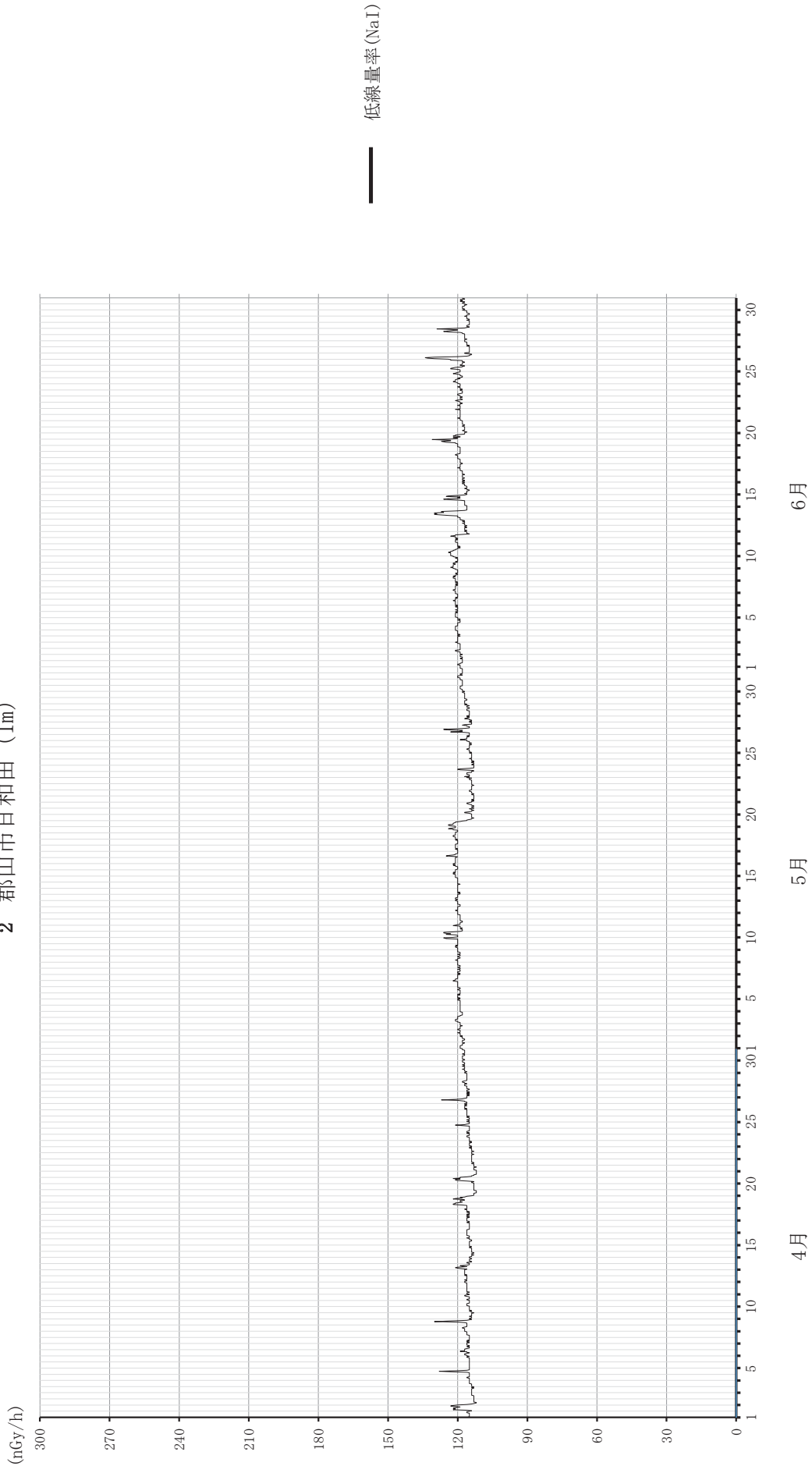


4月 5月 6月

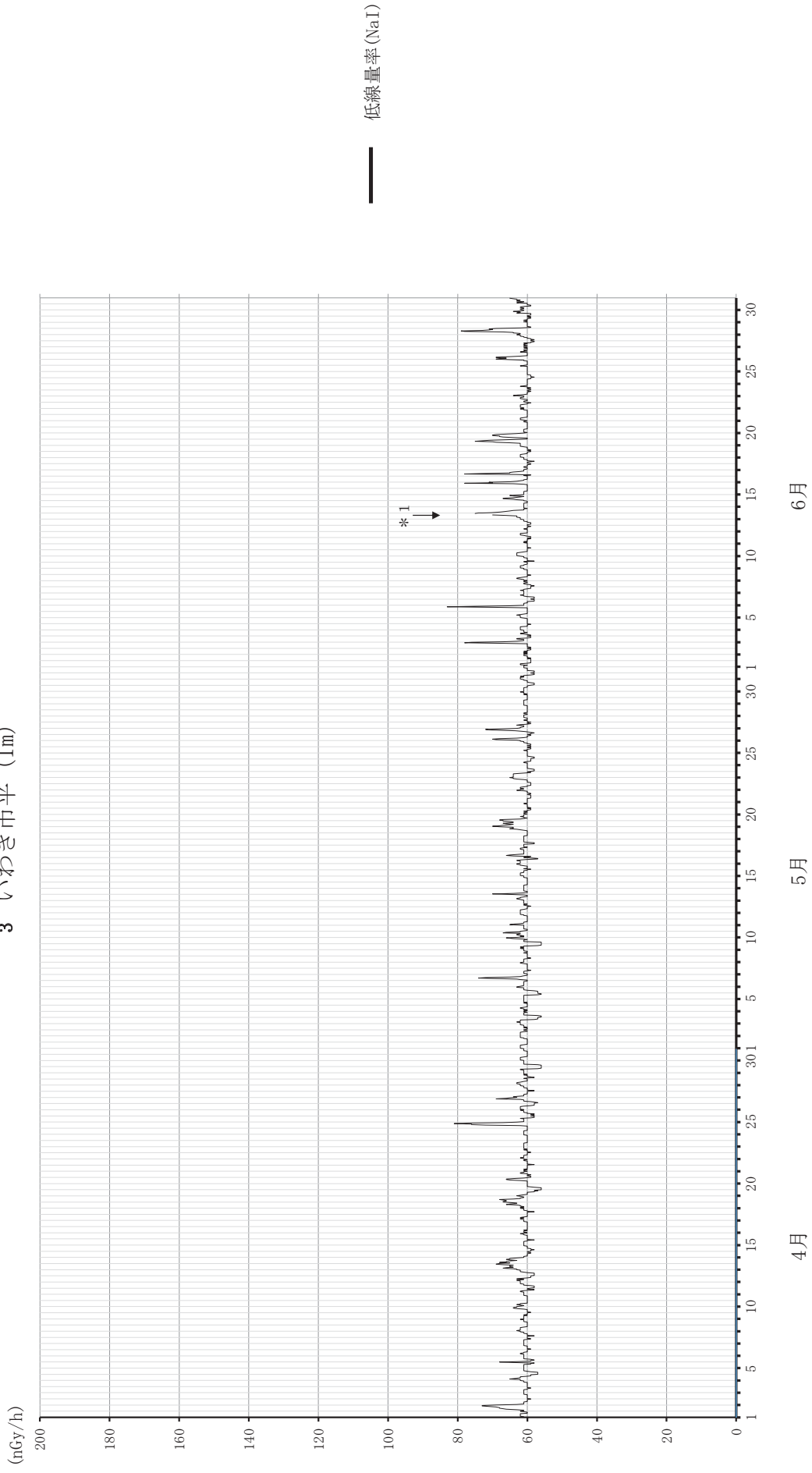
* 1 6月9日、10日は検出部の温度異常のため欠測

可搬型モニタリングポストには温度制御装置が装備されていないため、線量率が気温の変動による影響を受けて日周期で変動する。

空間線量率の変動グラフ
2 郡山市日和田 (1m)



空間線量率の変動グラフ 3 いわき市平 (1m)



*1 6月13日は電気設備点検のため欠測